資料４―１

# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
# 結果報告書

令和５年３月

大　野　市

# 目　次

Ⅰ．調査の概要 1
１．調査の概要 1
２．本報告書の留意点 1
Ⅱ．調査結果 2
１．回答者の属性 2
（１）性別 2
（２）年齢 2
（３）居住地 3
（４）介護認定の状況 4
２．回答者の家族や生活状況について 5
（１）家族構成 5
（２）介護・介助の必要性 6
（３）経済的な状況 8
（４）お住まいについて 8
３．からだを動かすことについて 10
（１）日常の動作について 10
（２）転倒について 14
（３）運動器の機能低下について 17
４．外出・移動手段について 18
（１）外出の状況 18
（２）移動手段 21
５．食べることについて 23
（１）低栄養の傾向 23
（２）口腔機能の低下 24
（３）歯の状態 25
（４）食事環境 26
６．毎日の生活について 27
（１）認知機能の低下 27
（２）自身での行動について 28
（３）ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）について 34
（４）必要な生活支援サービスについて 35
（５）インターネットの利用について 40
７．地域での活動について 42
（１）各種地域活動への参加状況 42
（２）地域活動への参加意向 43

８．たすけあいについて ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 46
（１）心配事など ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 46
（２）看病や世話 ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 47
（３）たすけあいやボランティアへの参加意向 ･･････････････････････････････････ 48
９．健康状態について ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 50
（１）主観的健康観 ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 50
（２）幸福度 ･･････････････････････････････････････････････････････････････････ 51
（３）うつ傾向 ･･････････････････････････････････････････････････････････････････ 52
（４）喫煙について ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 54
（５）現在治療中、または後遺症のある病気について ･･････････････････････････････ 55
10．認知症について ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 57
（１）認知症の症状 ･･････････････････････････････････････････････････････････････ 57
（２）認知症についての相談窓口の認知度 ･･････････････････････････････････････････ 58

# Ⅰ．調査の概要

## １．調査の概要

高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画策定にあたって、高齢者の生活状況や支援ニーズ、地域課題等を把握するため、国の示す調査手法に基づき、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施しました。

**調査目的・対象者・回収率等**

| 項目 | 内　容 |
|---|---|
| 対象者 | ①65 歳以上の要介護認定を受けていない方（無作為抽出 500 人）及び②要支援認定者で市内にある事業所で居宅サービス及び地域密着型サービスを利用している方（300 人） |
| 調査方法 | 郵送法（郵送による配布・回収） |
| 調査時期 | 令和４年 11 月～12 月 |

| 中学校区 | 配布数(A) | | | 有効回収数(B) | | | 有効回収率(B/A) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ①一般 | ②居宅 | | ①一般 | ②居宅 | |
| 陽明中学校区 | 280 | 120 | 160 | 265 | 106 | 159 | 94.6% |
| 開成中学校区 | 170 | 120 | 50 | 123 | 75 | 48 | 72.4% |
| 上庄中学校区 | 130 | 100 | 30 | 103 | 73 | 30 | 79.2% |
| 尚徳中学校区 | 150 | 100 | 50 | 125 | 76 | 49 | 83.3% |
| 和泉中学校区 | 70 | 60 | 10 | 56 | 47 | 9 | 80.0% |
| 合計 | 800 | 500 | 300 | 672 | 377 | 295 | 84.0% |

## ２．本報告書の留意点

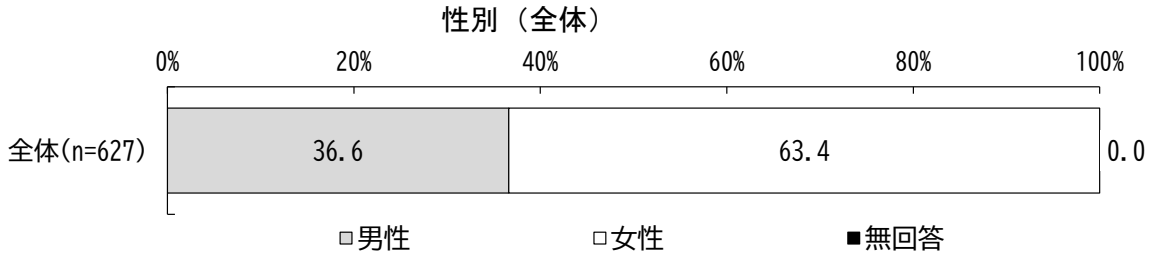
・比率は百分率（%）で表し、小数点以下２位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が 100%を上下する場合もあります。
・基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を 100%として算出しています。
・グラフに【複数回答】とある問は、１人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は 100%を超える場合があります。
・問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。

# Ⅱ．調査結果

## １．回答者の属性

### （１）性別

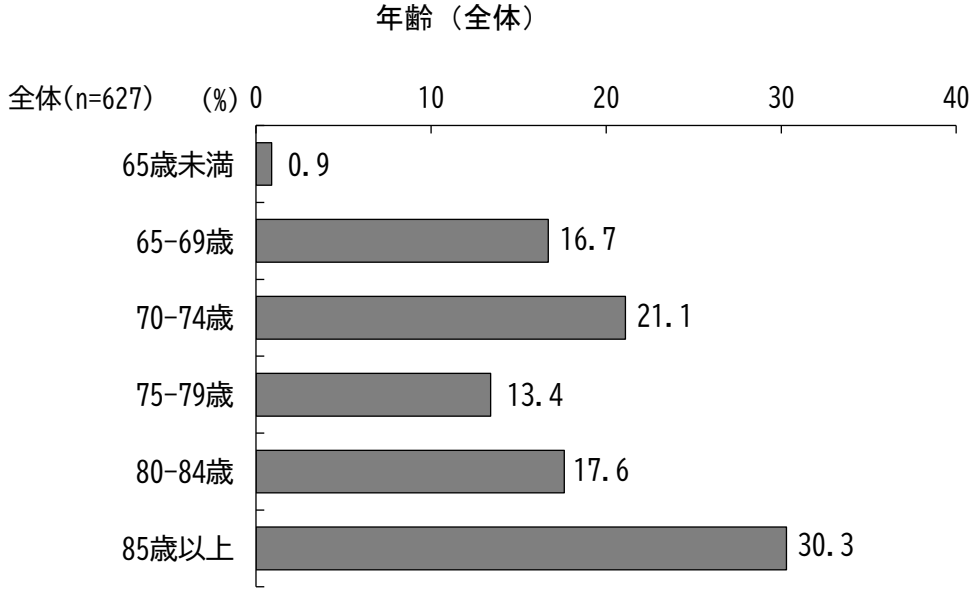
回答者の性別は、「女性」が 63.4%、「男性」が 36.6%となっています。




### （２）年齢

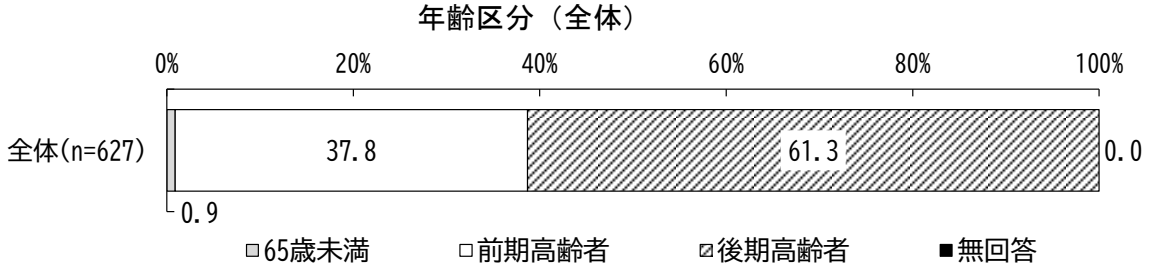
①年齢

回答者の年齢は、「90 歳以上」が 30.3%で最も多く、次いで「70-74 歳」(21.1%)、「80-84 歳」（17.6%)、「65-69 歳」（16.7%)、「75-79 歳」（13.4%）が続き、「65 歳未満」が 0.9%となっています。



### ②年齢区分

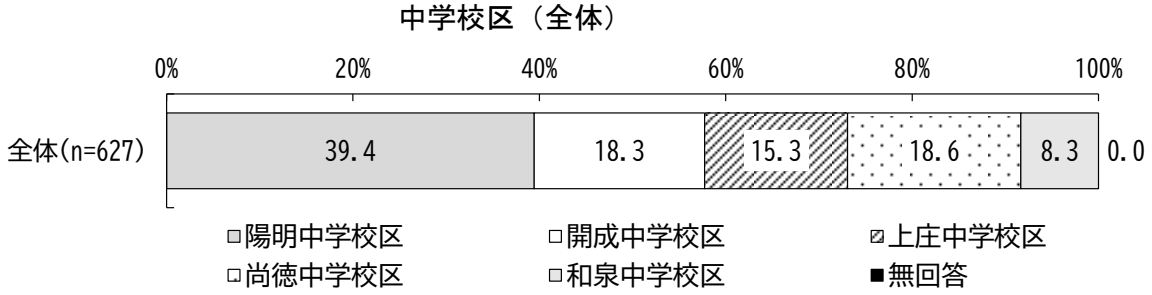
回答者の年齢区分は、「後期高齢者」が 61.3%、「前期高齢者」が 37.8%、「65 歳未満」が 0.9%となっています。




## （３）居住地

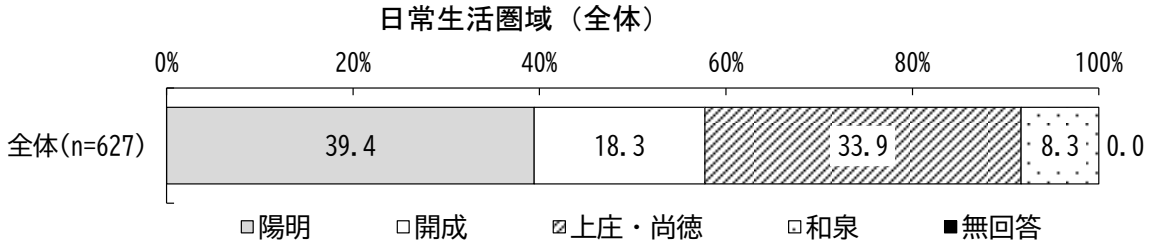
### ①中学校区

回答者の中学校区は、「陽明中学校区」が 39.4%で最も多く、次いで「尚徳中学校区」（18.6%）、「開成中学校区」（18.3%）、「上庄中学校区」（15.3%）が続き、「和泉中学校区」が 8.3%となっています。




### ②日常生活圏域

回答者の日常生活圏域は、「陽明」が 39.4%で最も多く、次いで「上庄・尚徳」（33.9%）、「開成」（18.3%）が続き、「和泉」が 8.3%となっています。

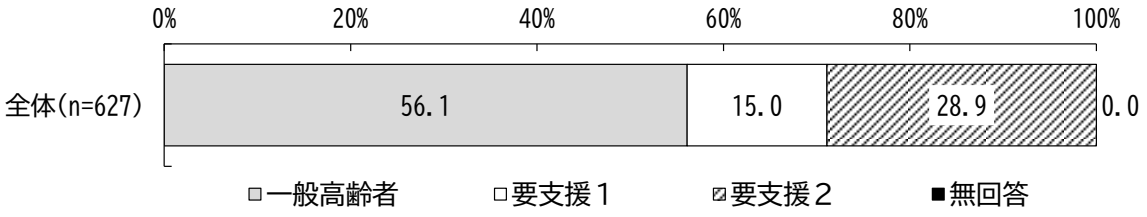


## （４）介護認定の状況

### ①認定区分

回答者の介護認定の区分は、「一般高齢者」が 56.1%、「要支援２」が 28.9%、「要支援１」が 15.0%となっています。

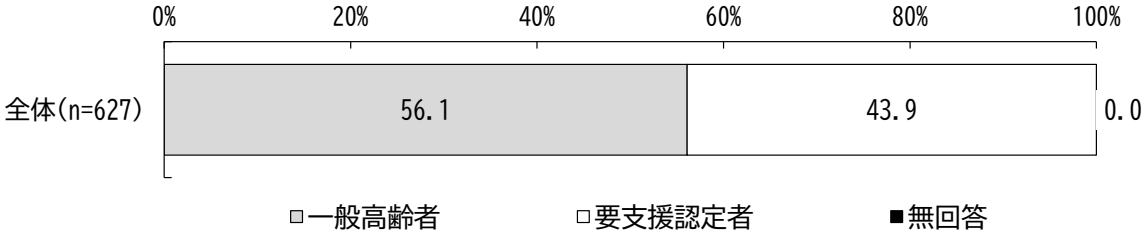
認定区分（全体）




### ②認定状況

回答者の介護認定の状況は、「一般高齢者」が 56.1%、「要支援認定者」が 43.9%となっています。

認定状況（全体）



# ２．回答者の家族や生活状況について

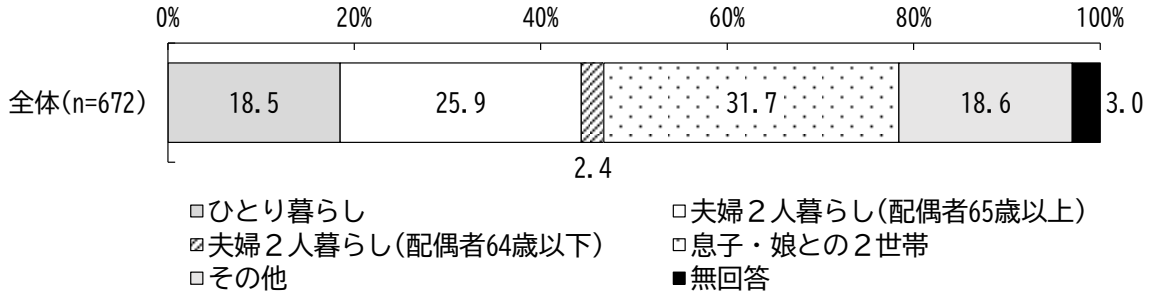
## （１）家族構成

| 設問 | 問１（１）家族構成をお教えください |
|---|---|

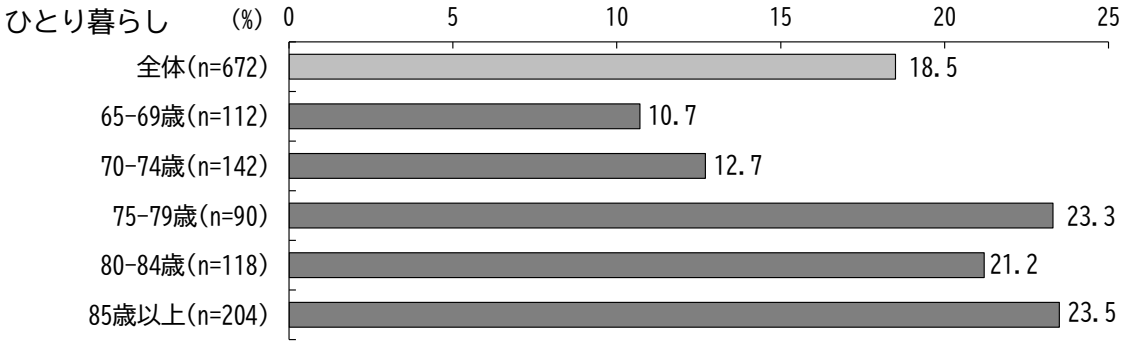
家族構成については、「息子・娘との２世帯」が 31.7％で最も多く、次いで「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 25.9％で続きます。また、「ひとり暮らし」は 18.5％となっています。

「ひとり暮らし」の割合を年齢別でみると、75 歳以上で２割強となっています。また、中学校区別でみると、和泉中学校区が 26.8％で最も多くなっています。

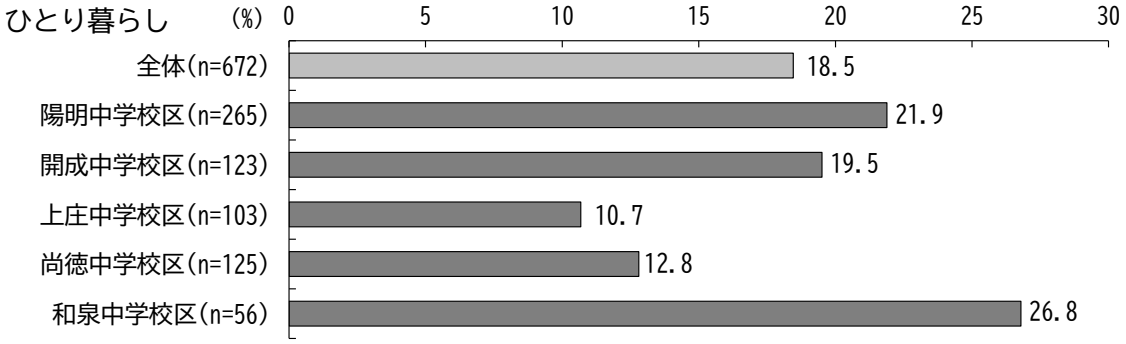
家族構成（全体）




家族構成（ひとり暮らし・年齢別）




家族構成（ひとり暮らし・中学校区別）



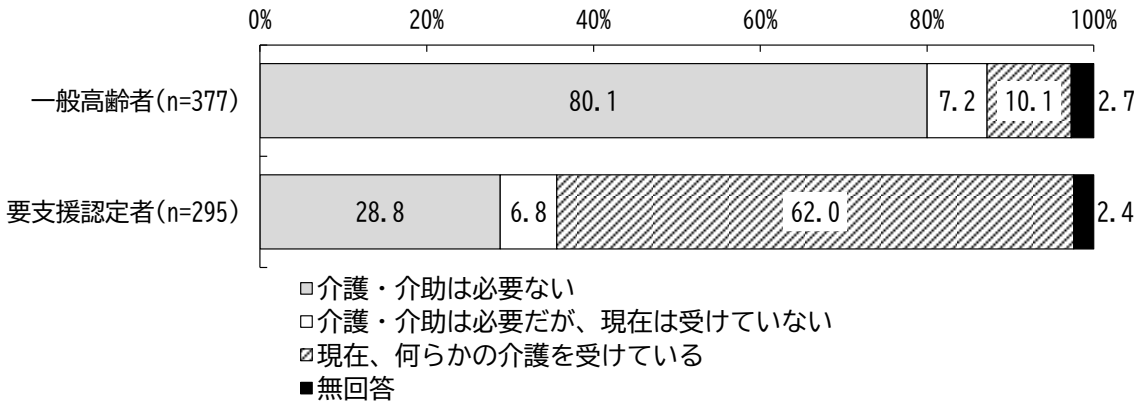
## （２）介護・介助の必要性

| 設問 | 問１（２）あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか<br>問１（２）※主にどなたの介護・介助を受けていますか |
|---|---|

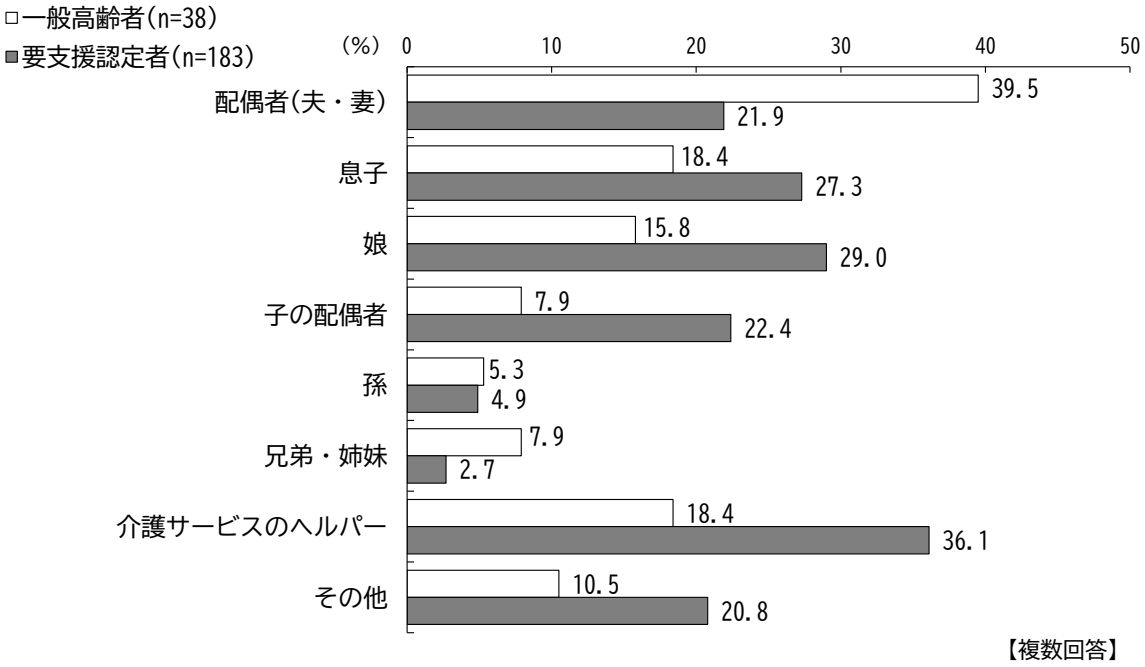
普段の生活における介護・介助の必要性については、一般高齢者で「介護・介助は必要ない」が 80.1％と約８割を占め、現時点で普段の生活に介護・介助の必要性がある一般高齢者は少ない状況となっています。また、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が 62.0％となっています。

主な介護・介助者については、一般高齢者では「配偶者(夫・妻)」(39.5％)、要支援認定者では「介護サービスのヘルパー」(36.1％）が最も多くなっています。

介護・介助の必要性（認定状況別）



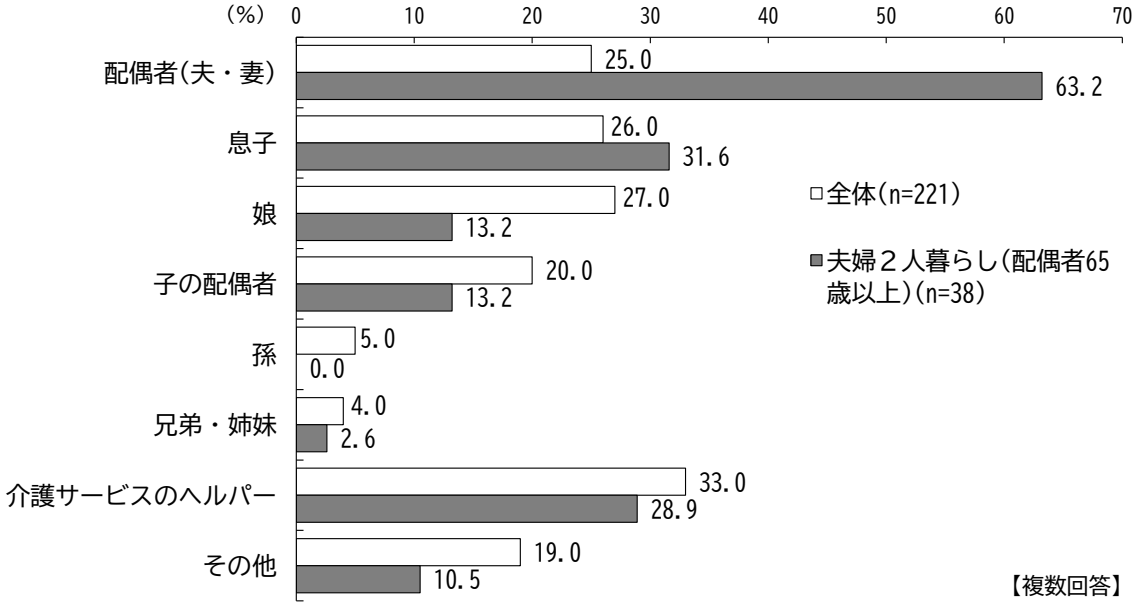

主な介護・介助者（認定状況別）



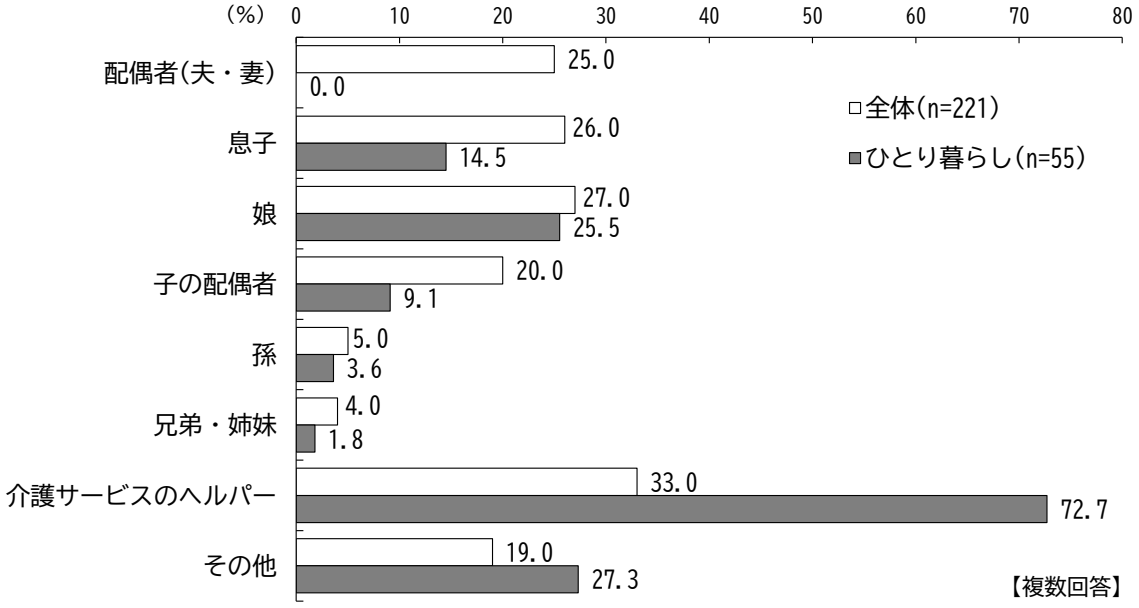

【複数回答】

主な介護・介助者について家族構成でみると、夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）では「配偶者(夫・妻)」が 63.2%と６割を超えていますが、ひとり暮らしでは「介護サービスのヘルパー」が 72.7%と約７割となっています。このことから、高齢夫婦世帯が将来的にひとり暮らし世帯へ移行する際に介護サービスのヘルパーのニーズが高まることが推察されます。

**主な介護・介助者（全体・夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上））**




**主な介護・介助者（全体・ひとり暮らし）**

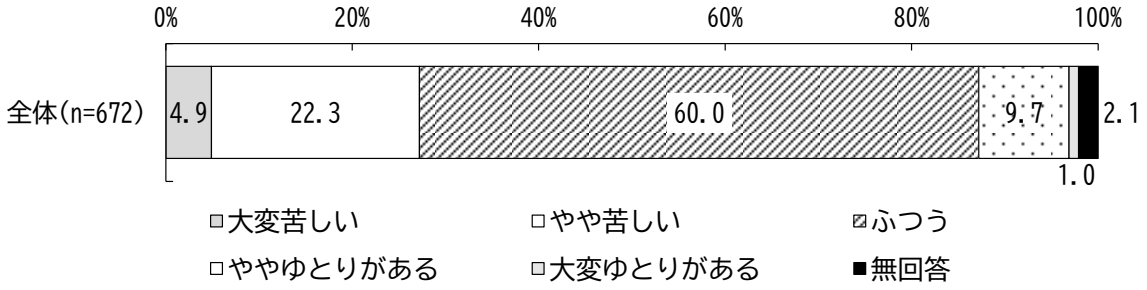


## （３）経済的な状況

| 設問 | 問１（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか |
|---|---|

回答者の経済的な現状については、「ふつう」が 60.0%で最も多くなっていますが、「大変苦しい」（4.9%）と「やや苦しい」（22.3%）をあわせた 27.2%の方が『苦しい』と回答しています。

経済的な状況（全体）




## （４）お住まいについて

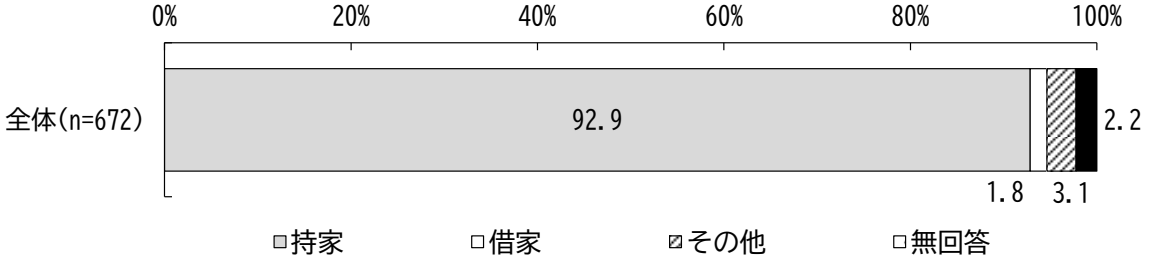
| 設問 | 問１（４）お住まいは持家または借家のどちらですか<br>問１（４）※①相続する方はいますか<br>問１（４）※②空き家になった場合、壊す・貸す・譲るなどの方針を決めていますか |
|---|---|

お住まいの状況については、「持家」が 92.9%と９割以上となっています。

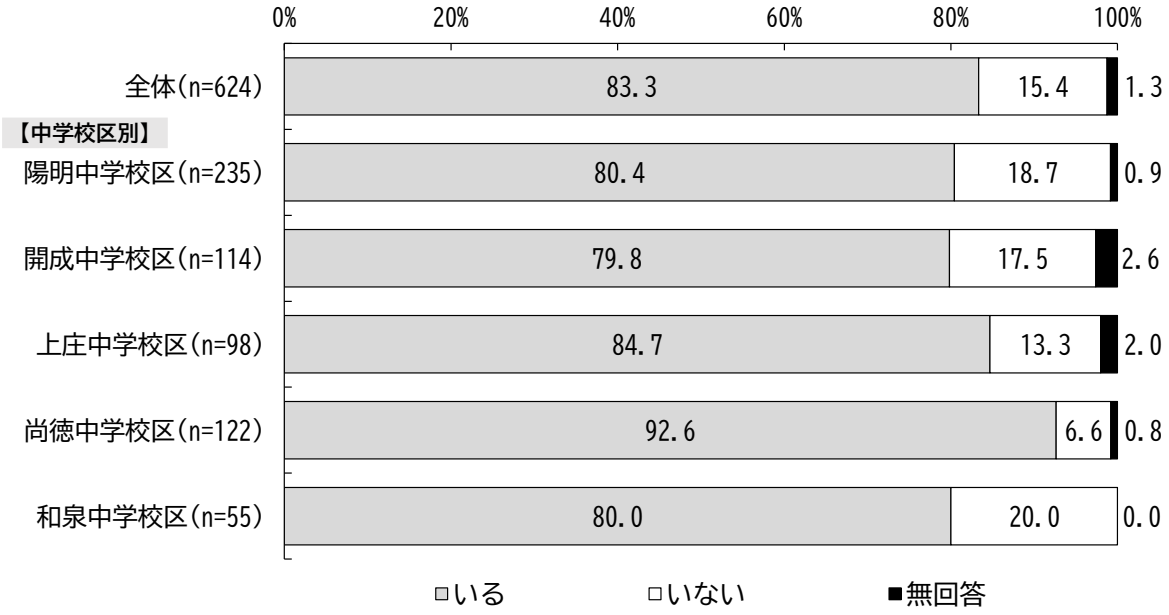
また、「持家」と回答した方に、相続する方の有無をたずねたところ、「いる」が 83.3%、「いない」が 15.4%となっています。

さらに、相続する方が「いない」と回答した方に、空き家になった場合に壊す、貸す、譲るなどの方針を決めているかどうかをたずねたところ、「決めていない」が 58.3%と約６割を占める結果となっています。

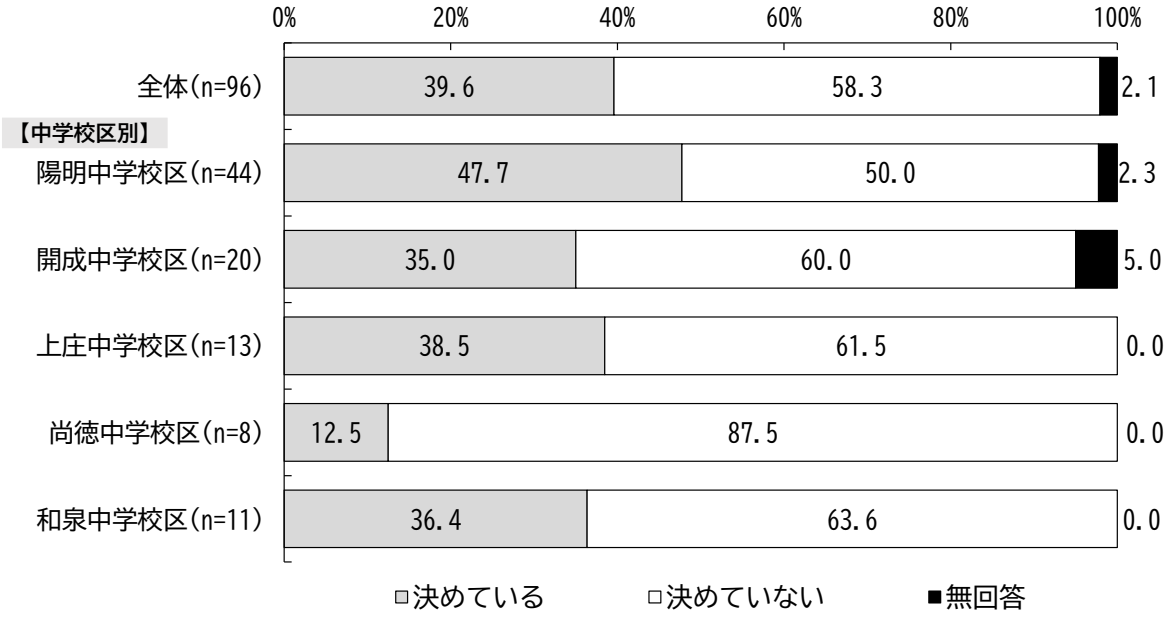
お住まいについて（全体）



相続者の有無（全体・中学校区別）




空き家になった場合の方針（全体・中学校区別）



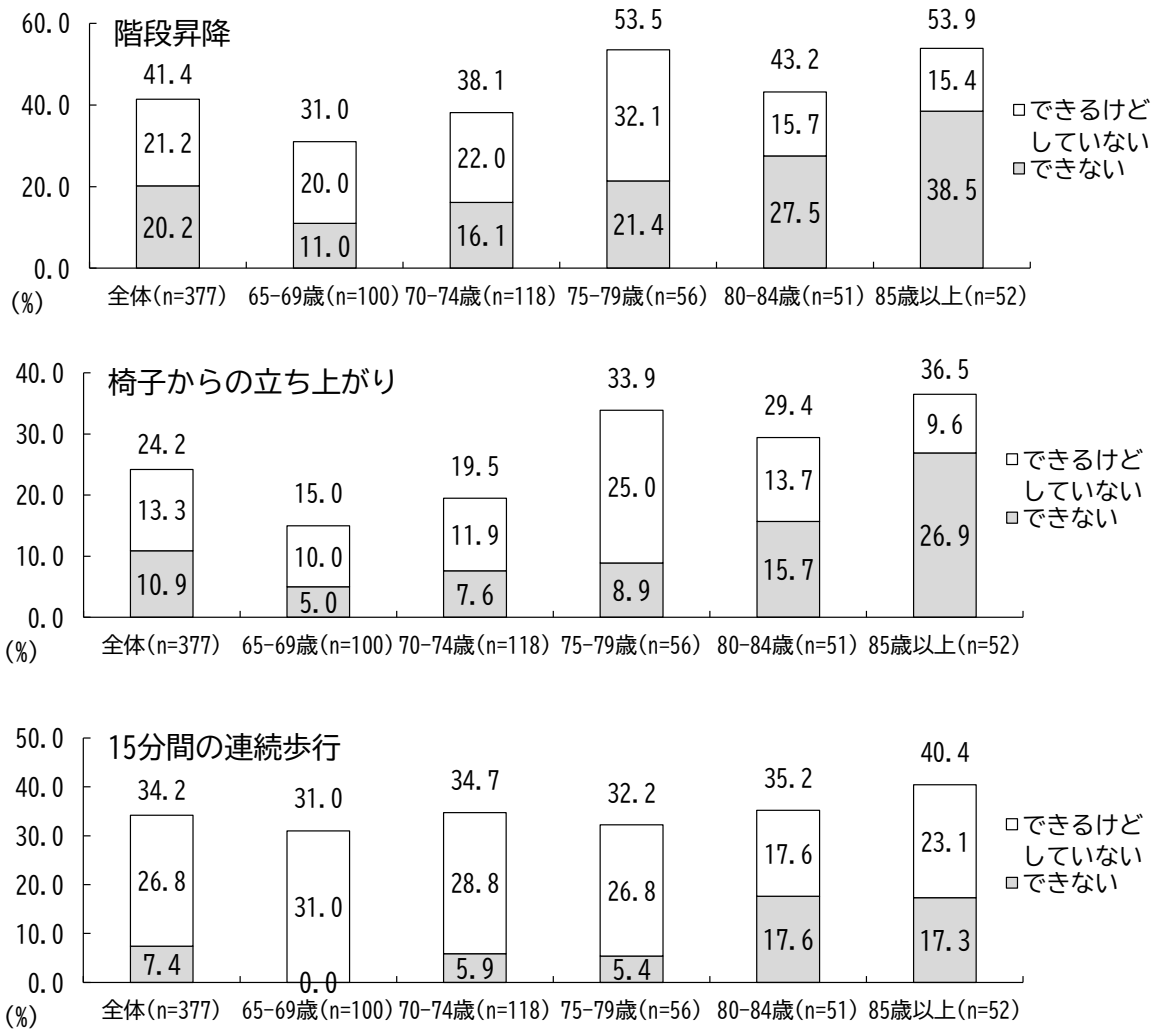
# ３．からだを動かすことについて

## （１）日常の動作について

| | |
|---|---|
| 設問 | 問２（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか<br>問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか<br>問２（３）15 分位続けて歩いていますか |

運動機能の維持・向上のための日頃の動作として、①階段昇降、②椅子からの立ち上がり、③15 分間の連続歩行の状況についてたずねました。一般高齢者の傾向をみると、３つの動作ともに加齢とともに「できない」と回答する割合が増加しますが、「できるけどしていない」と回答する割合が 75-79 歳の層で比較的多くみられます。このことから後期高齢者になると「できるけどしていない」状態になり、さらに加齢とともに機能低下が進行し、「できない」状態に移行する方が多いと推察されます。

日頃の動作（一般高齢者／全体・年齢別）

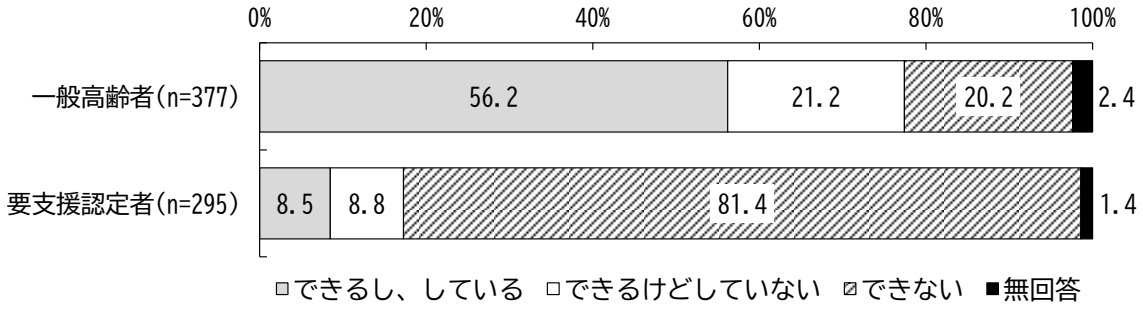


### ①階段昇降

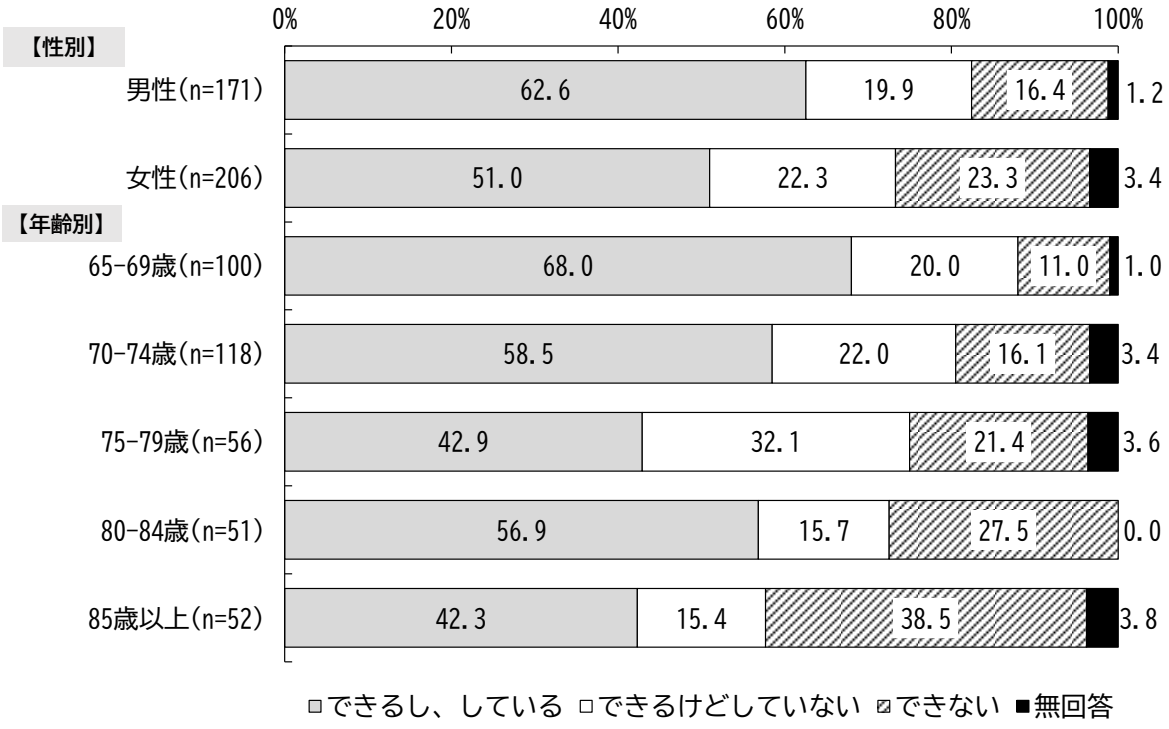
日常の動作として手すりや壁をつたわらずに階段を昇ることについて、「できない」が一般高齢者で 20.2%、要支援認定者で 81.4%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると、女性で「できるけどしてない」、「できない」と回答する割合が多くなっています。年齢別では、おおむね加齢とともに「できない」と回答する割合が増加します。また、75-79 歳の層で「できるけどしていない」と回答する割合が比較的多くなっています。

階段昇降（認定状況別）




階段昇降（一般高齢者／性別・年齢別）

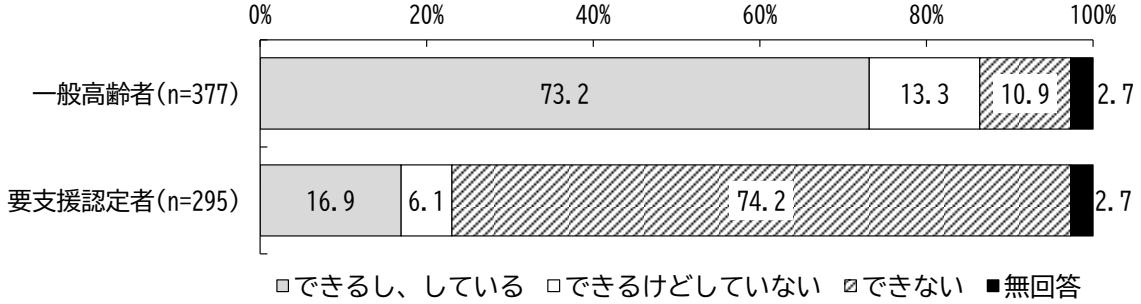


### ②椅子からの立ち上がり

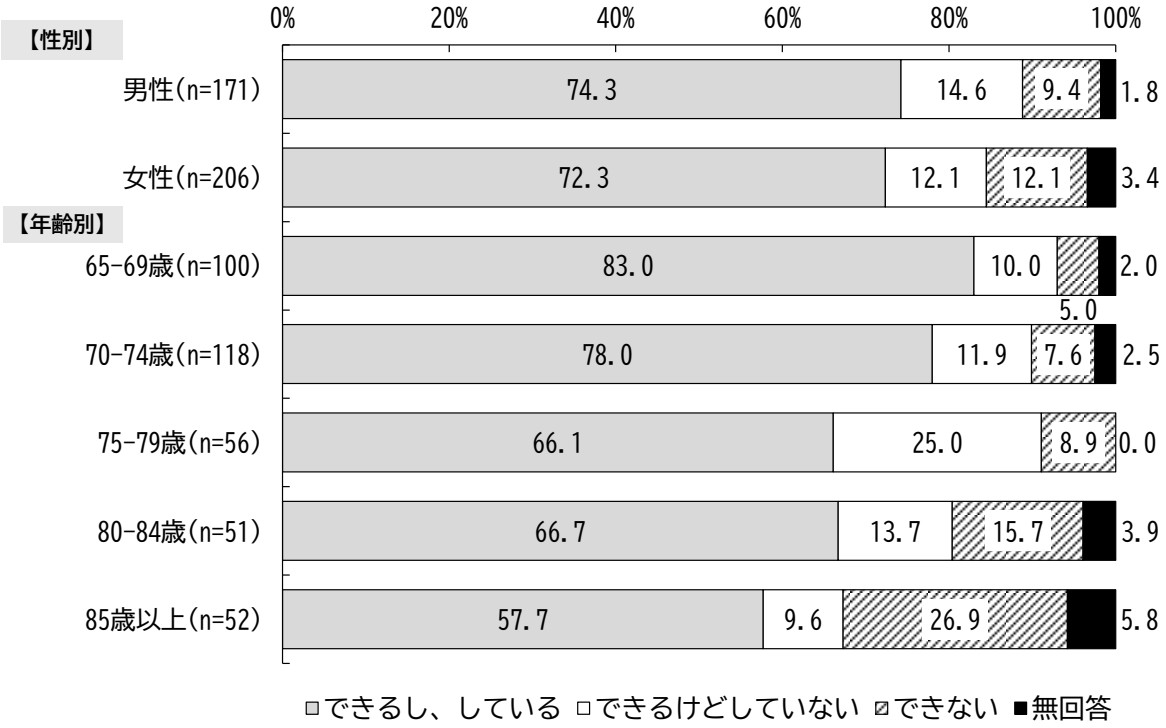
何もつかまらず椅子から立ち上がることについて、「できない」が一般高齢者で10.9%、要支援認定者で74.2%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみても大きな差はみられませんが、年齢別では、おおむね加齢とともに「できない」と回答する割合が増加します。また、75-79歳の層で「できるけどしていない」と回答する割合が比較的多くなっています。

椅子からの立ち上がり（認定状況別）




椅子からの立ち上がり（一般高齢者／性別・年齢別）

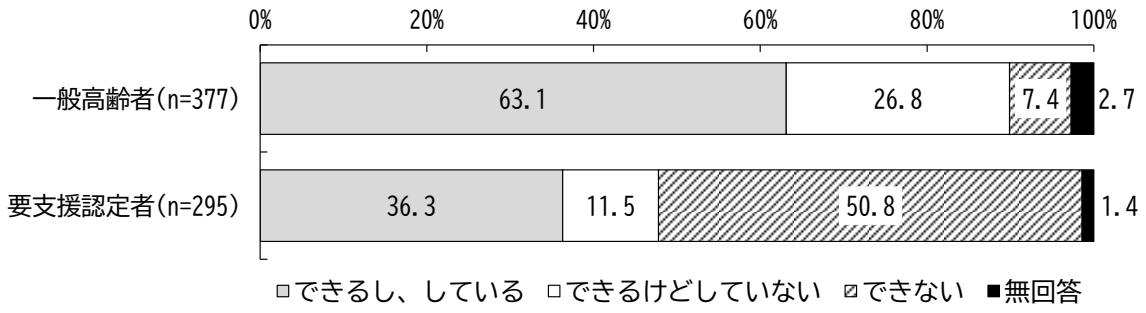


### ③15 分間の連続歩行

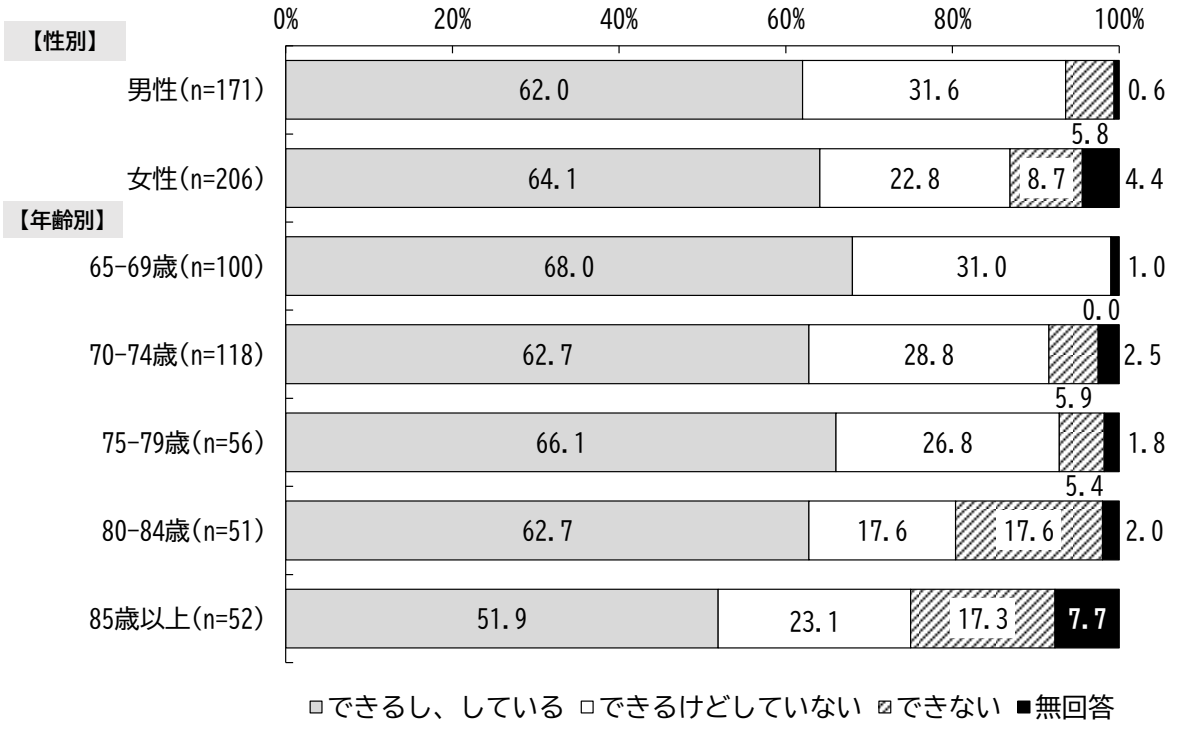
15 分位続けて歩くことについては、「できない」が一般高齢者で 7.4%、要支援認定者で 50.8%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると、女性で「できるけどしていない」と回答する割合が比較的多くなっています。年齢別では、おおむね加齢とともに「できない」と回答する割合が増加します。

15 分間の連続歩行（認定状況別）




15 分間の連続歩行（一般高齢者／性別・年齢別）



## （２）転倒について

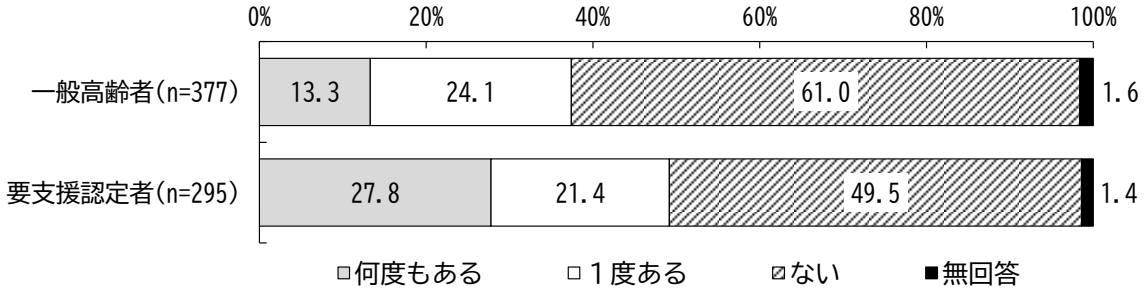
| 設問 | 問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか<br>問２（５）転倒に対する不安は大きいですか |
|---|---|

### ①転倒経験

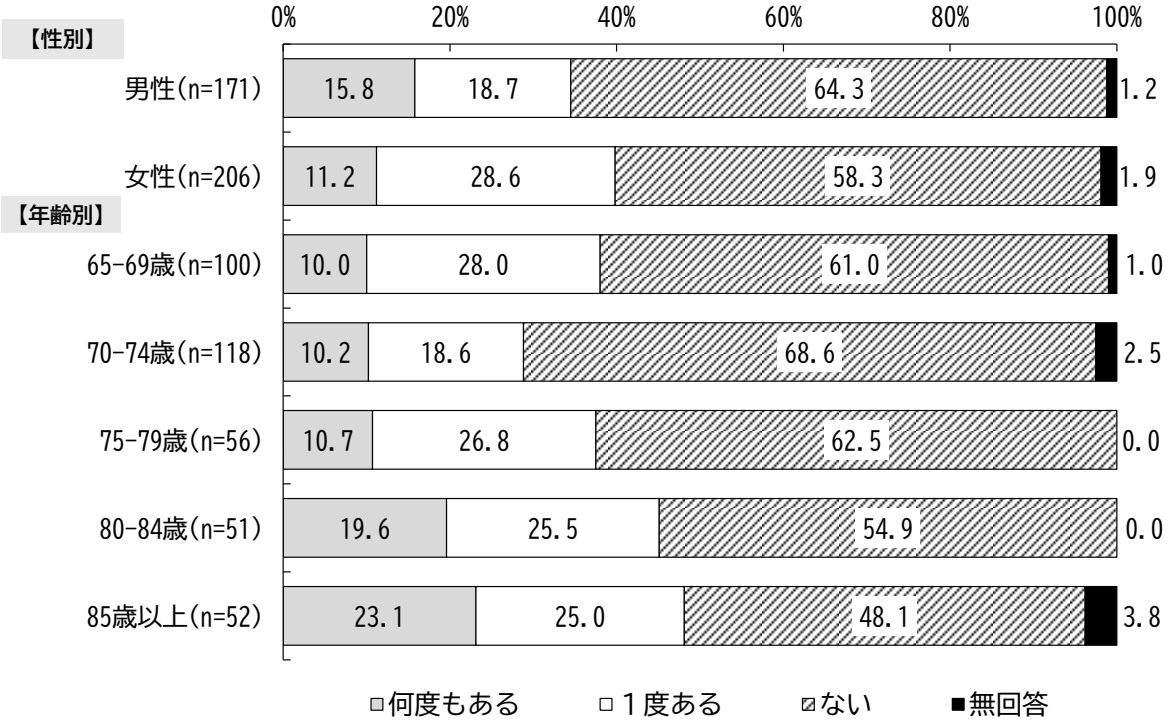
過去１年間に転んだ経験については、「何度もある」が一般高齢者で 13.3%、要支援認定者で 27.8%となっています。

一般高齢者の転倒経験を性別でみると、「何度もある」は男性（15.8%）が女性（11.2%）を上回ります。年齢別でみると、おおむね加齢とともに「何度もある」と回答する割合が増加し、85 歳以上では２割を超えます。

過去１年間の転倒経験（認定状況別）




過去１年間の転倒経験（一般高齢者／性別・年齢別）



### ②転倒リスク

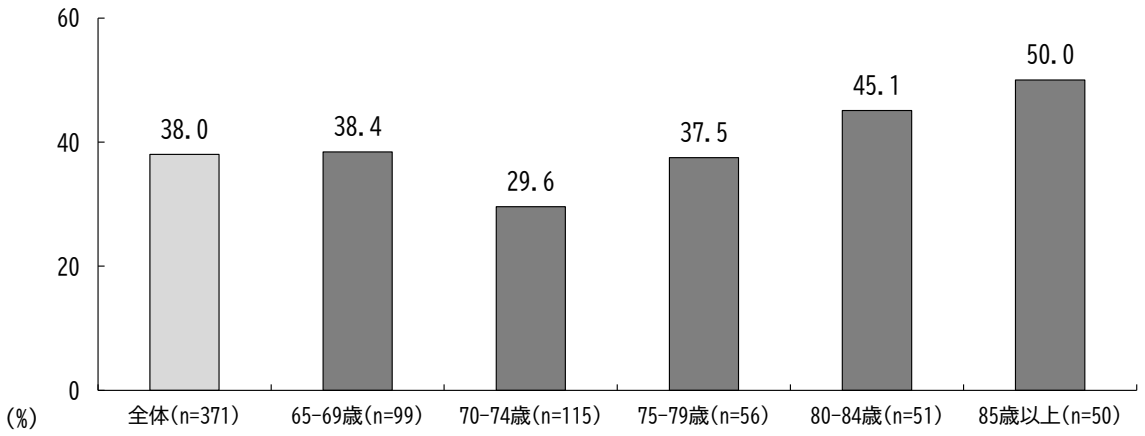
過去１年間の転倒経験について「何度もある」または「１度ある」と回答した方を「転倒リスクあり」と判定したところ、その割合は一般高齢者で 38.0%となっており、年齢別の 85 歳以上で半数を占めます。

転倒リスクを判定するための項目

| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか | １．何度もある　　または<br>２．１度ある |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

転倒リスク：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）

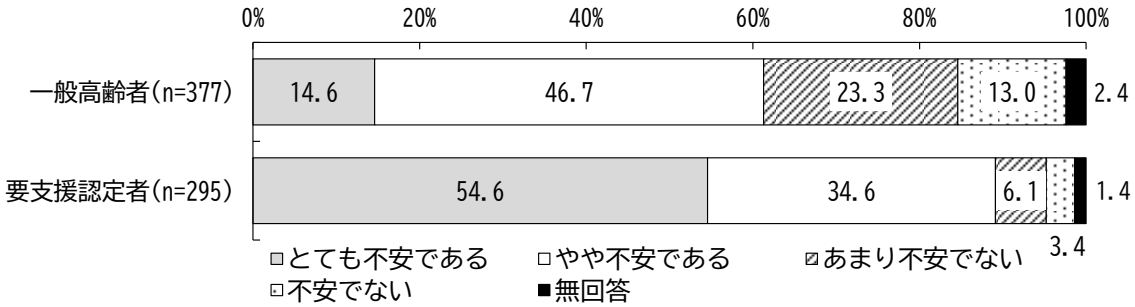



### ③転倒に対する不安

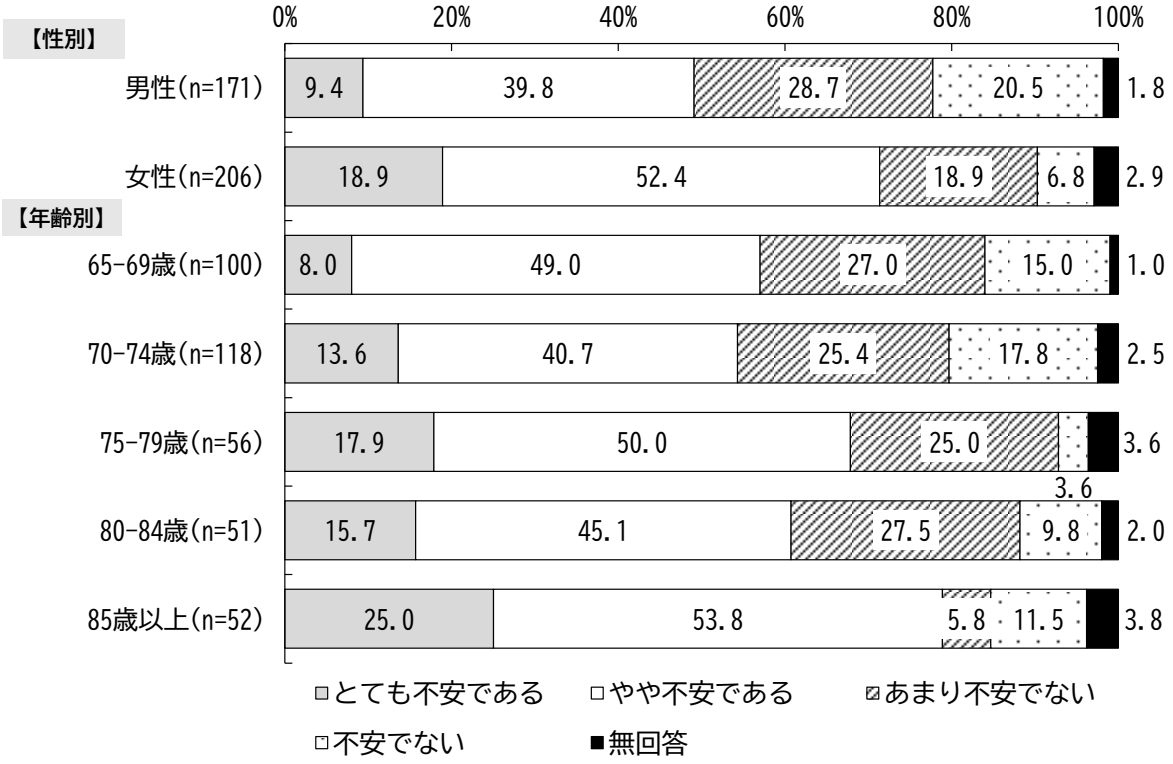
転倒に対して『不安』(「とても不安である」と「やや不安である」の合計）と回答した割合は、一般高齢者で 61.3%、要支援認定者で 89.2%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると、『不安』は女性（71.3%）が男性（49.2%）を大きく上回ります。年齢別でみると、おおむね加齢とともに『不安』と回答する割合が増加し、85 歳以上では 78.8%と約８割となっています。

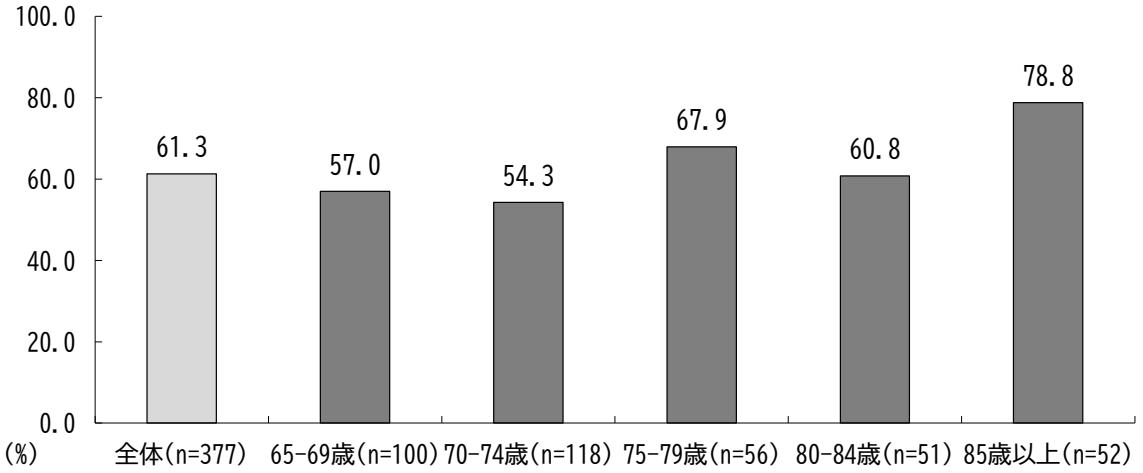
転倒に対する不安（認定状況別）



転倒に対する不安（一般高齢者／性別・年齢別）




転倒に対して『不安』と回答する割合（一般高齢者／年齢別）



## （３）運動器の機能低下について

問２（１）～問２（５）の回答結果の組み合わせにより、運動器の機能低下の有無について判定を行いました。問２（１）～問２（５）の５つの設問のうち、３つ以上の設問において、該当する選択肢を選択した場合に、その回答者を「運動器の機能低下がみられる（リスクあり）」と判定しています。その結果、「リスクあり」は一般高齢者で 16.7%、要支援認定者で 80.4%となっています。

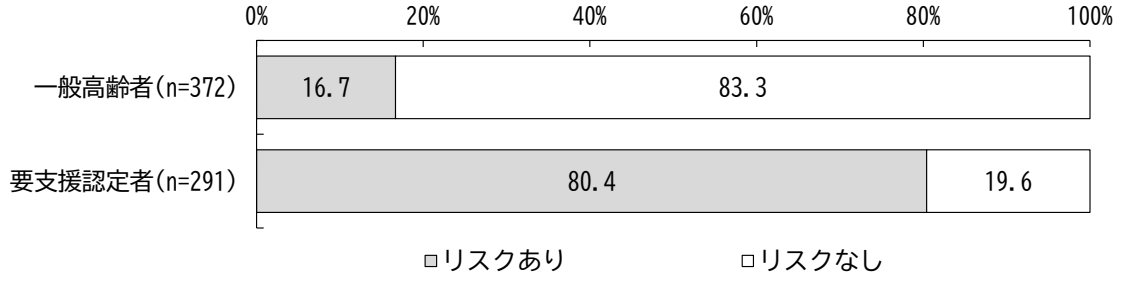
一般高齢者の傾向を年齢別みると、加齢とともに「リスクあり」の割合が増加し、85 歳以上では 32.0%と３人に１人が「リスクあり」と判定されます。

運動器の機能低下の有無を判定するための項目

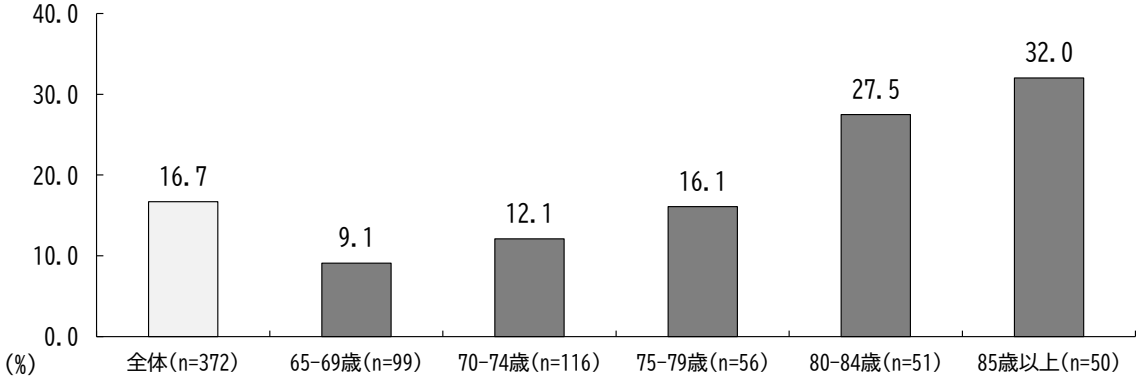
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問２（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか | ３．できない |
| | 問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか | ３．できない |
| | 問２（３）15分位続けて歩いていますか | ３．できない |
| | 問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか | １．何度もある　または<br>２．１度ある |
| | 問２（５）転倒に対する不安は大きいですか | １．とても不安である　または<br>２．やや不安である |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

運動器の機能低下（認定状況別）




運動器の機能低下：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）



# ４．外出・移動手段について

## （１）外出の状況

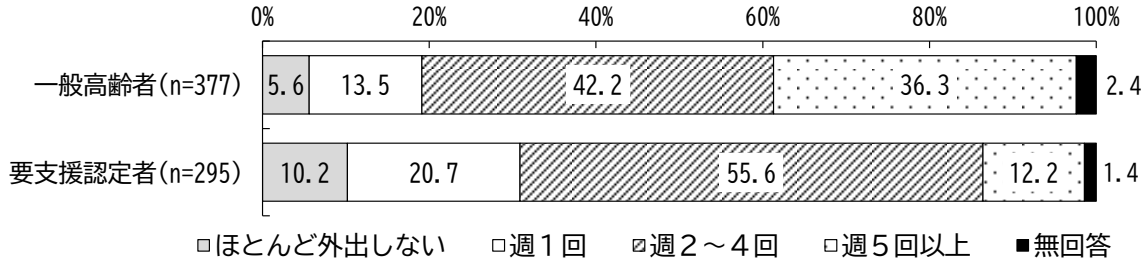
| 設問 | 問２（６）週に１回以上は外出していますか<br>問２（７）昨年と比べて外出の回数が減っていますか |
|---|---|

### ①外出の頻度

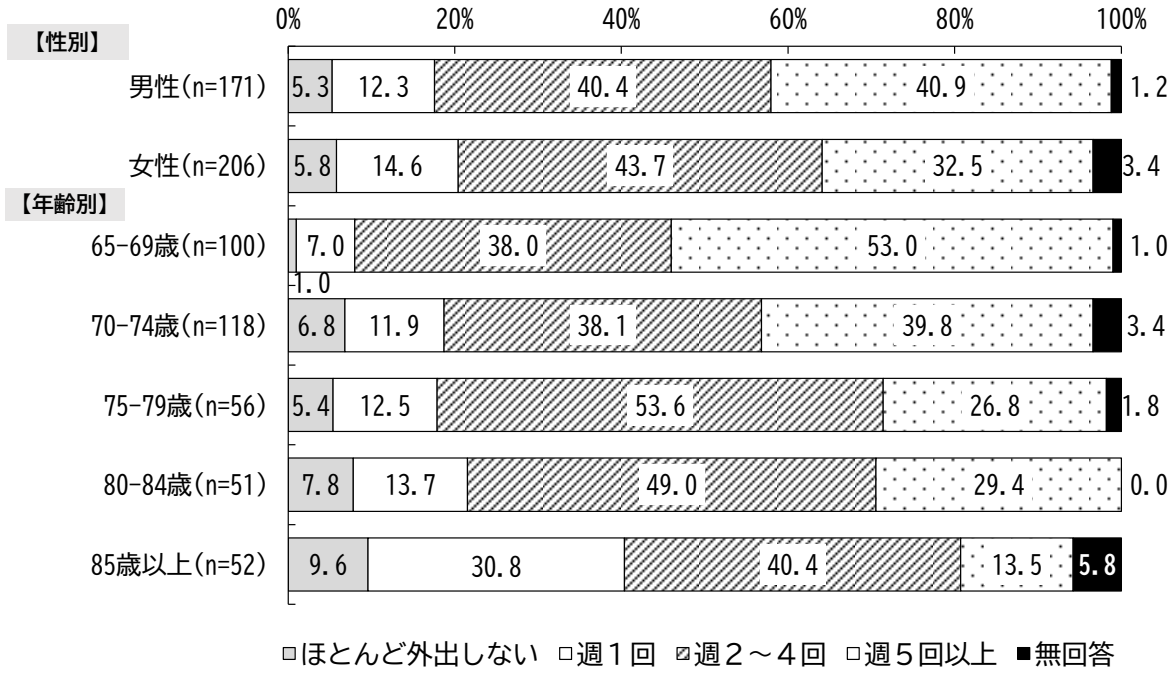
外出頻度については、「ほとんど外出しない」が一般高齢者で 5.6%、要支援認定者で 10.2%となっており、「週１回」が一般高齢者で 13.5%、要支援認定者で 20.7%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると大きな差はみられませんが、年齢別でみると、おおむね加齢とともに「ほとんど外出しない」及び「週１回」と回答する割合が増加し、85 歳以上では「ほとんど外出しない」が 9.6%、「週１回」が 30.8%となっています。

外出の頻度（認定状況別）




外出の頻度（一般高齢者／性別・年齢別）

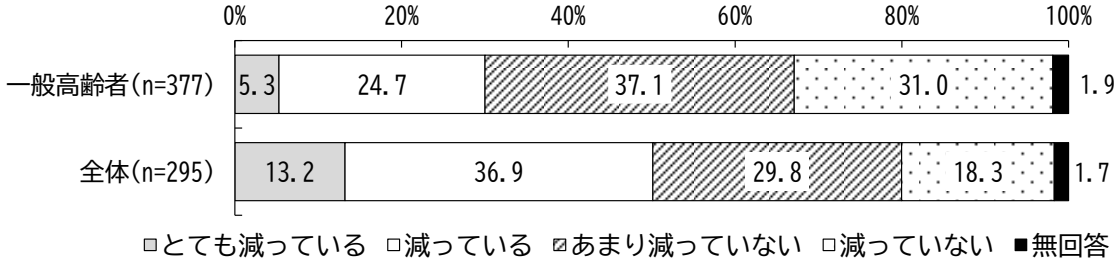


### ②外出回数の減少

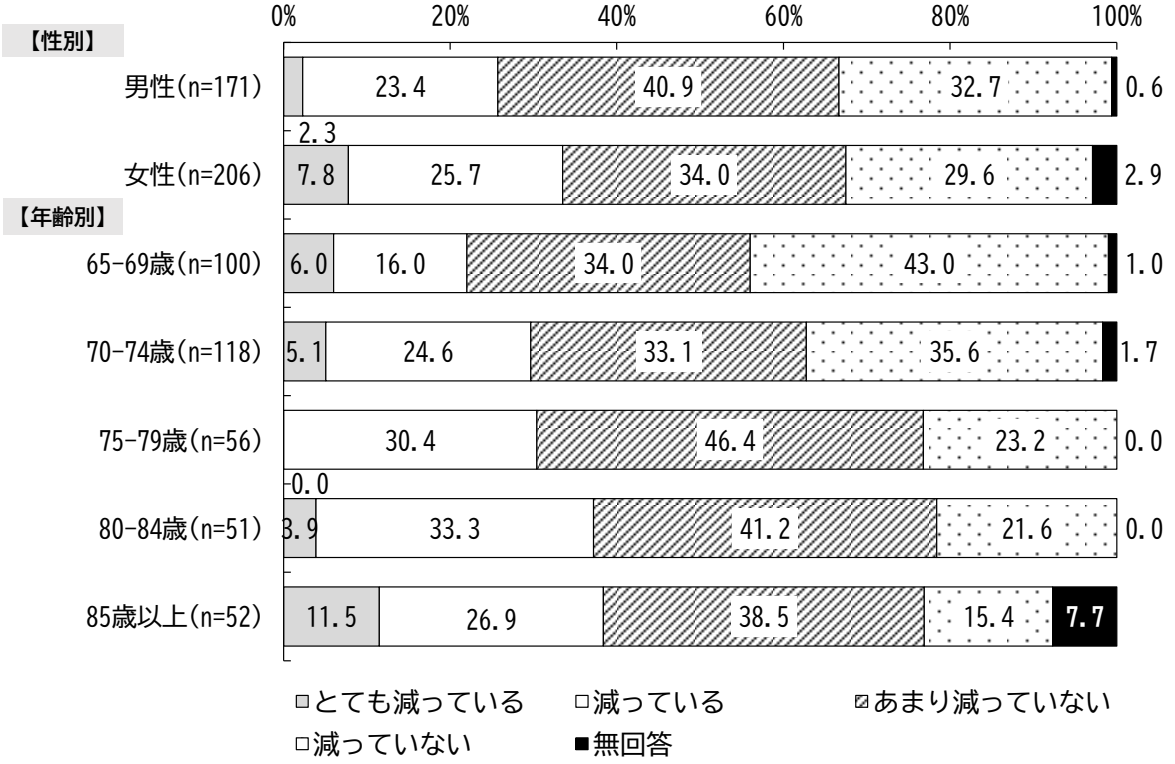
昨年と比較した外出回数の減少については、「とても減っている」が一般高齢者で5.3%、要支援認定者で13.2%、「減っている」が一般高齢者で24.7%、要支援認定者で36.9%となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると、女性で「とても減っている」(7.8%)が男性(2.3%)を上回ります。年齢別では「とても減っている」と回答する割合が85歳以上で11.5%となっています。

外出回数の減少（認定状況別）




外出回数の減少（一般高齢者／性別・年齢別）



### ③閉じこもり傾向

問２（６）の回答結果について、外出頻度が「ほとんど外出しない」または「週１回」と回答した方を、閉じこもり傾向の「リスクあり」と判定しました。

この結果、閉じこもり傾向の「リスクあり」と判定される回答者は、一般高齢者で 19.6%、要支援認定者で 31.3%となっています。

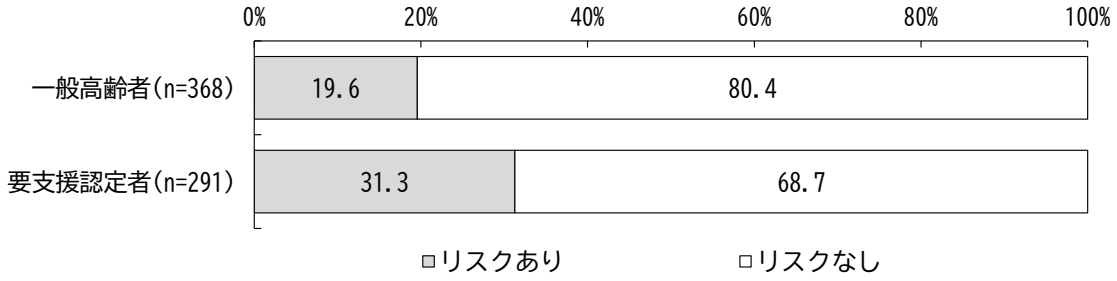
また、一般高齢者の傾向を年齢別でみると、「リスクあり」の割合は 85 歳以上で急増し、42.9%と４割を超えます。

閉じこもり傾向を判定するための項目

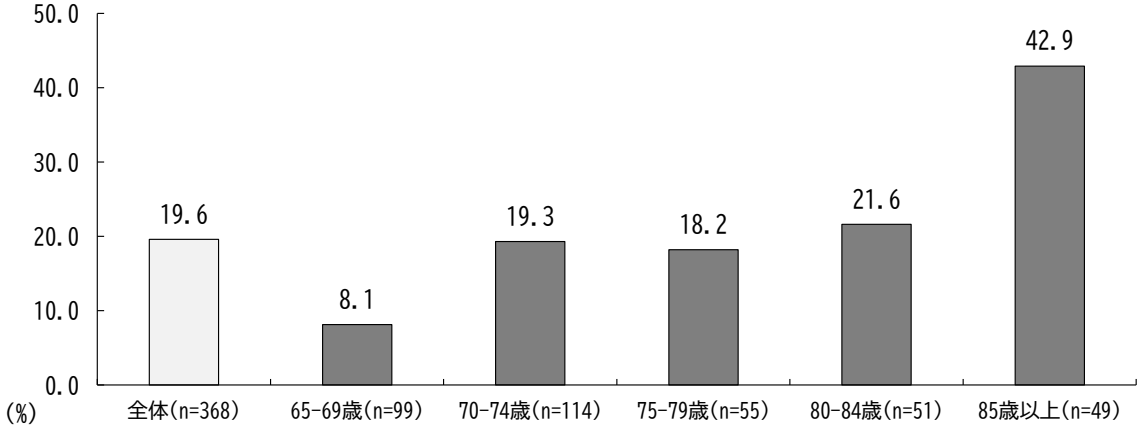
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問２（６）週に１回以上は外出していますか | １．ほとんど外出しない　または<br>２．週１回 |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

閉じこもり傾向（認定状況別）




閉じこもり傾向：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）



## （２）移動手段

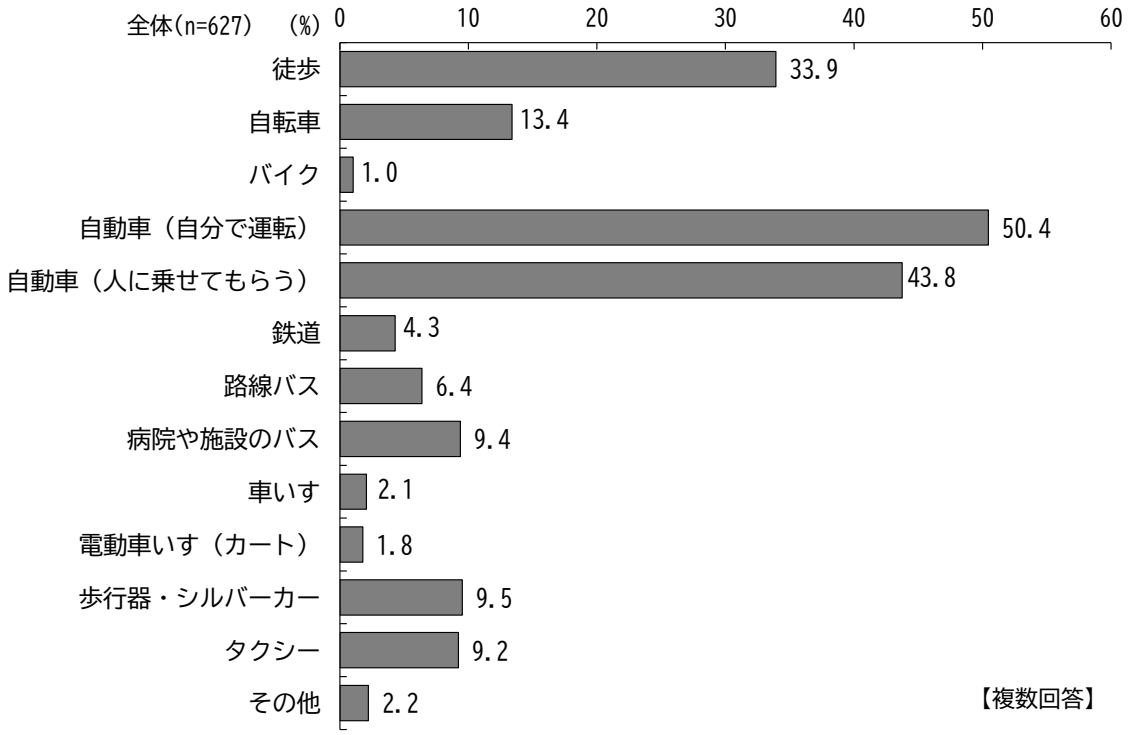
| 設問 | 問２（８）外出する際の移動手段は何ですか |
|---|---|

外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が 50.4％で最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」が 43.8％で続き、移動手段として自動車を利用する方の割合が多くなっています。

一般高齢者の「自動車（自分で運転）」と回答した割合を年齢別にみると、加齢とともに割合が減少するものの、85 歳以上で 30.8％と約３割を占めています。

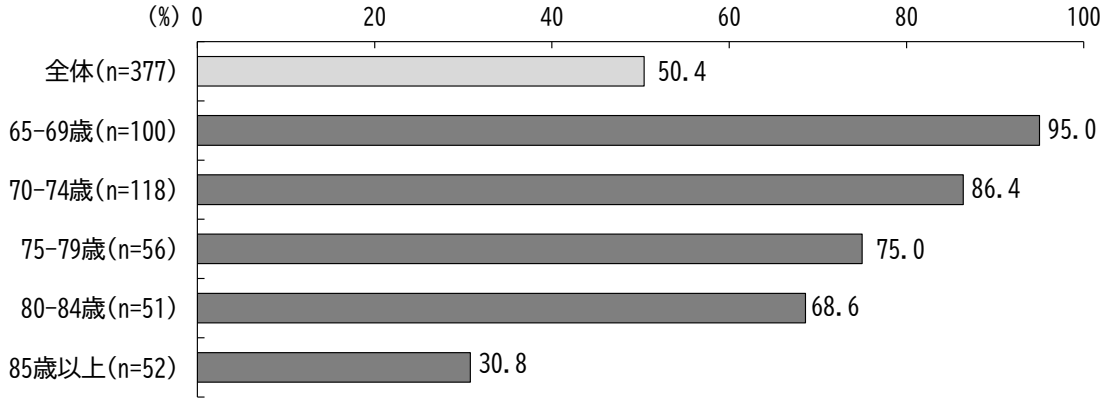
中学校区別でみると、一般高齢者の「自動車（自分で運転）」と回答した割合は、和泉中学校区で 66.1％、上庄中学校区で 65.0％と６割を超えています。また、公共交通機関（「鉄道」、「バス」）と回答した割合を中学校区別でみると、和泉中学校区で「鉄道」（17.0％）、「バス」（14.9％）ともに割合が多くなっています。

移動手段（全体）



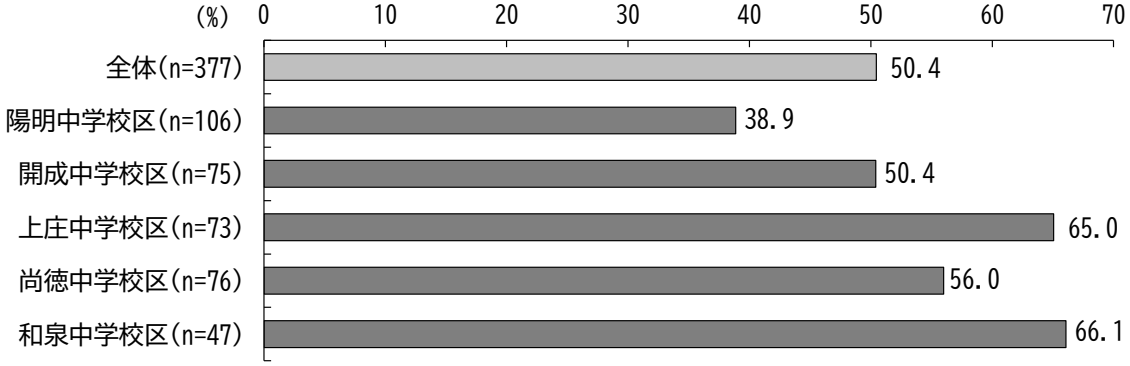
「自動車（自分で運転）」の割合（一般高齢者／全体・年齢別）

一般高齢者：「自動車（自分で運転）」



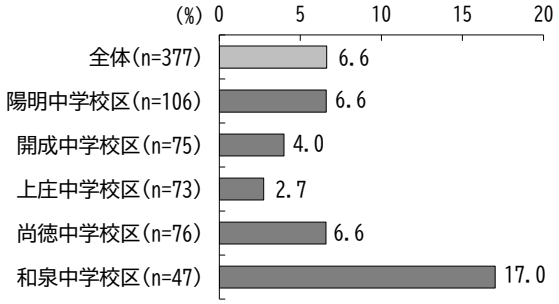

「自動車（自分で運転）」の割合（一般高齢者／全体・中学校区別）

一般高齢者：「自動車（自分で運転）」

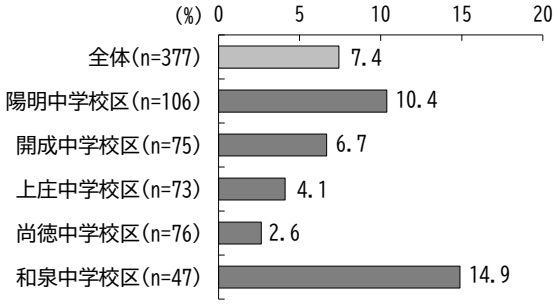



公共交通機関（「鉄道」、「バス」）の割合（一般高齢者／全体・中学校区別）

一般高齢者：「鉄道」




一般高齢者：「バス」



# ５．食べることについて

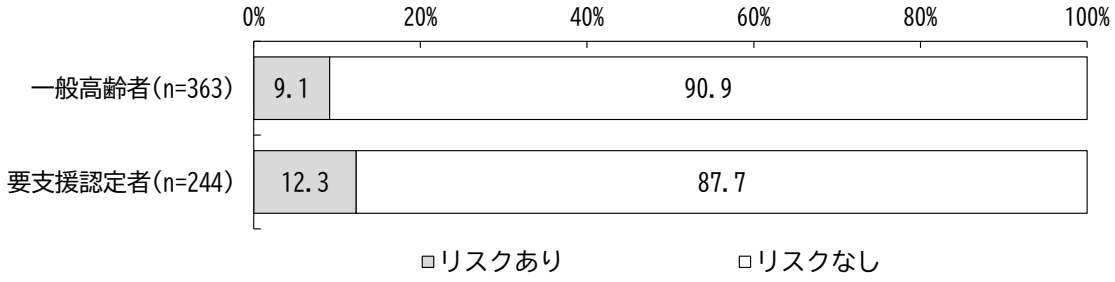
## （１）低栄養の傾向

| 設問 | 問３（１）身長・体重をご記入ください |
|---|---|

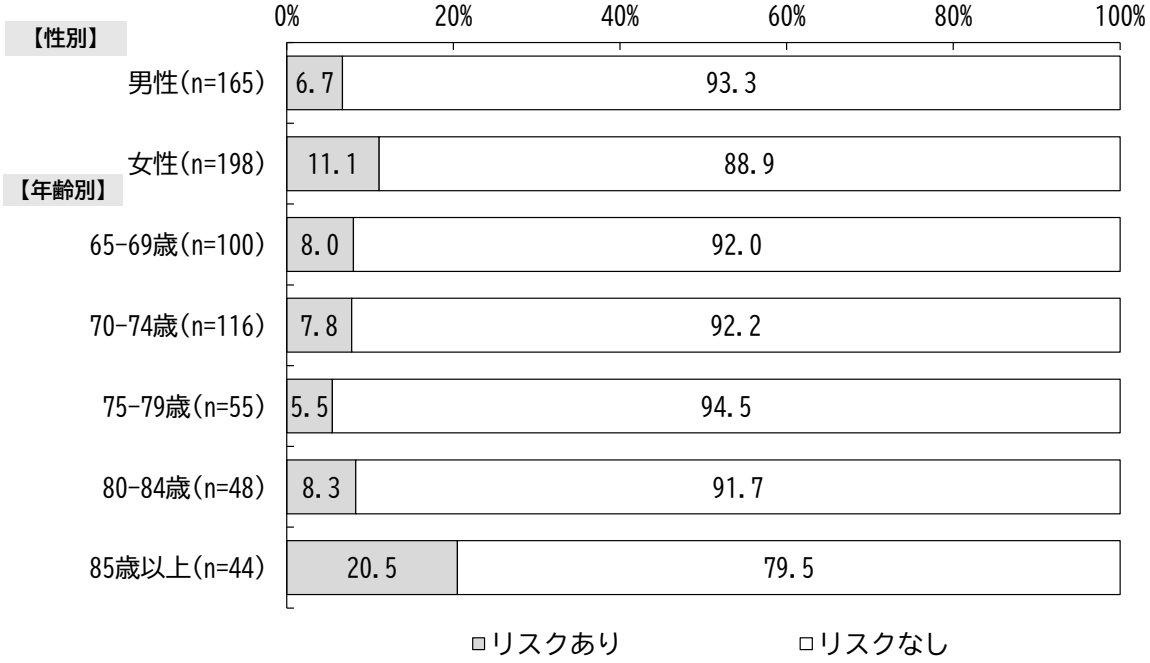
問３（１）「身長・体重」の回答結果よりＢＭＩを算出し、ＢＭＩが 18.5 未満の方を低栄養の傾向の「リスクあり」と判定しました。この結果、「リスクあり」と判定される回答者は一般高齢者で 9.1％、要支援認定者で 12.3％となっています。

一般高齢者の傾向を性別でみると、女性で 11.1％と「リスクあり」の回答が多くなっています。また、年齢別では 85 歳以上で 20.5％と「リスクあり」の割合が多くなっています。

低栄養の傾向（認定状況別）




低栄養の傾向（一般高齢者／性別・年齢別）




※ＢＭＩとは Body Mass Index の略でボディ・マス指数（体格指数）と呼ばれています。体重(kg)÷身長(m)の２乗で算出され、18.5 未満が「低体重（やせ）」、18.5 以上 25 未満が「普通体重」、25 以上が「肥満」に分類されます。

## （２）口腔機能の低下

問３（２）～問３（４）の回答結果の組み合わせにより、口腔機能の低下の有無について判定を行いました。問３（２）～問３（４）の３つの設問のうち、２つ以上の設問において、該当する選択肢を選択した場合に、その回答者を「口腔機能の低下がみられる（リスクあり）」と判定しています。

この結果、「リスクあり」と判定される回答者は一般高齢者で 27.1%、要支援認定者で 46.9%となっています。

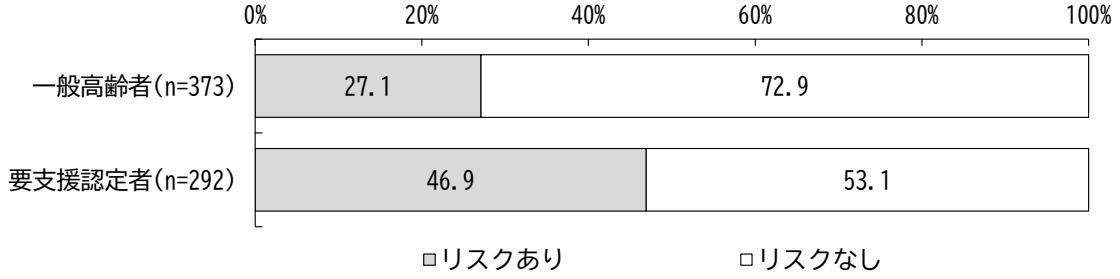
一般高齢者の傾向を年齢別でみると、85 歳以上で 38.0%と「リスクあり」の割合が多くなっています。

**口腔機能の低下の有無を判定するための項目**

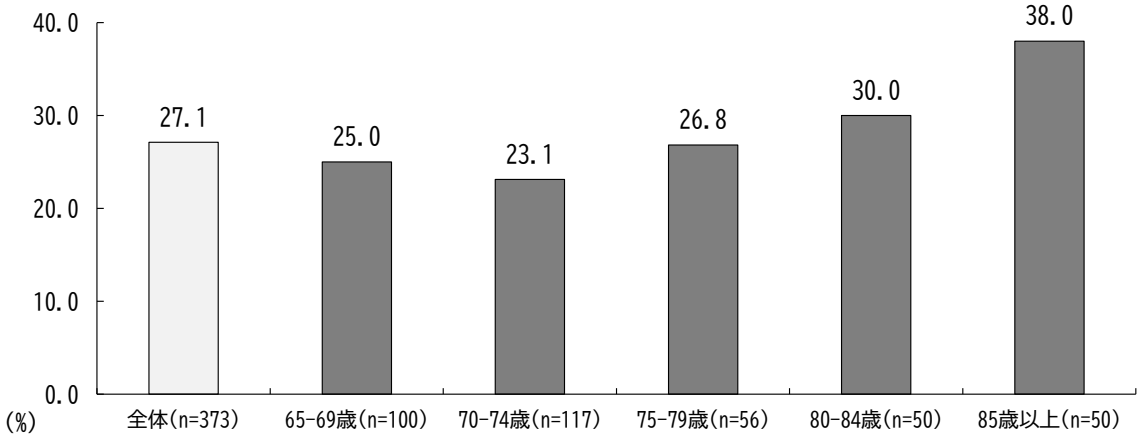
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問３（２）半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか | １．はい |
| | 問３（３）お茶や汁物等でむせることがありますか | １．はい |
| | 問３（４）口の渇きが気になりますか | １．はい |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

**口腔機能の低下（認定状況別）**




**口腔機能の低下：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）**

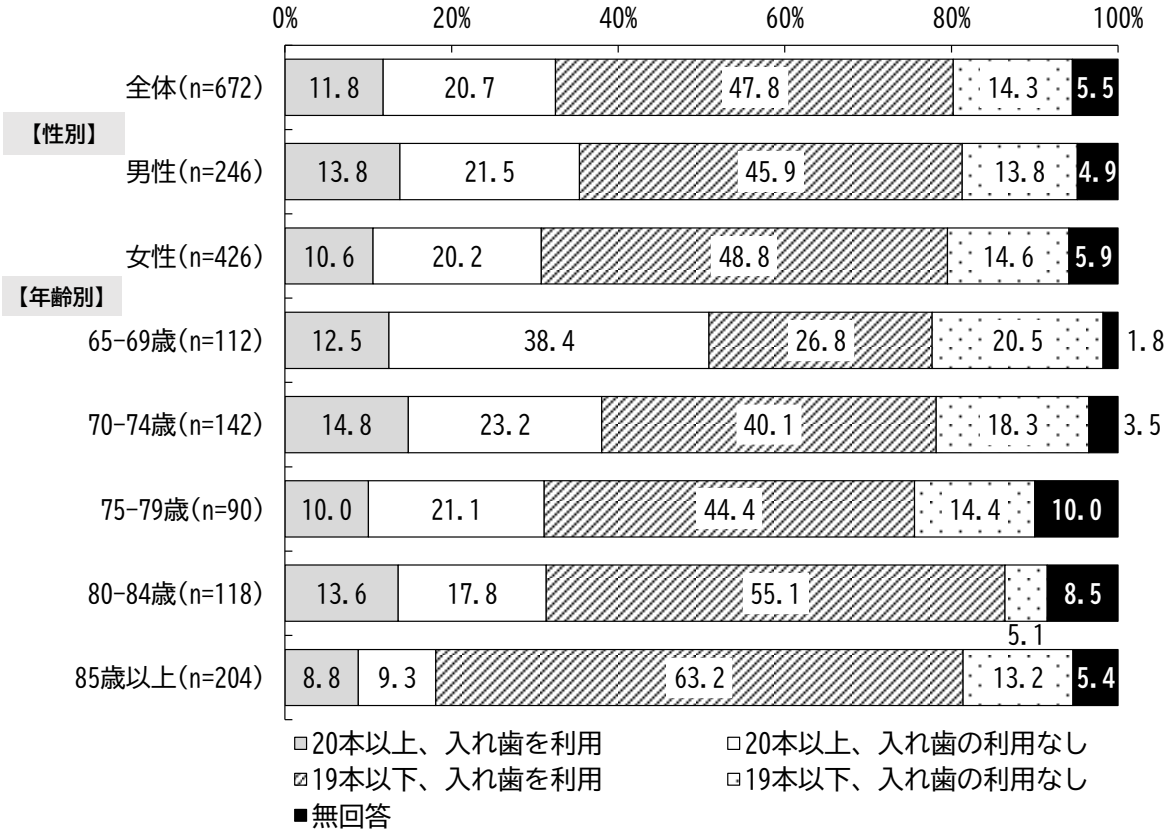


## （３）歯の状態

| 設問 | 問３（５）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です） |
|---|---|

歯の数が 20 本位以上ある方の割合は、おおむね加齢とともに減少し、『20 本以上』の方は 85 歳以上で 18.1%にとどまります。

歯の状態（全体・性別・年齢別）

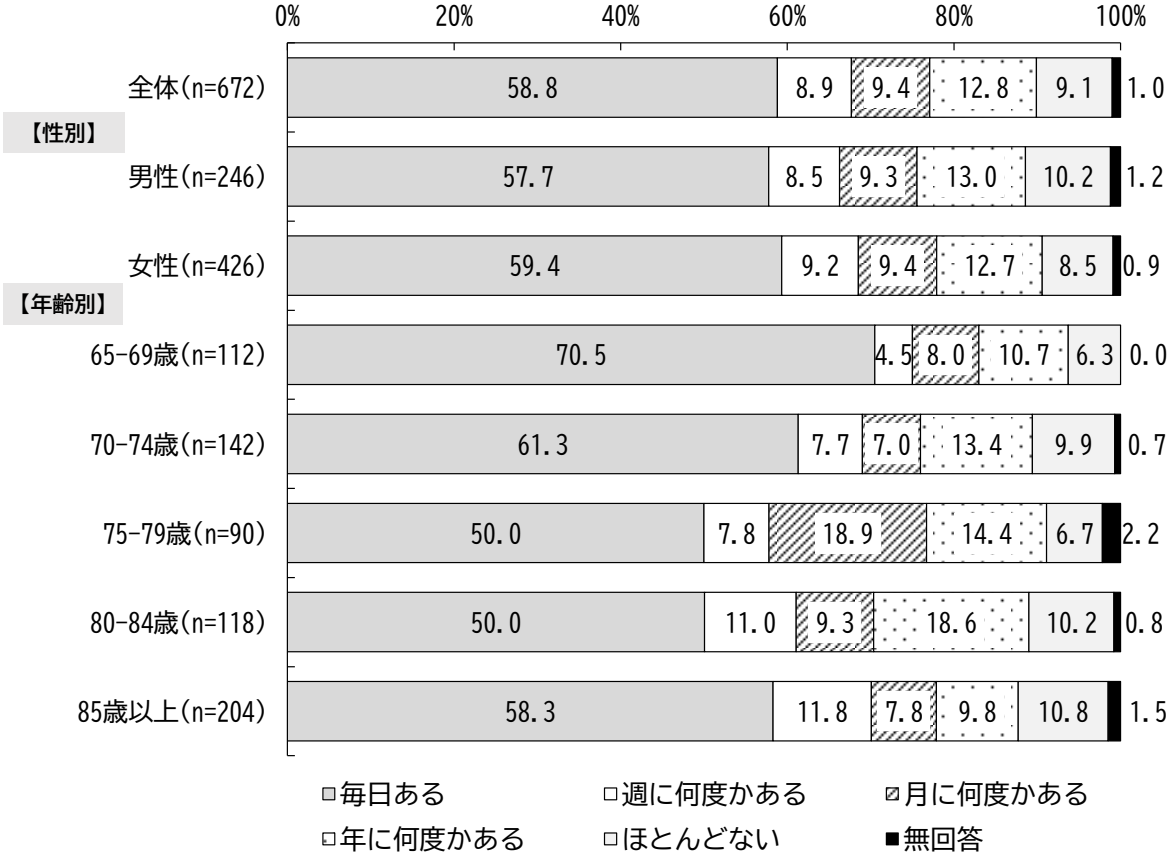


## （４）食事環境

| 設問 | 問３（６）どなたかと食事をともにする機会はありますか |
|---|---|

どなたかと食事をともにする機会については、「年に何度かある」(12.8%)、「ほとんどない」(9.1%) と回答した方の割合はあわせて 21.9%となっており、約２割の方が誰かと食事をともにする機会が少ない「孤食」となっています。

食事環境（全体・性別・年齢別）



# ６．毎日の生活について

## （１）認知機能の低下

問４（１）「物忘れが多いと感じますか」について、「はい」と回答した方について「認知機能の低下がみられる（リスクあり）」と判定したところ、「リスクあり」と判定される回答者は一般高齢者で 49.3%、要支援認定者で 52.9%となっています。

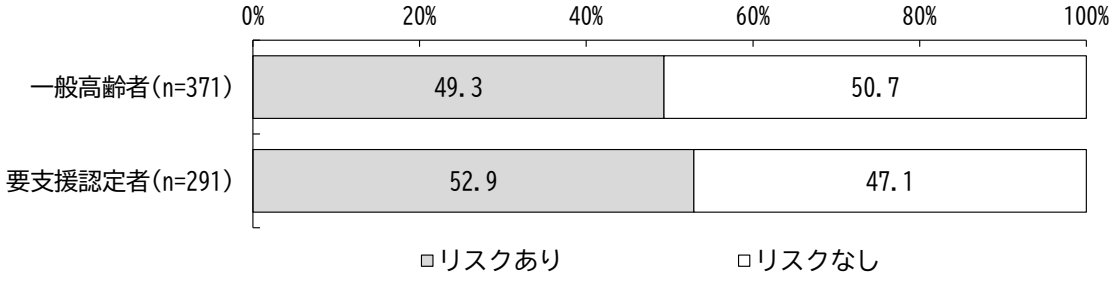
一般高齢者の傾向を年齢別でみると、「リスクあり」が 85 歳以上で 68.0%と約７割となっています。

認知機能の低下の有無を判定するための項目

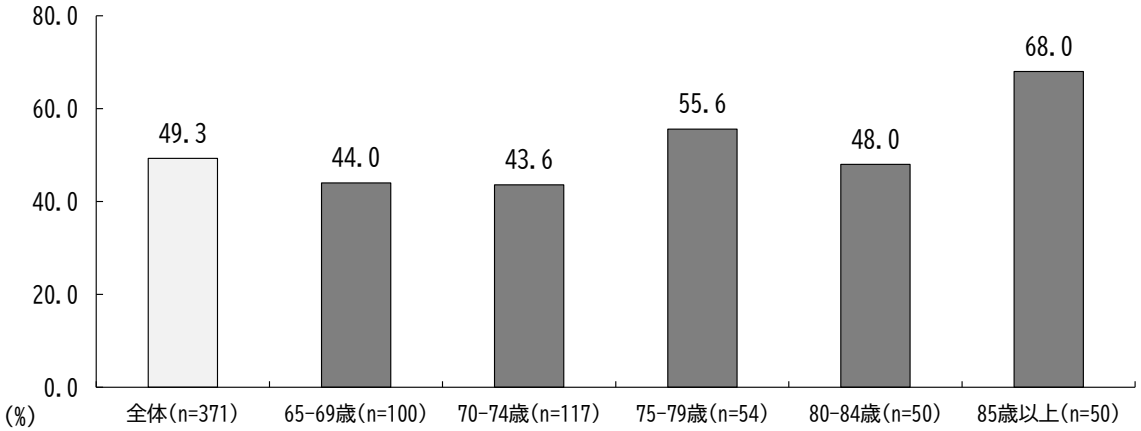
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問４（１）物忘れが多いと感じますか | １．はい |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

認知機能の低下（認定状況別）




認知機能の低下：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）

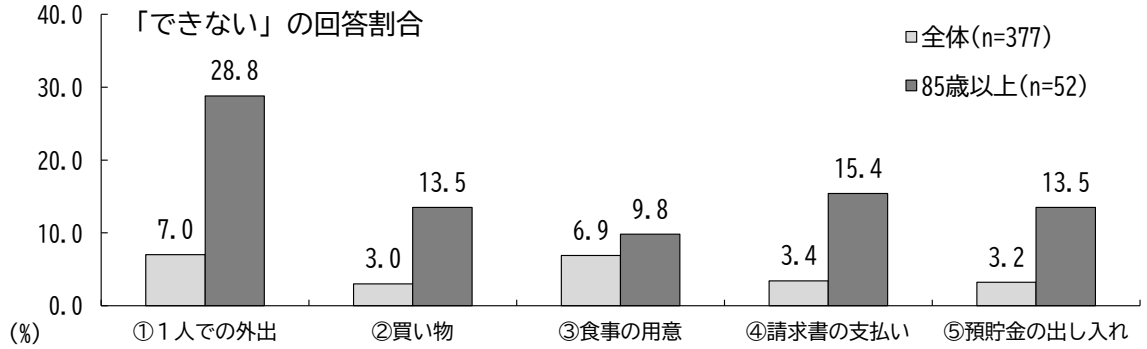


## （２）自身での行動について

| | |
|---|---|
| 設問 | 問４（２）バスや鉄道を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）<br>問４（３）自分で食品・日用品の買い物をしていますか<br>問４（４）自分で食事の用意をしていますか<br>問４（５）自分で請求書の支払いをしていますか<br>問４（６）自分で預貯金の出し入れをしていますか |

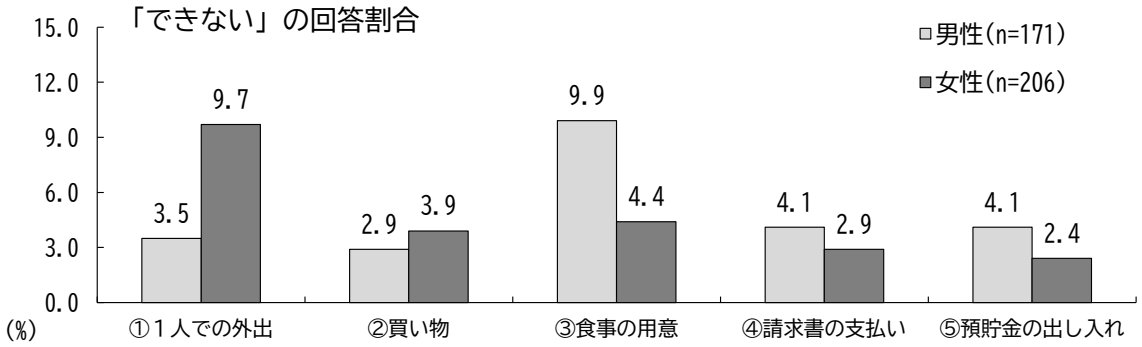
自身での行動として、①１人での外出、②買い物、③食事の用意、④請求書の支払い、⑤預貯金の出し入れの状況についてたずねました。その結果、一般高齢者の傾向をみると、５つの行動とも、加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85 歳以上で最も多くなり、①１人での外出では約３割、②買い物、④請求書の支払い、⑤預貯金の出し入れでは１割以上の方が行動に不自由がある結果となっています。

自身での行動について（一般高齢者／全体・年齢別 85 歳以上）




また、一般高齢者の「できない」と回答する割合を性別でみると、男性では③食事の用意、女性では①１人での外出で割合が多くなっています。

自身での行動について（一般高齢者／性別）

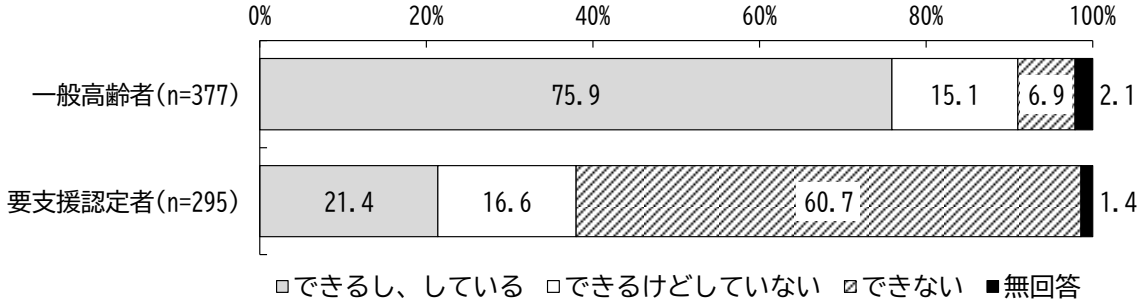


### ①バスや鉄道を使った１人での外出

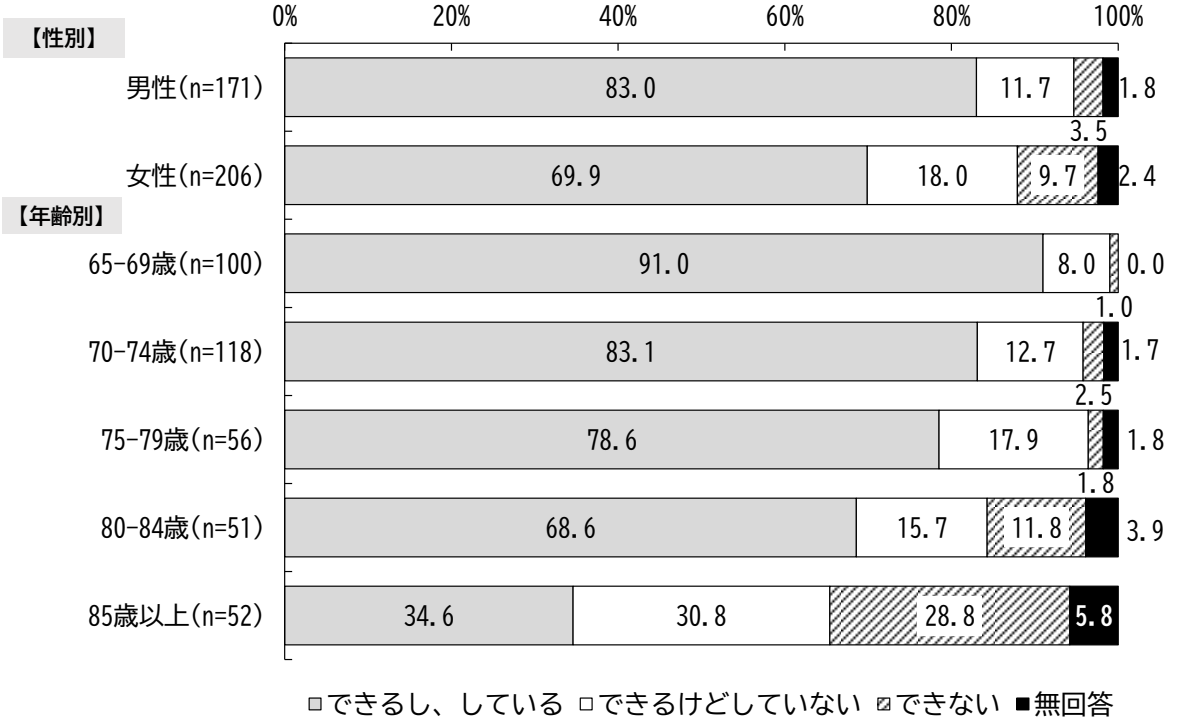
バスや鉄道を使って１人で外出しているかについては、「できない」は一般高齢者で 6.9%、要支援認定者で 60.7%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別では女性で「できない」(9.7%)が男性(3.5%)を上回ります。また、年齢別では加齢とともに「できない」と回答する割合が増加し、85 歳以上で 28.8%となっています。

バスや鉄道を使った１人での外出（認定状況別）




バスや鉄道を使った１人での外出（一般高齢者／性別・年齢別）

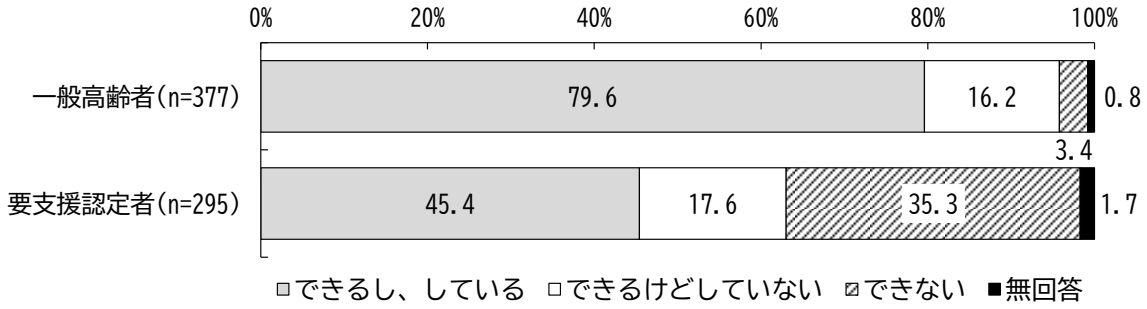


### ②食品・日用品の買い物

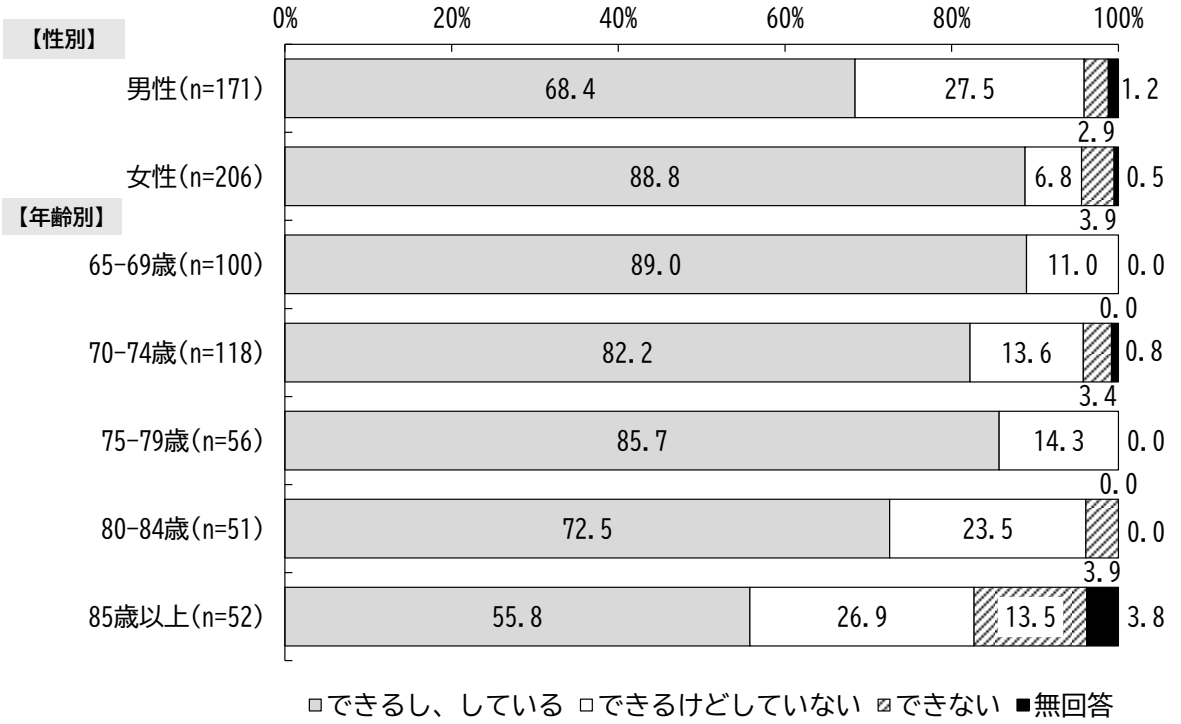
食品・日用品の買い物については、「できない」は一般高齢者で 3.4%、要支援認定者で 35.3%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別では「できない」に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」が 27.5%と女性の 6.8%を大きく上回ります。また、年齢別では「できるけどしていない」が 80-84 歳で大きく増加しています。

食品・日用品の買い物（認定状況別）




食品・日用品の買い物（一般高齢者／性別・年齢別）

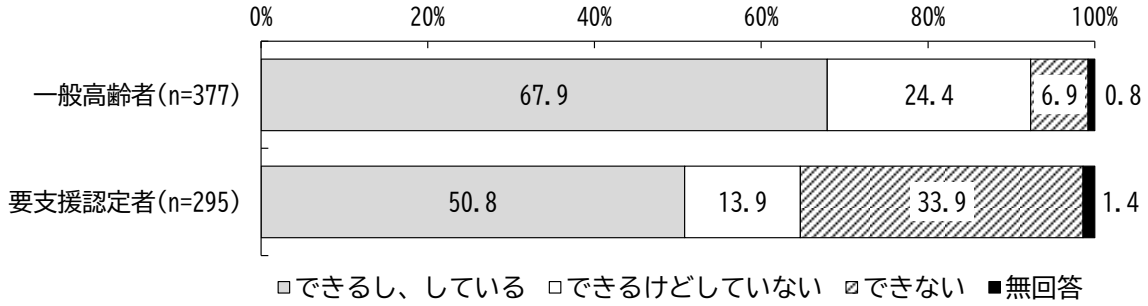


### ③食事の用意

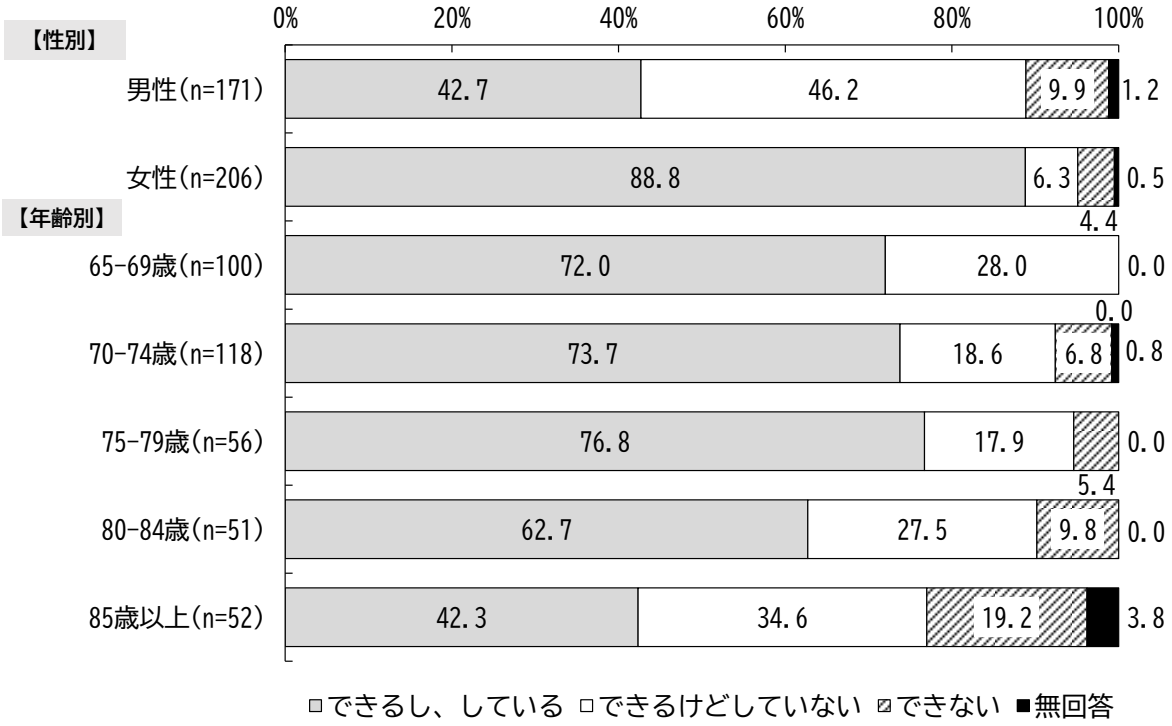
食事の用意については、「できない」は一般高齢者で 6.9%、要支援認定者で 33.9%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別では「できない」と回答する割合が男性(9.9%)で女性（4.4%）を上回ります。また、男性で「できるけどしていない」が 46.2%と女性の 6.3%を大きく上回ります。年齢別では 85 歳以上で「できない」が 19.2%と約２割となっています。

食事の用意（認定状況別）




食事の用意（一般高齢者／性別・年齢別）

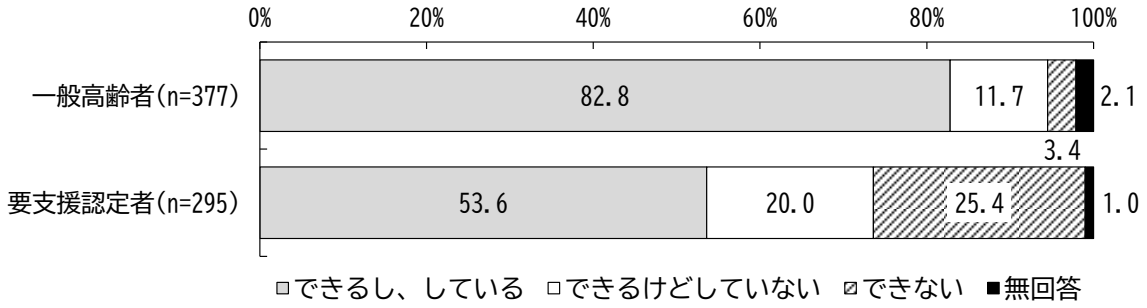


### ④請求書の支払い

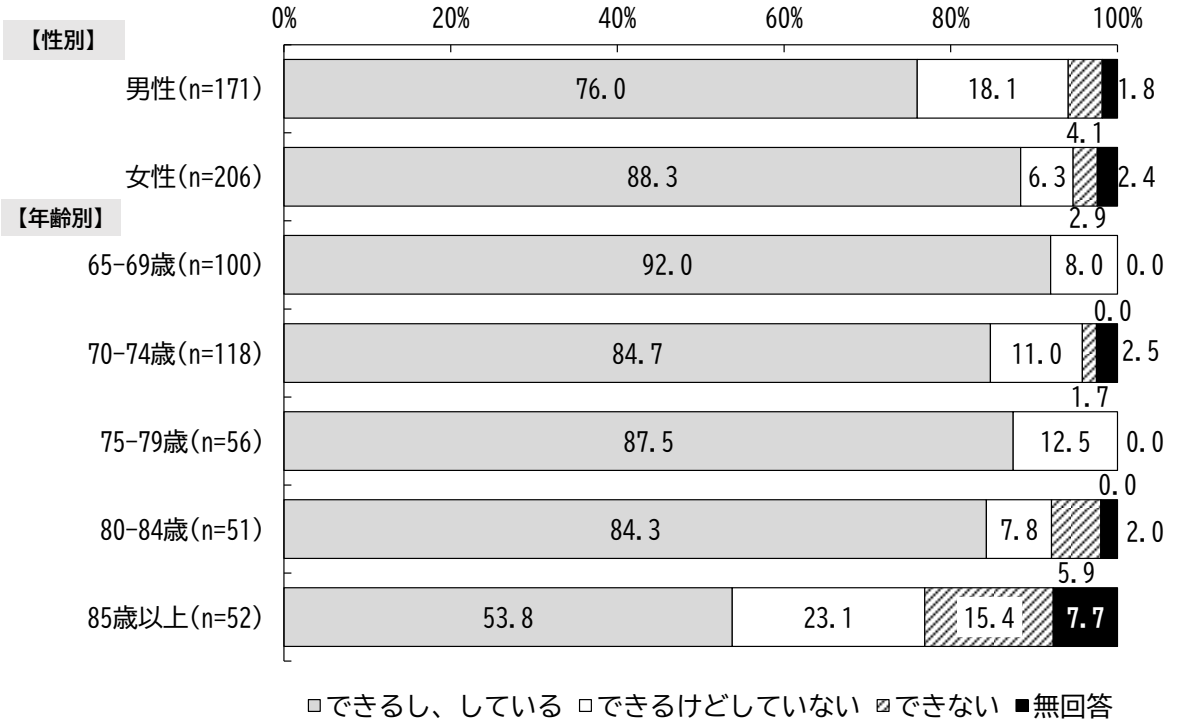
請求書の支払いについては、「できない」は一般高齢者で 3.4%、要支援認定者で 25.4%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別で「できない」と回答する割合に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」が 18.1%と女性の 6.3%を大きく上回ります。また、年齢別では 85 歳以上で「できるけどしていない」、「できない」と回答する割合が急増します。

請求書の支払い（認定状況別）




請求書の支払い（一般高齢者／性別・年齢別）

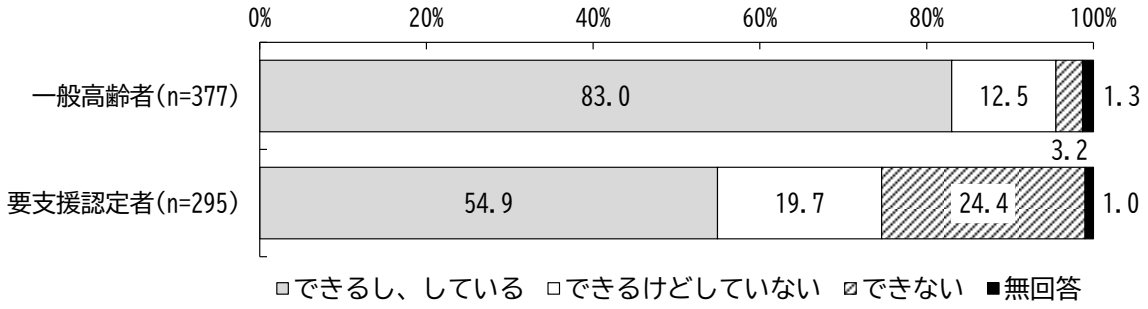


### ⑤預貯金の出し入れ

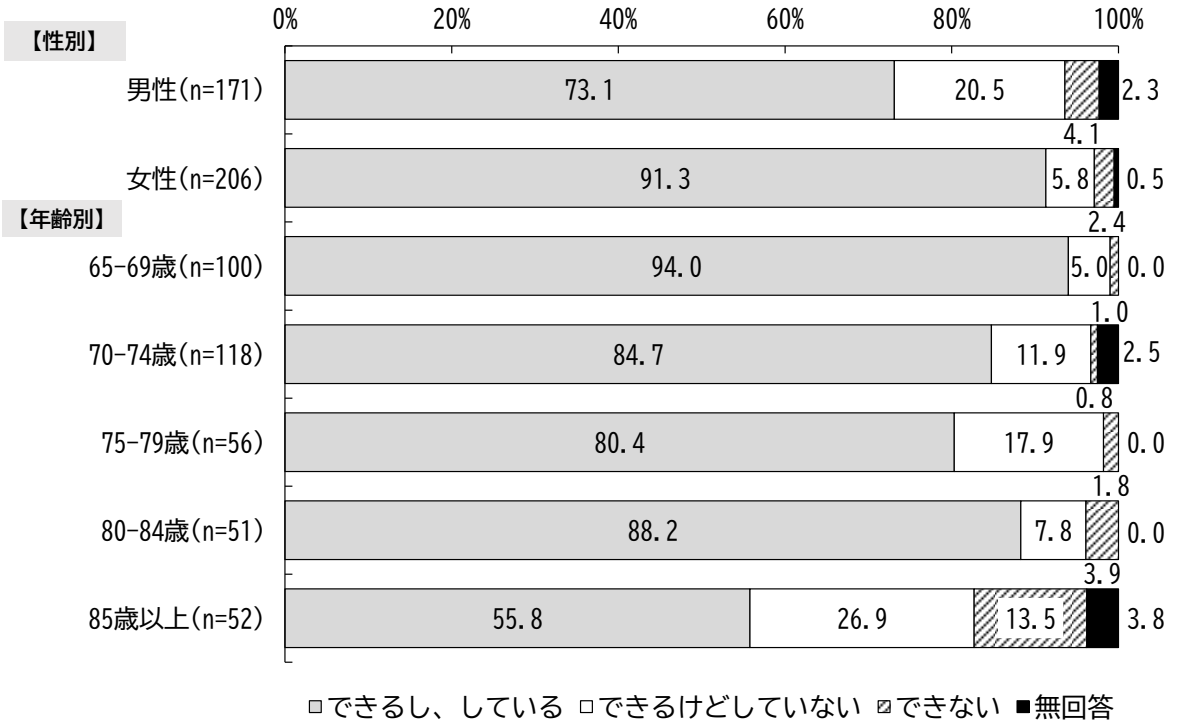
預貯金の出し入れについては、「できない」は一般高齢者で 3.2%、要支援認定者で 24.4%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別で「できない」と回答する割合に大きな差はみられませんが、男性で「できるけどしていない」が 20.5%と女性の 5.8%を大きく上回ります。また、年齢別では 85 歳以上で「できない」と回答する割合が急増しています。

預貯金の出し入れ（認定状況別）




預貯金の出し入れ（一般高齢者／性別・年齢別）



## （３）ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）について

問４（２）～問４（６）の５つの設問に対する回答結果を組み合わせ、回答者のＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）の機能の判定を行いました。各設問で「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合にそれぞれ１点を加点し、５つの設問における得点の合計が５点（満点）であればＩＡＤＬに関する機能が「高い」、４点であれば「やや低い」、３点以下であれば「低い」と判定しています。その結果、ＩＡＤＬに関する機能が「低い」と判定される割合は、一般高齢者で3.8%、要支援認定者で45.1%となっています。

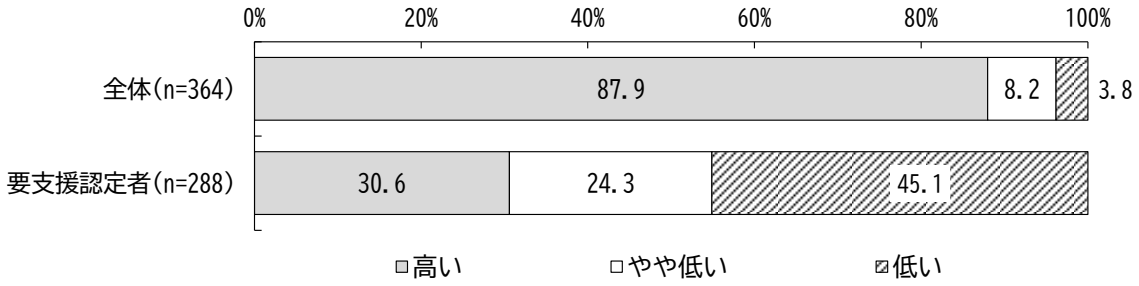
一般高齢者の傾向を年齢別でみると、85歳以下では「低い」は５%以下となっていますが、85歳以上では16.7%となっています。

ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）を判定するための項目

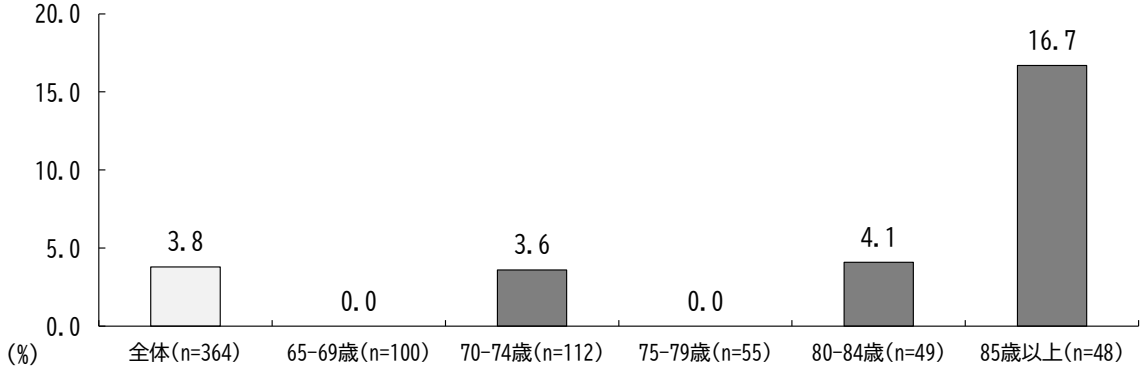
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問４（２）バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可） | １．できるし、している<br>または<br>２．できるけどしていない<br>を選択した場合に１点 |
| | 問４（２）自分で食品・日用品の買い物をしていますか | |
| | 問４（２）自分で食事の用意をしていますか | |
| | 問４（２）自分で請求書の支払いをしていますか | |
| | 問４（２）自分で預貯金の出し入れをしていますか | |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。
※ＩＡＤＬとは手段的日常生活動作（instrumental activity of daily living）の略で、買い物、食事の準備、財産管理、乗り物等の日常生活上の複雑な動作がどの程度可能かを示す指標。

ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）（認定状況別）




ＩＡＤＬ（手段的日常生活動作）:「低い」の割合（一般高齢者／年齢別）



## （４）必要な生活支援サービスについて

| 設問 | 問４（７）今後、あなたが生活していく上で、必要と感じる生活支援・サービスはどれですか<br>（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む） |
|---|---|

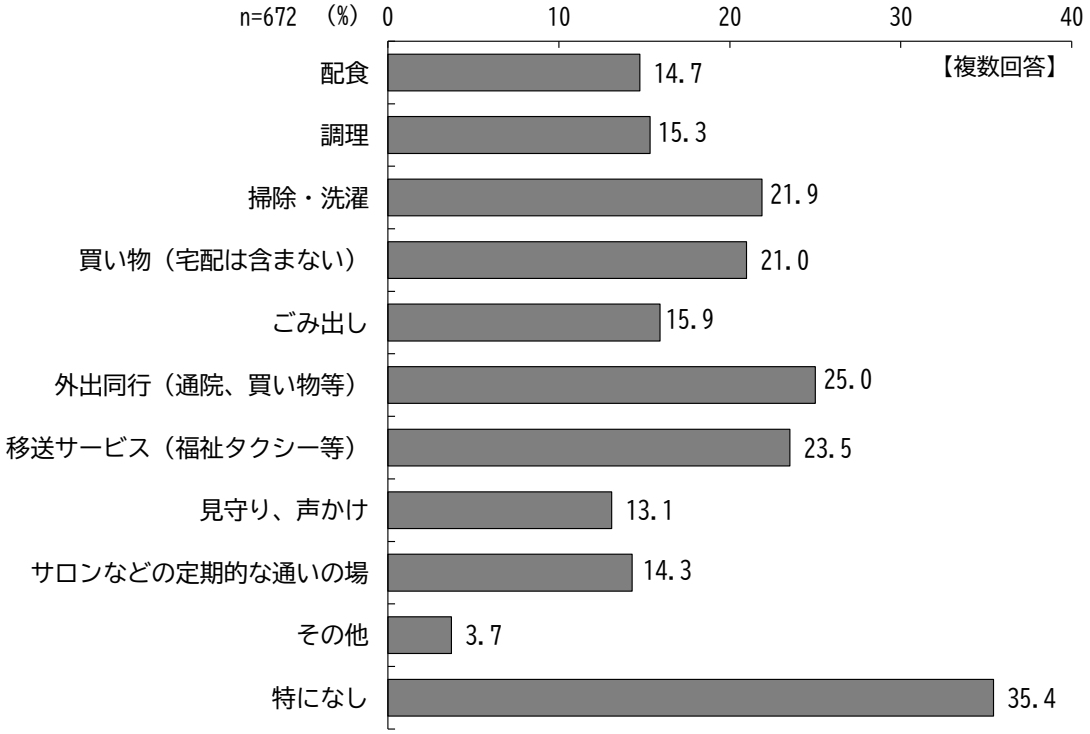
### ①必要な生活支援サービス

必要と感じる生活支援・サービスについては、「特になし」が 35.4%で最も多くなっていますが、具体的には「外出同行（通院、買い物等）」が 25.0%、「移送サービス（福祉タクシー等）」が 23.5%と外出・移動についてのニーズが上位に挙げられ、次いで「掃除・洗濯」(21.9%)、「買い物（宅配は含まない）」(21.0%）が続きます。

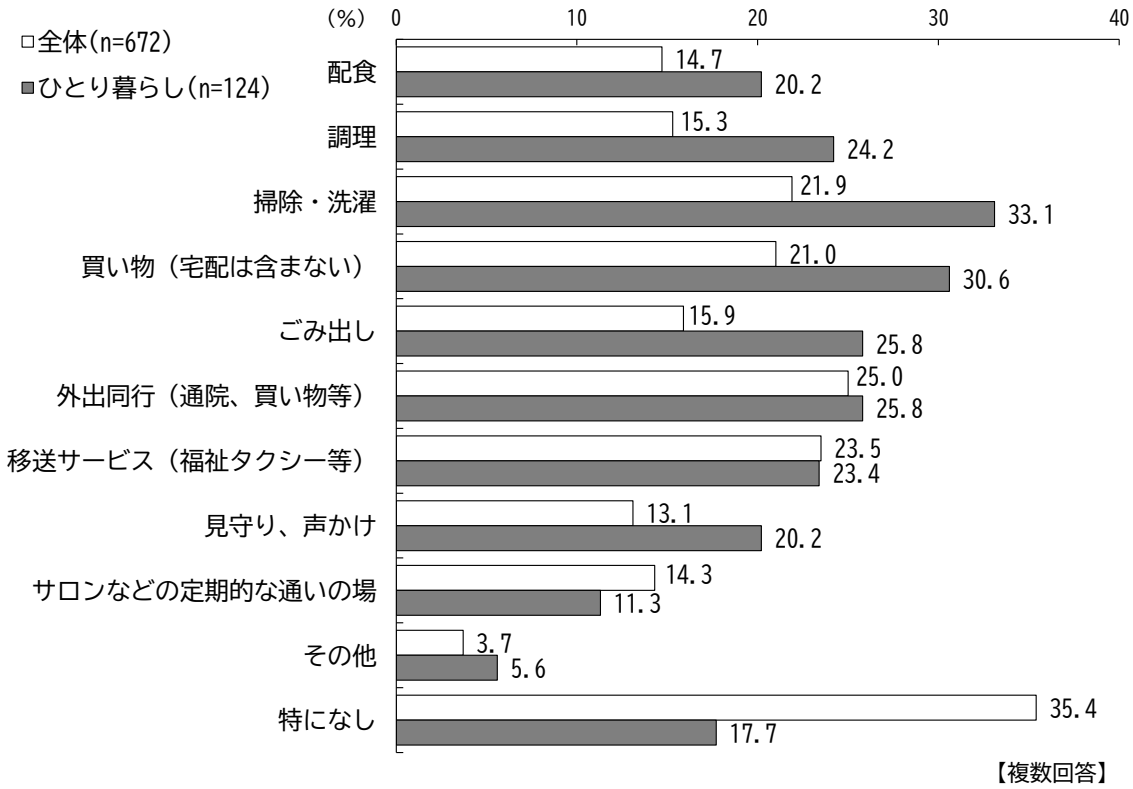
家族構成でひとり暮らしと回答した方の傾向をみると、「特になし」と回答する割合が 17.7%と全体結果の約半分にとどまり、生活支援サービスへのニーズが高いことがうかがえます。具体的には「掃除・洗濯」が 33.1%で最も多く、次いで「買い物(宅配は含まない)」が 30.6%、「ごみ出し」及び「外出同行」(同率:25.8%)が続きます。

さらに、運動機能の低下リスクがあると判定された方の傾向をみると、「外出同行」(34.1%)が最も多く、次いで「掃除・洗濯」(29.7%)、「移送サービス」(29.4%)が続きます。

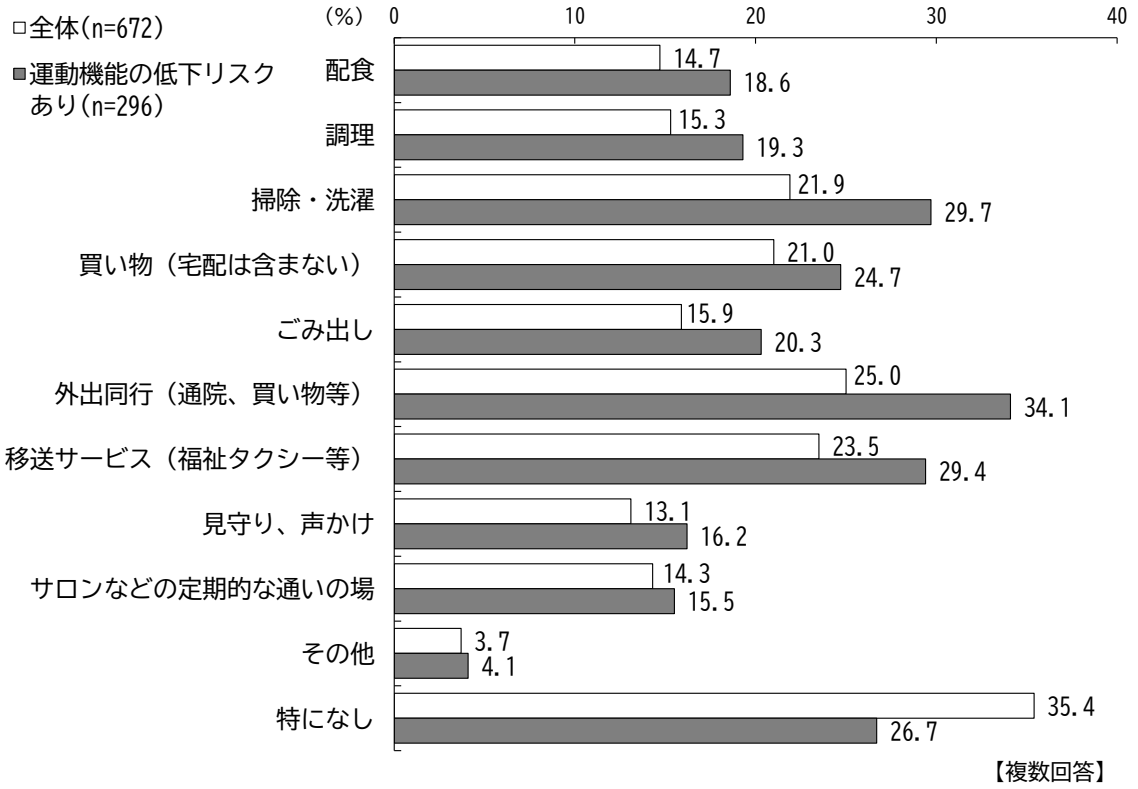
必要な生活支援サービス（全体）



## ひとり暮らし高齢者：必要な生活支援サービス




## 運動機能の低下リスクあり：必要な生活支援サービス



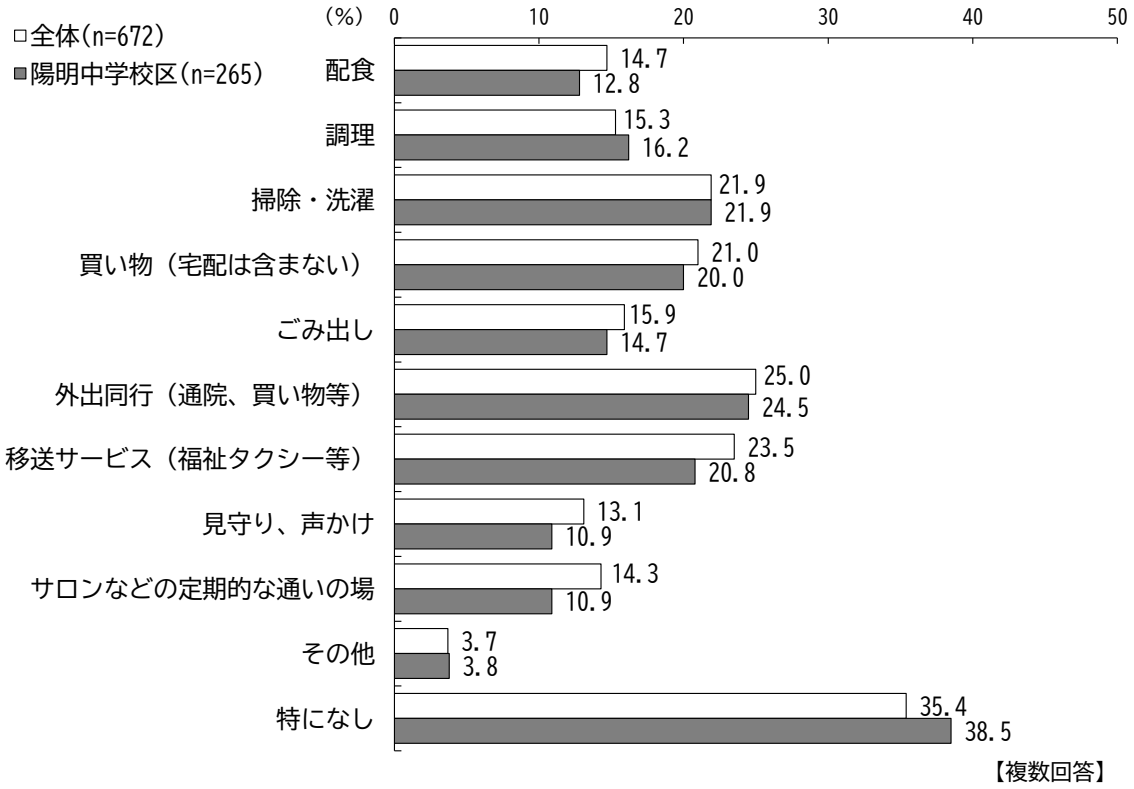
### ②地区ごとにみる必要な生活支援サービス

必要な生活支援サービスについて中学校区別にニーズが高い項目をまとめると次のとおりとなります。

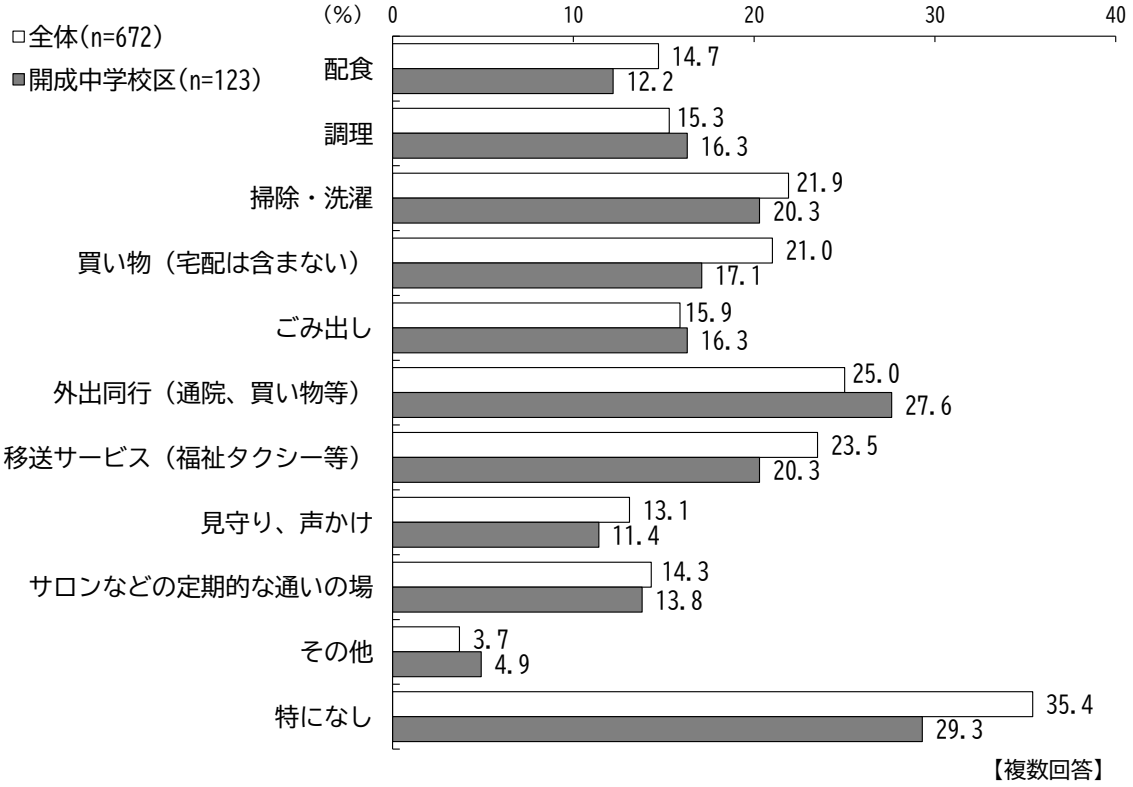
ニーズの高い生活支援サービス（中学校区）

| ニーズの高い項目 | 中学校区 |
|---|---|
| 買い物 | 上庄中学校区（25.2%）、和泉中学校区（26.8%） |
| ごみ出し | 上庄中学校区（25.2%） |
| 移送サービス（福祉タクシー等） | 上庄中学校区（27.2%）、尚徳中学校区（27.2%）、和泉中学校区（28.6%） |
| 見守り・声かけ | 和泉中学校区（23.2%） |
| サロンなど定期的な通いの場 | 和泉中学校区（18.4%） |

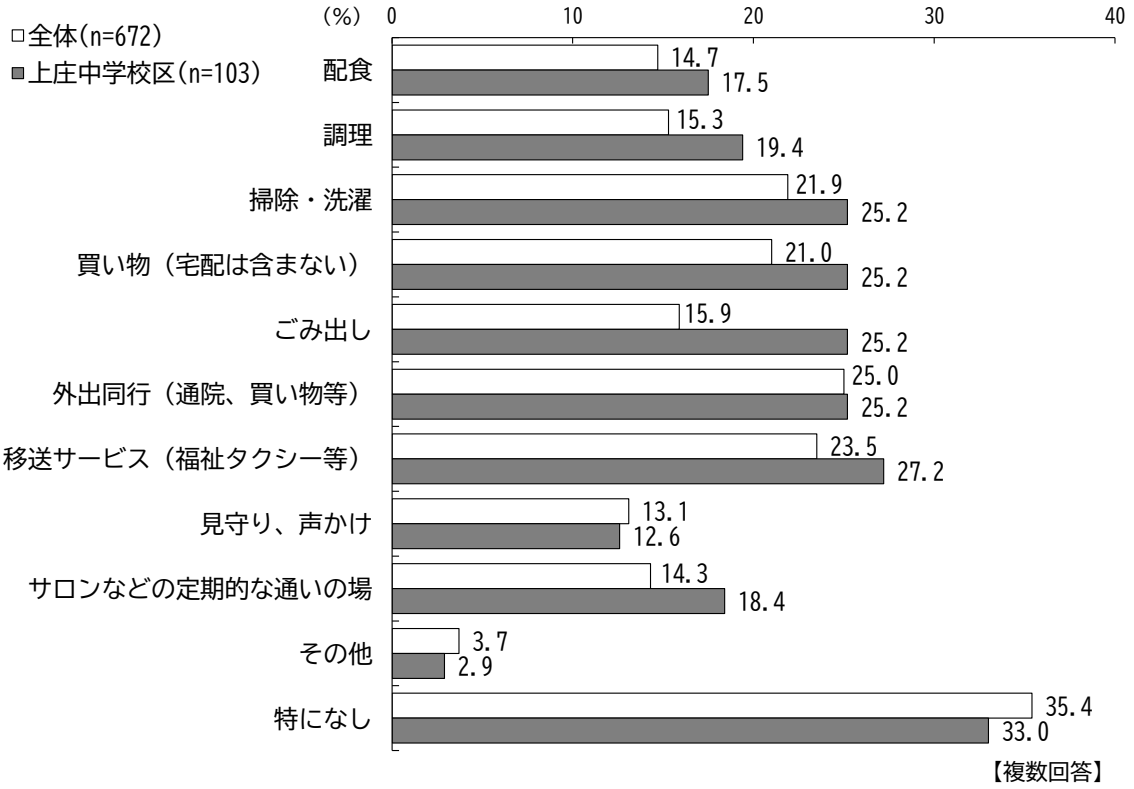
必要な生活支援サービス（全体・陽明中学校区）



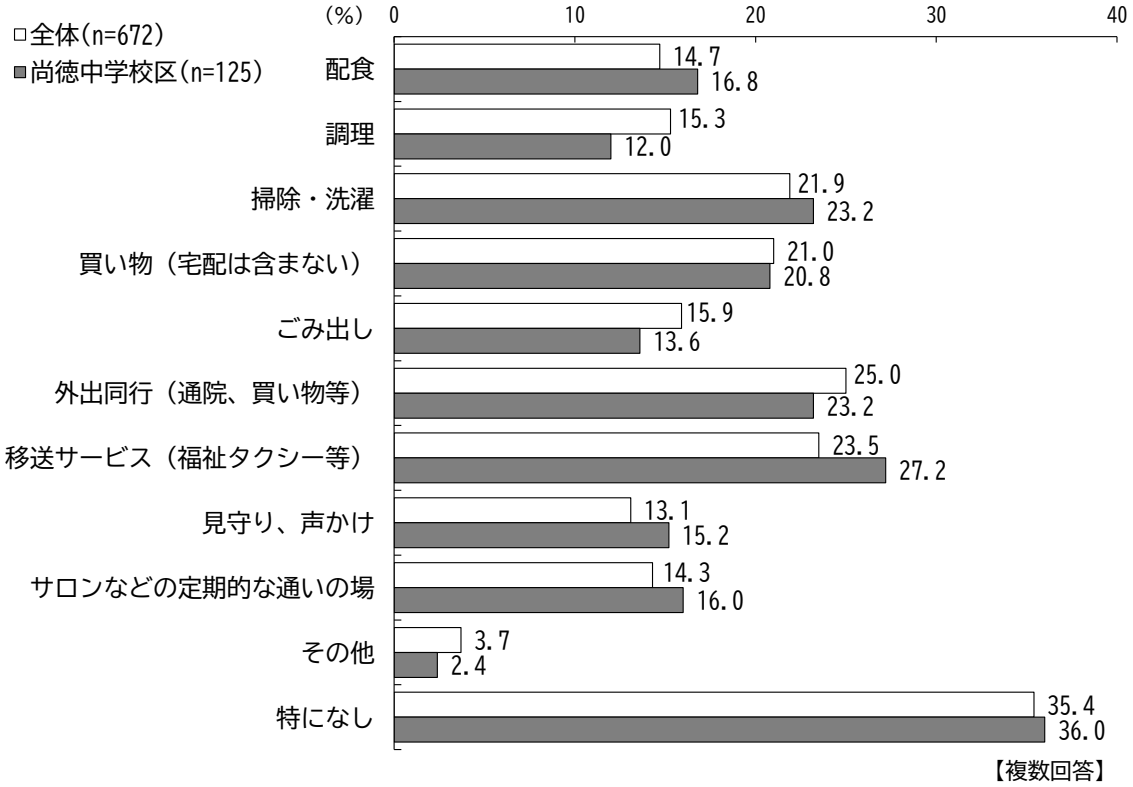
## 必要な生活支援サービス（全体・開成中学校区）



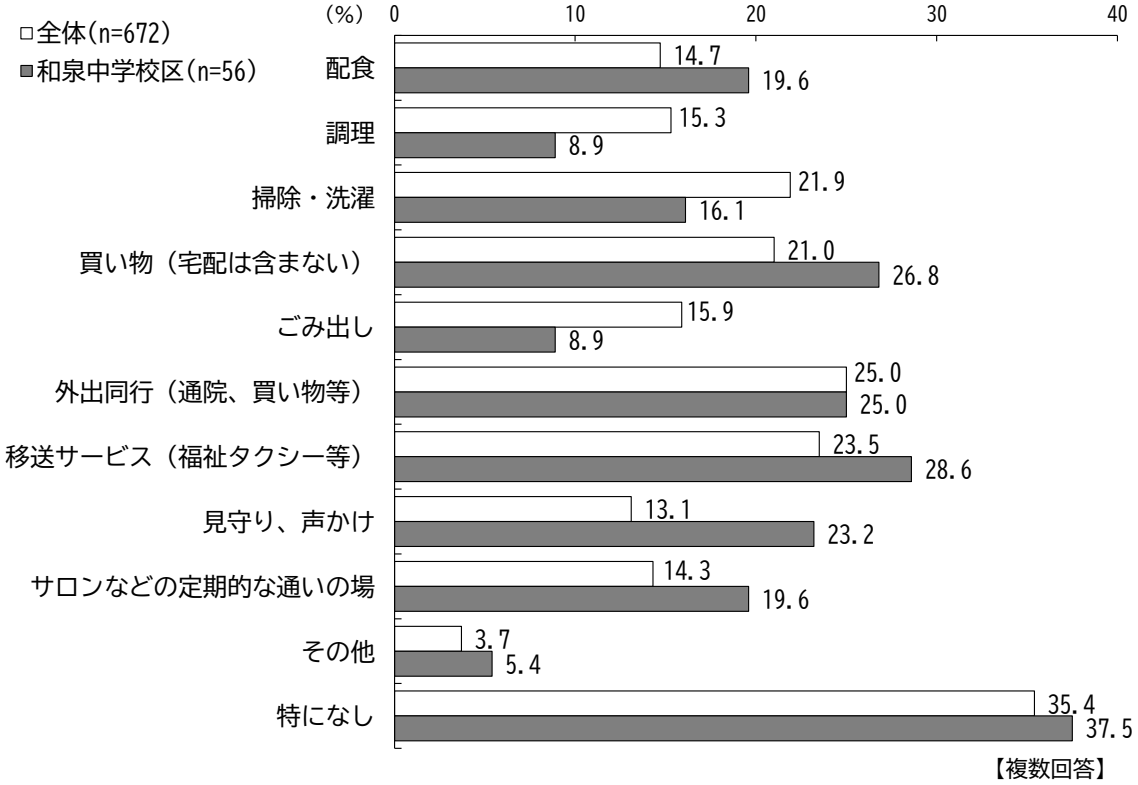

## 必要な生活支援サービス（全体・上庄中学校区）



## 必要な生活支援サービス（全体・尚徳中学校区）




## 必要な生活支援サービス（全体・和泉中学校区）



## （５）インターネットの利用について

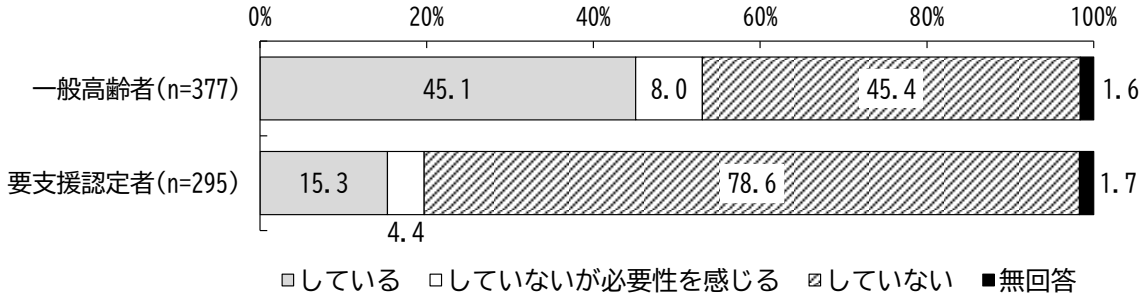
| | |
|---|---|
| 設問 | 問４（８）あなたはパソコン・スマートフォン（スマホ）・タブレットを用いてインターネットを利用していますか<br>問４（８）※利用していない理由を教えてください |

### ①インターネットの利用状況

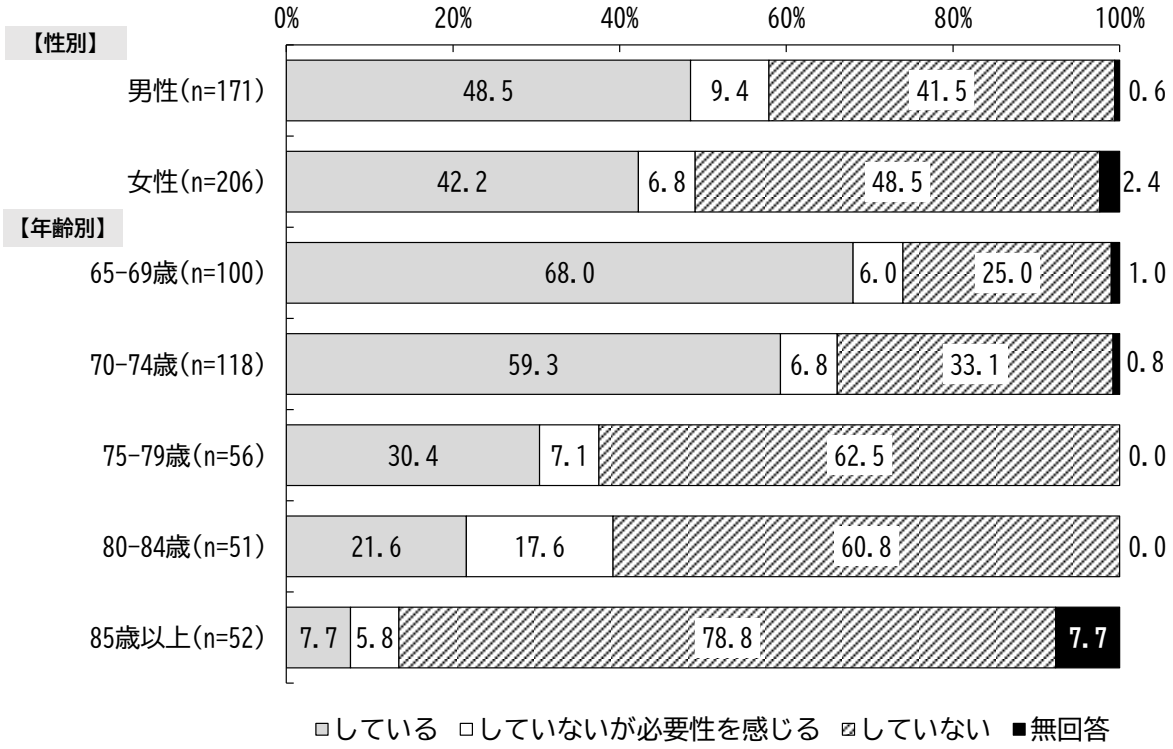
インターネットの利用状況については、「している」が一般高齢者で 45.1%、要支援認定者で 15.3%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別の男性で「している」(48.5%) が女性 (42.2%) を上回ります。また、年齢別では 65-69 歳では約 7 割、70-74 歳では約 6 割が利用していますが、おおむね加齢とともに「している」と回答する割合が減少します。

インターネットの利用（認定状況別）




インターネットの利用（一般高齢者／性別・年齢別）

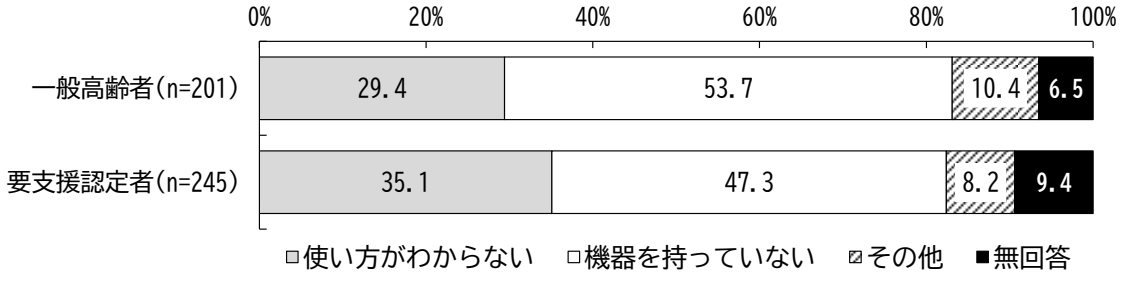


### ②インターネットを利用していない理由

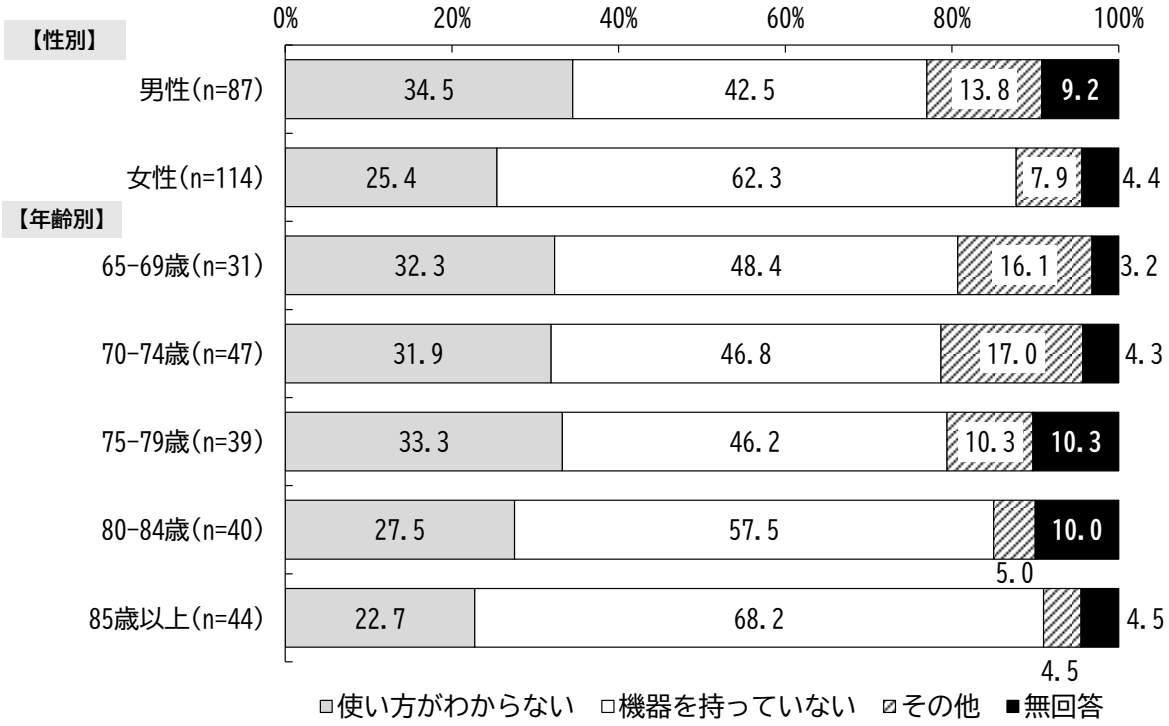
インターネットを利用していない理由については、「機器を持っていない」が一般高齢者で 53.7%、要支援認定者で 47.3%となっています。

一般高齢者の傾向をみると、性別では「機器を持っていない」が男性・女性ともに最も多くなっています。また、年齢別では、おおむね加齢とともに「機器を持っていない」と回答する割合が増加します。また、80 歳未満の層ではでは「使い方がわからない」がそれぞれ３割強となっています。

インターネットを利用していない理由（認定状況別）




インターネットを利用していない理由（一般高齢者／性別・年齢別）



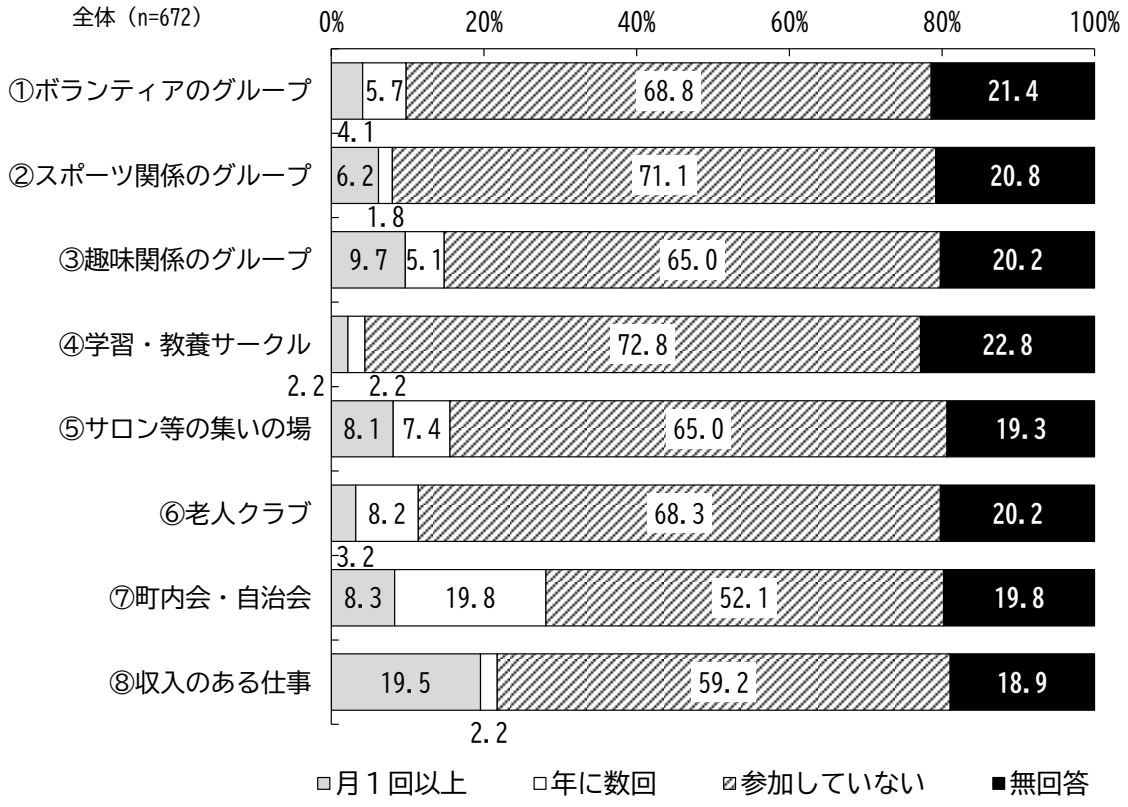
# ７．地域での活動について

## （１）各種地域活動への参加状況

| 設問 | 問５（１）以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか |
|---|---|

各種地域活動への参加状況については、「参加していない」が各活動で多数を占める結果となっています。また、「月１回以上」と回答した割合は、⑧収入のある仕事（19.5%）が最も多く、次いで③趣味関係のグループ（9.7%）、⑦町内会・自治会（8.3%）、⑤サロン等の集いの場（8.1%）が続きます。

各種地域活動への参加状況（全体）



## （２）地域活動への参加意向

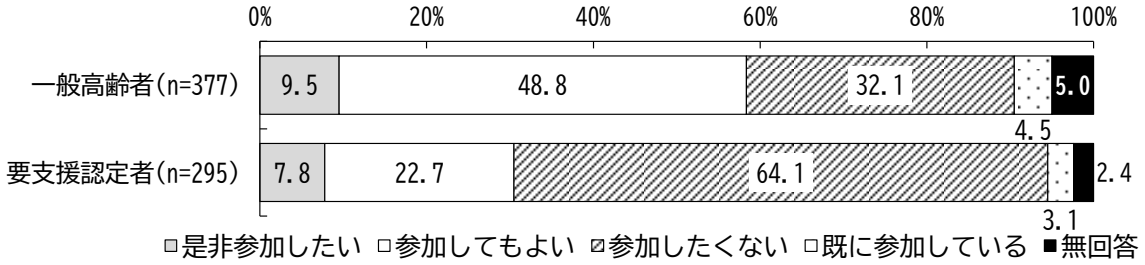
| | |
|---|---|
| 設問 | 問５（２）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか<br>問５（３）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか |

### ①参加者としての参加意向

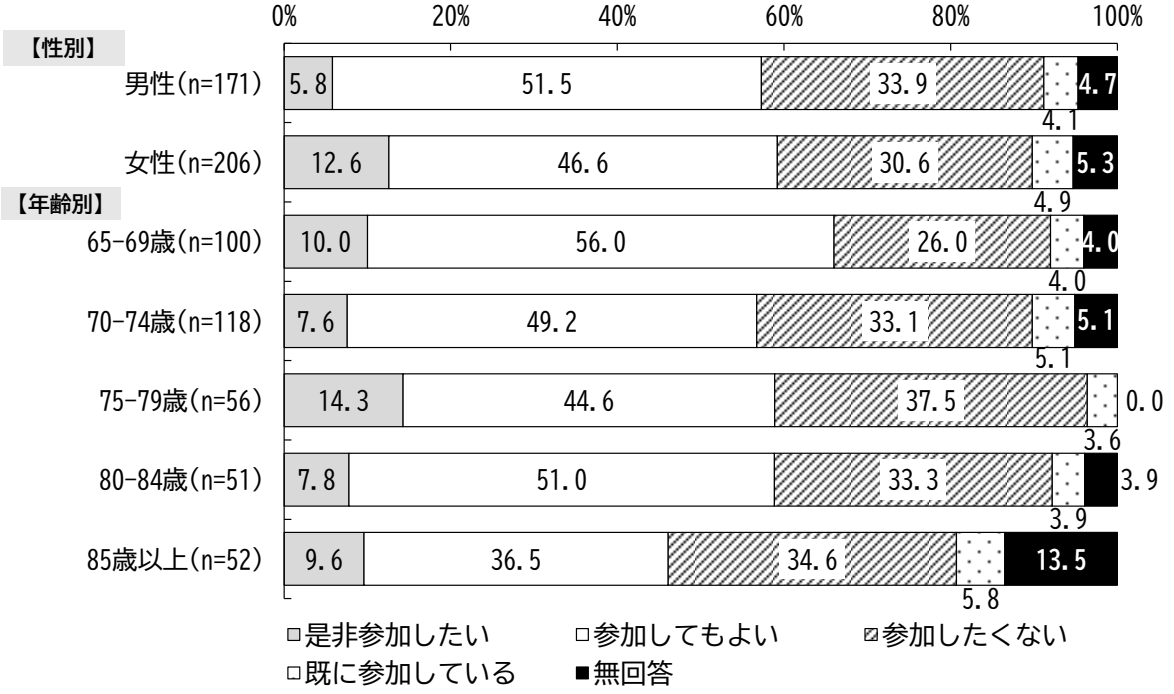
地域活動への参加者としての参加意向は、一般高齢者では「参加してもよい」が48.8％と約半数を占めますが、要支援認定者では「参加したくない」が 64.1％と６割を超えます。

一般高齢者の傾向をみると、性別では男性・女性ともに参加意向のある方が６割弱となっています。また、年齢別では 65-69 歳で参加意向のある方が６割を超えています。

参加者としての参加意向（認定状況別）

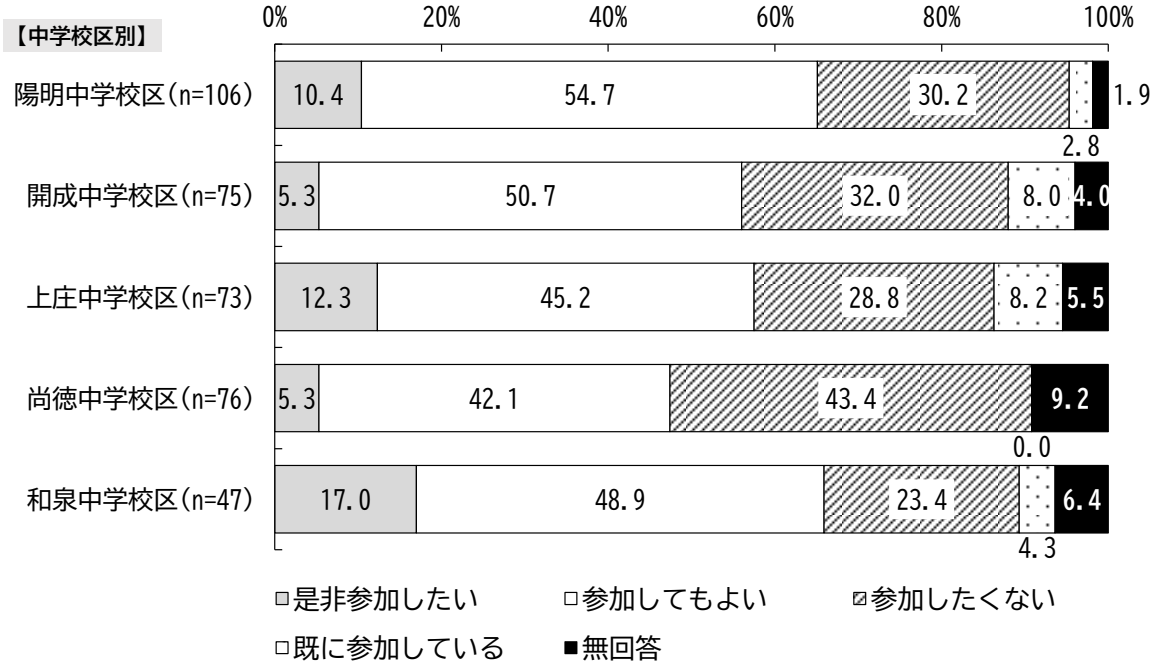



参加者としての参加意向（一般高齢者／性別・年齢別）



さらに、一般高齢者の中学校区別でみると、陽明中学校区、和泉中学校区で参加意向のある方が６割を超えています。なお、「既に参加している」は開成中学校区、上庄中学校区で１割弱と比較的多くなっています。

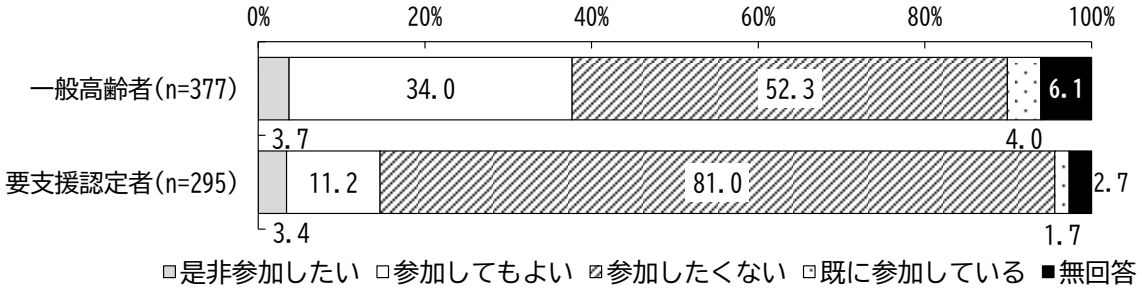
参加者としての参加意向（一般高齢者／中学校区別）




## ②企画・運営側としての参加意向

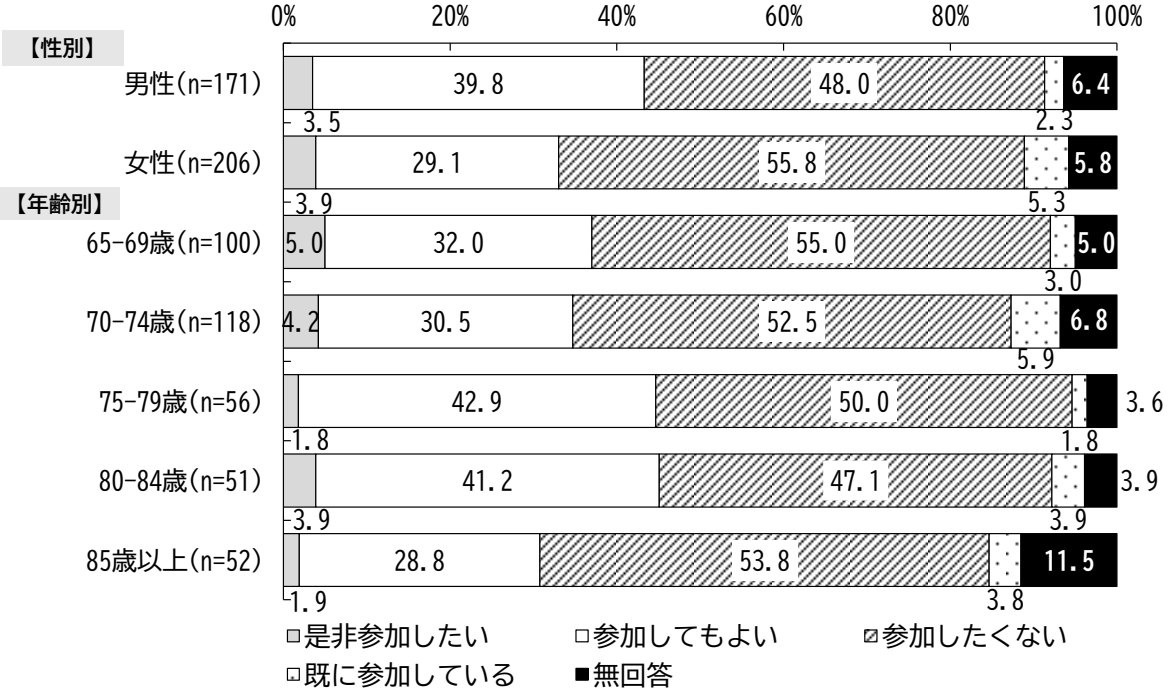
地域活動への企画・運営側としての参加意向は、一般高齢者では「参加してもよい」が 34.0％と３割を超えますが、要支援認定者では「参加したくない」が 81.0％と約８割となっています。

企画・運営側としての参加意向（認定状況別）

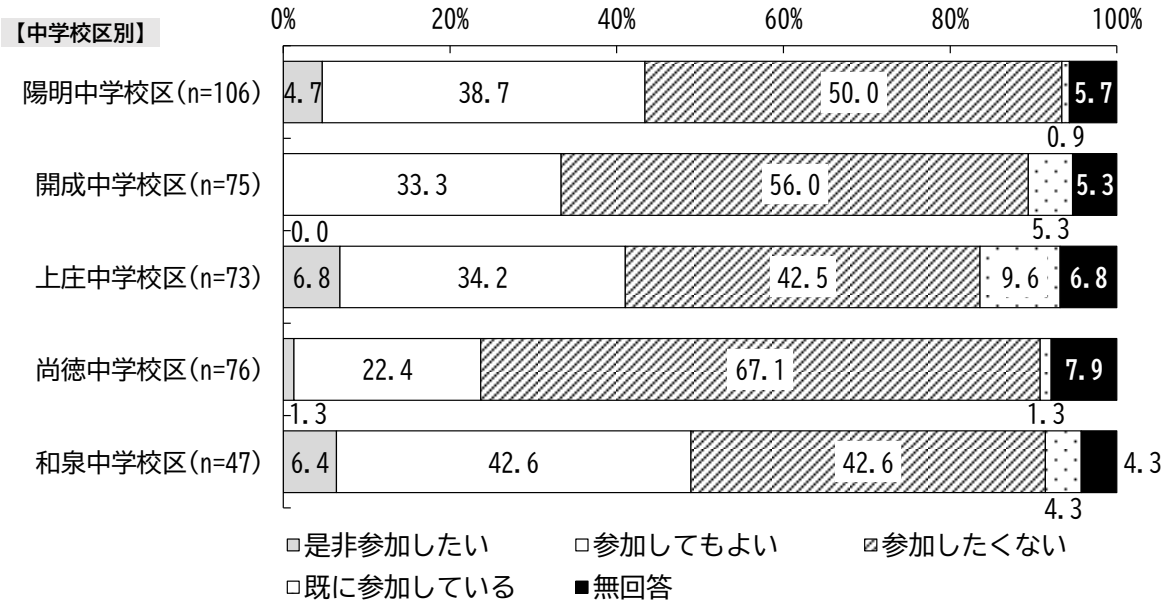


一般高齢者の傾向をみると、性別では男性の「参加してもよい」（39.8%）が女性（29.1%）を上回ります。また、年齢別では「参加してもよい」の割合が 75-79 歳（42.9%）、80-84 歳（41.2%）で多くなっています。さらに、中学校区別でみると、和泉中学校区で参加意向のある方が多くなっています。なお、「既に参加している」は上庄中学校区で約１割と比較的多くなっています。

**企画・運営側としての参加意向（一般高齢者／性別・年齢別）**




**企画・運営側としての参加意向（一般高齢者／中学校区別）**



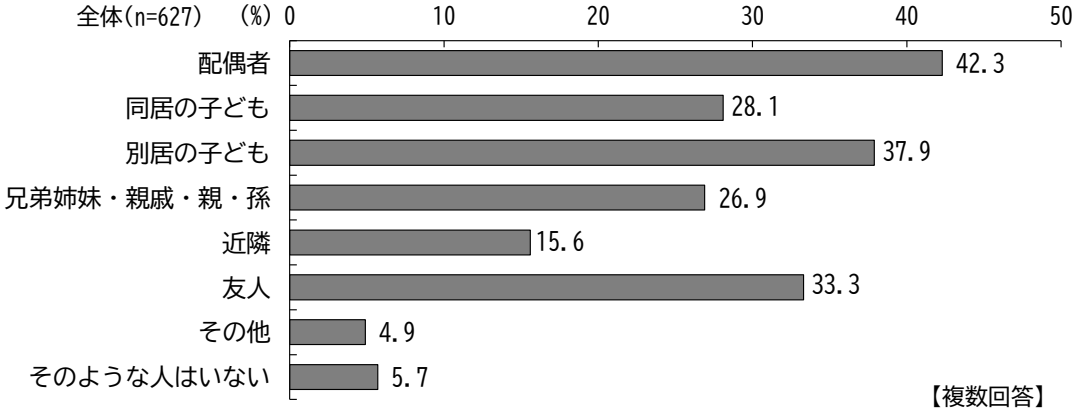
# ８．たすけあいについて

## （１）心配事など

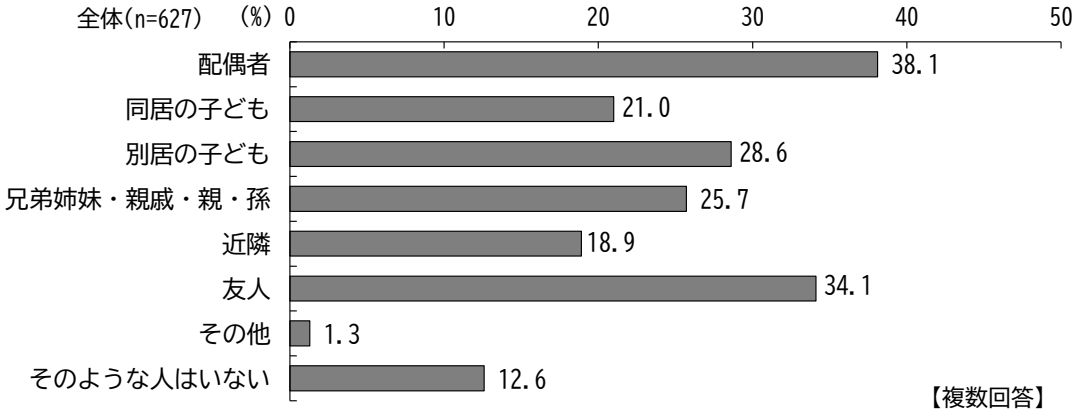
| 設問 | 問６（１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人<br>問６（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人 |
|---|---|

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人やあなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人についてたずねたところ、双方とも「配偶者」が最も多くなっています。

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（全体）




あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（全体）

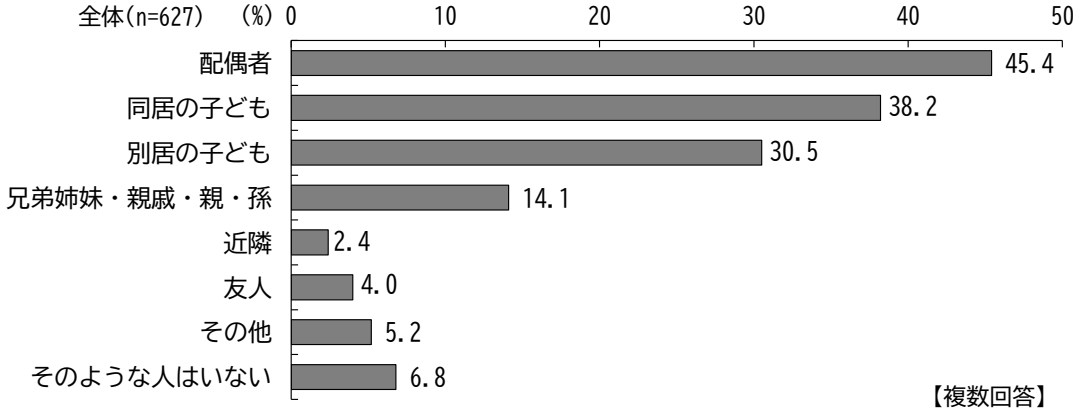


## （２）看病や世話

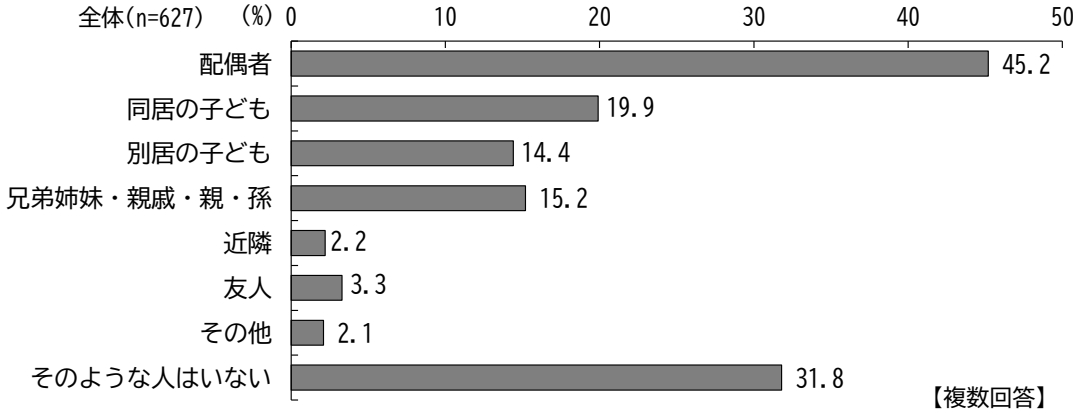
| 設問 | 問６（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人<br>問６（４）反対に、看病や世話をしてあげる人 |
|---|---|

看病や世話をしてくれる人や看病や世話をしてあげる人についてたずねたところ、双方とも「配偶者」が最も多くなっています。

看病や世話をしてくれる人（全体）




看病や世話をしてあげる人（全体）



## （３）たすけあいやボランティアへの参加意向

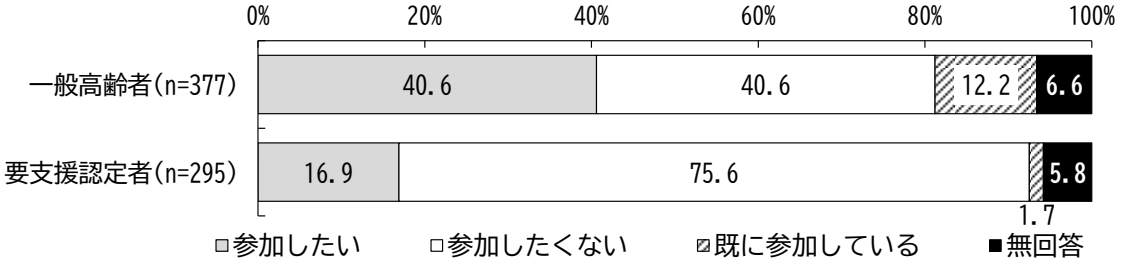
| 設問 | 問６（５）あなたは近隣住民によるたすけあいやボランティア活動について、参加したいと思いますか |
|---|---|

近隣住民によるたすけあいやボランティア活動への参加意向については、「参加したい」が一般高齢者で 40.6%、要支援認定者で 16.9%となっています。なお、一般高齢者では「既に参加している」が 12.2%となっています。

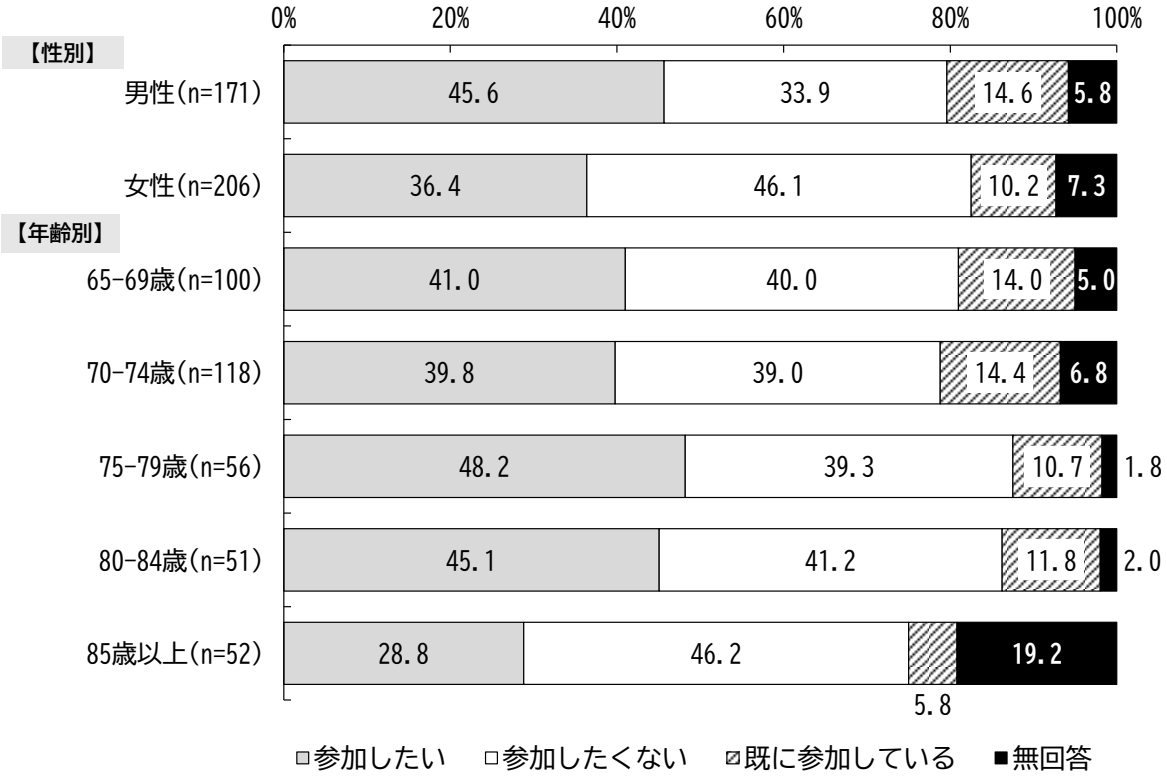
一般高齢者の傾向をみると、性別では男性で「参加したい」（45.6%）が女性（36.4%）を上回ります。また、年齢別では 75-79 歳で「参加したい」（48.2%）が約半数を占め最も多くなっています。

中学校区別でみると、「参加したい」は陽明中学校区（47.2%）で最も多く、「既に参加している」は和泉中学校区（17.0%）で最も多くなっています。

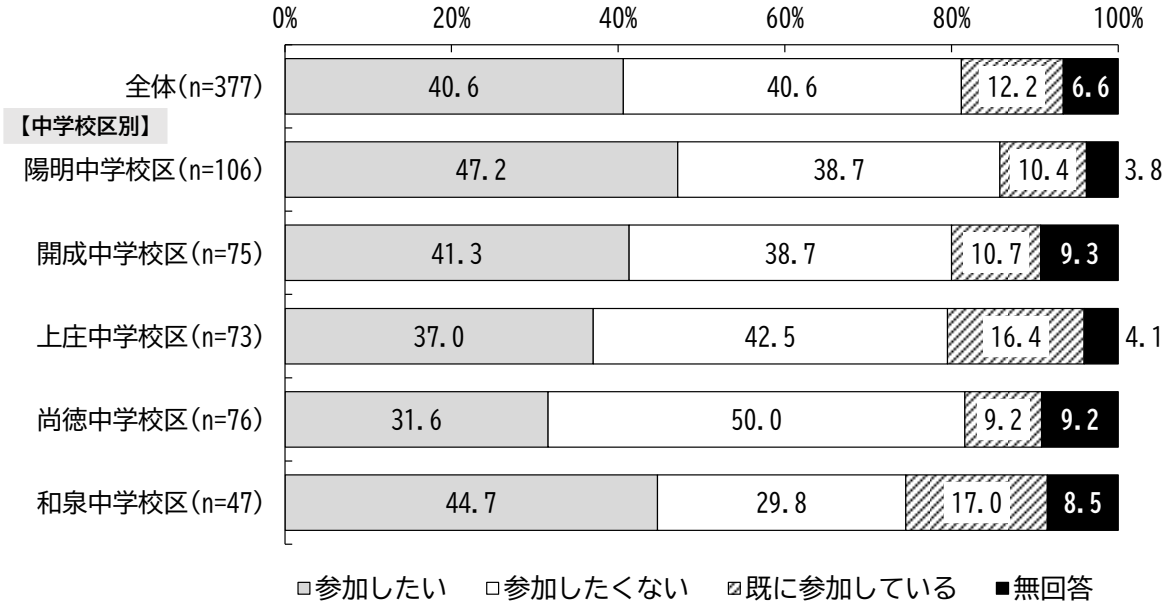
たすけあいやボランティアへの参加意向（認定状況別）




たすけあいやボランティアへの参加意向（一般高齢者／性別・年齢別）



たすけあいやボランティアへの参加意向（一般高齢者／中学校区別）



# ９．健康状態について

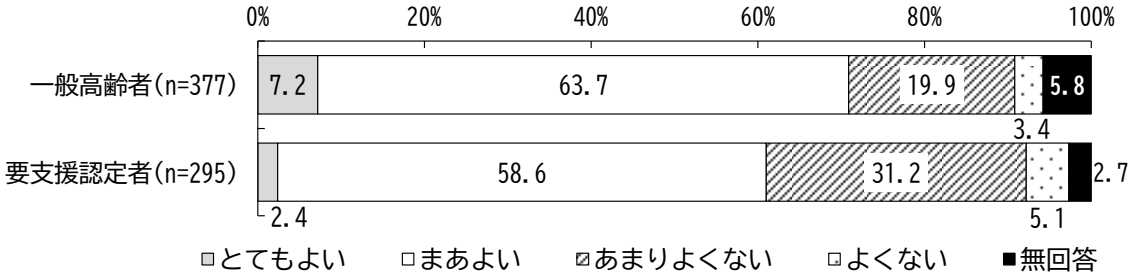
## （１）主観的健康観

| 設問 | 問７（１）現在のあなたの健康状態はいかがですか |
|---|---|

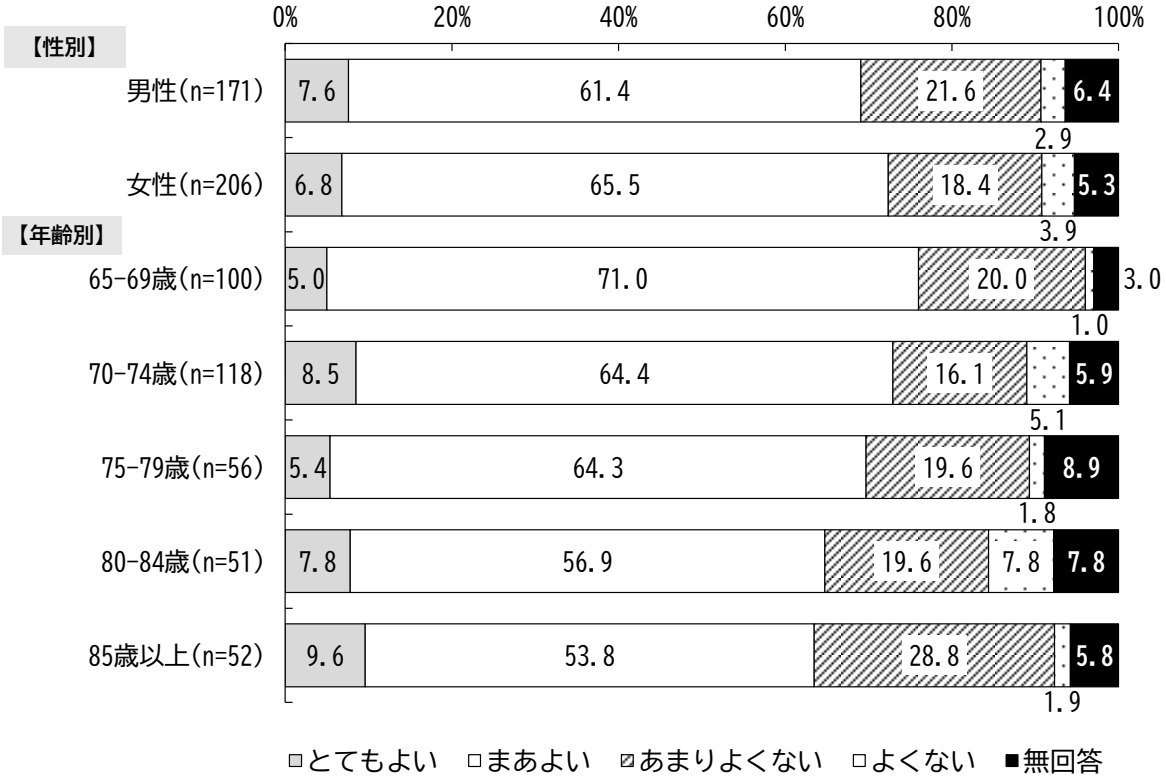
現在の健康状態についてたずねたところ、「まあよい」が一般高齢者で 63.7%、要支援認定者で 58.6%と、それぞれ最も多い回答となっています。

一般高齢者の傾向をみると、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）と回答する割合は、男性・女性ともに２割強となっています。年齢別では、『よくない』と回答する割合が加齢とともに増加し、85 歳以上では 30.7%と約３割となっています。

主観的健康観（認定区分別）




主観的健康観（一般高齢者／性別・年齢別）

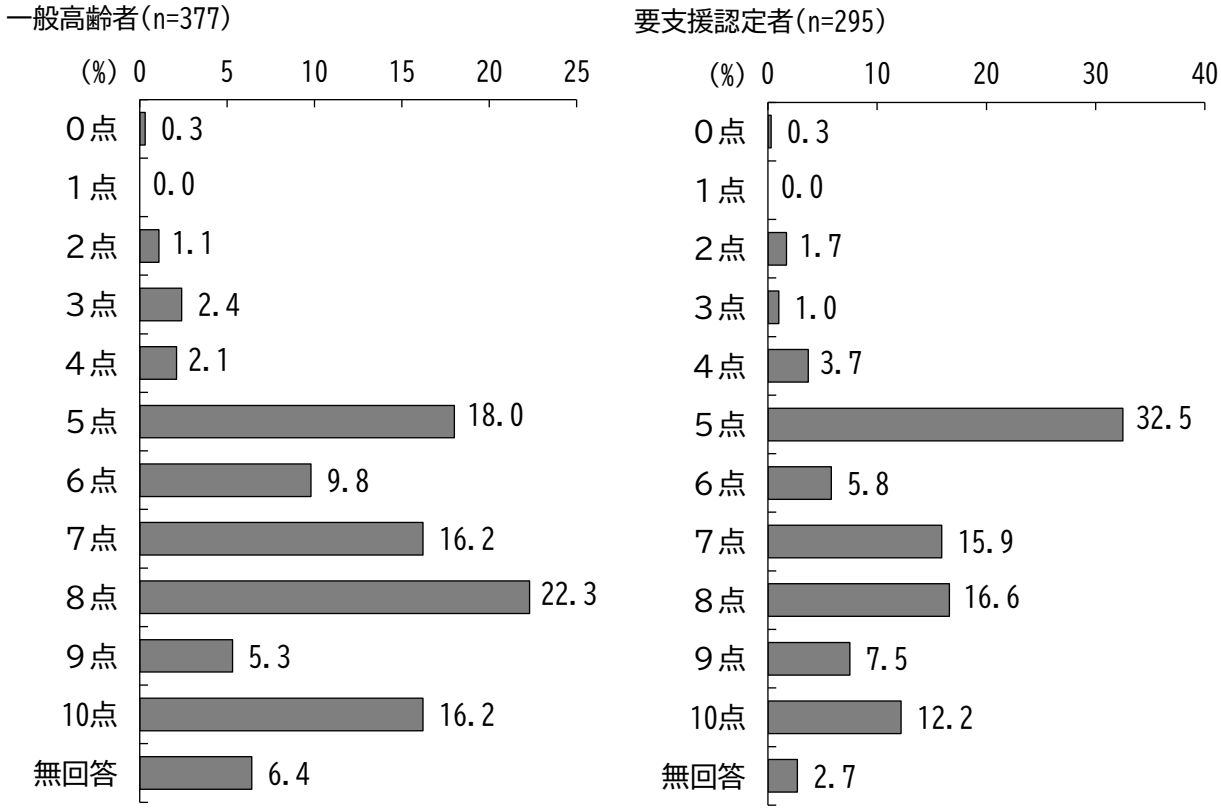


## （２）幸福度

| 設問 | 問７（２）あなたは、現在どの程度幸せですか |
|---|---|

現在、どの程度幸せと感じるかについて、「とても幸せ」を 10 点とし、10 点満点中の何点であるかたずねたところ、一般高齢者では「８点」(22.3%)、要支援認定者では「５点」(32.5%) が最も多く、回答結果より平均点を算出したところ、一般高齢者では 7.13 点、要支援認定者では 6.70 点という結果になりました。

幸福度（認定状況別）




幸福度（平均点）

| | 一般高齢者 | 要支援認定者 |
|---|---|---|
| 全体 | 7.13 | 6.70 |
| 男性 | 6.99 | 6.07 |
| 女性 | 7.25 | 6.92 |
| 65-69歳 | 7.14 | 6.17 |
| 70-74歳 | 6.92 | 6.13 |
| 75-79歳 | 7.35 | 5.90 |
| 80-84歳 | 7.29 | 6.44 |
| 85歳以上 | 7.23 | 7.14 |

## （３）うつ傾向

問７（３）及び問７（４）の２項目において、いずれか１つでも「１．はい」を選択した場合をうつ傾向の「リスクあり」と判定しました。

その結果をみると、「リスクあり」に該当する回答者は、一般高齢者で 39.3%、要支援認定者で 45.4%となっています。また、認定区分別でみると「要支援２」で「リスクあり」の割合が 50.5%と多い傾向がみられます。

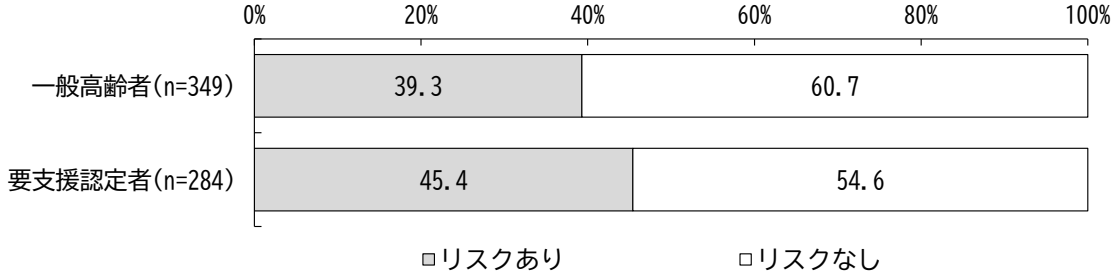
一般高齢者の傾向を年齢別でみると、85 歳（47.7%）、75-79 歳（47.1%）、65-69 歳（44.8%）で「リスクあり」の割合が多くなっています。また、中学校区別では、開成中学校区で 45.7%と４割を超えています。

うつ傾向を判定するための項目

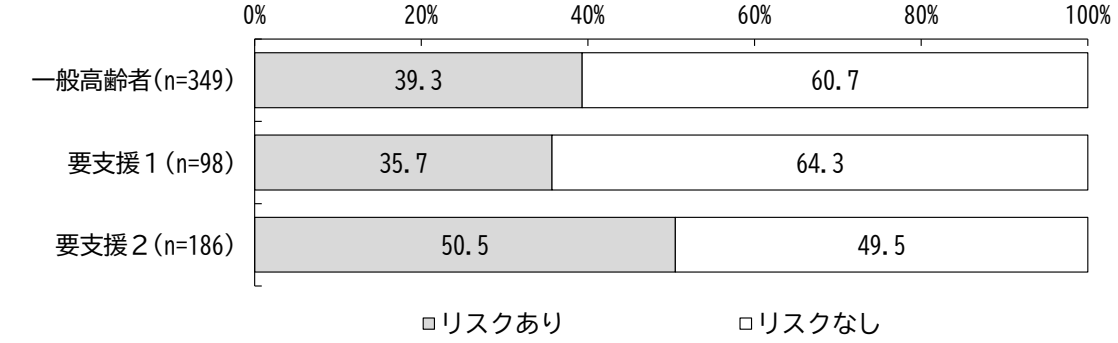
| | 設問内容 | 選択肢 |
|---|---|---|
| 設問 | 問７（３）この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか | １．はい |
| | 問７（４）この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか | １．はい |

※リスク状況を判定する各設問が無回答である場合、判定が行えないため、集計対象から外しています。

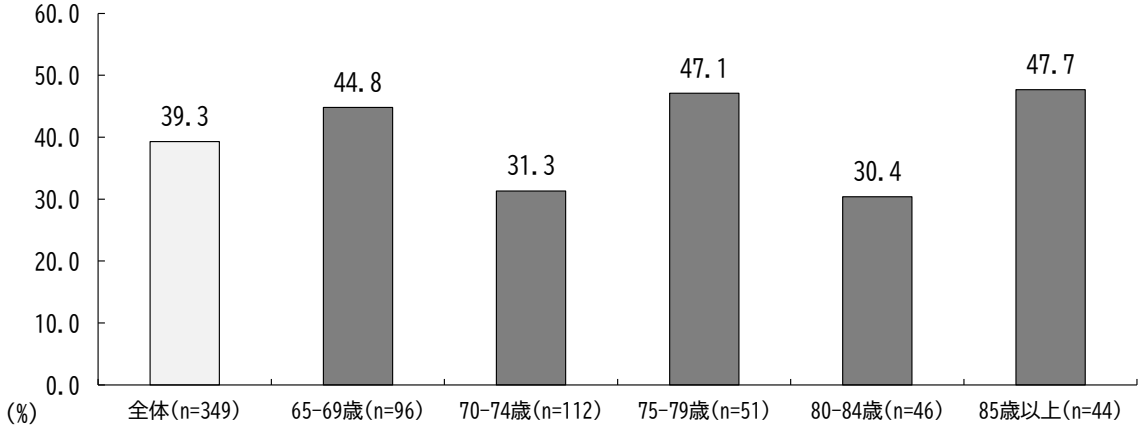
うつ傾向（認定状況別）



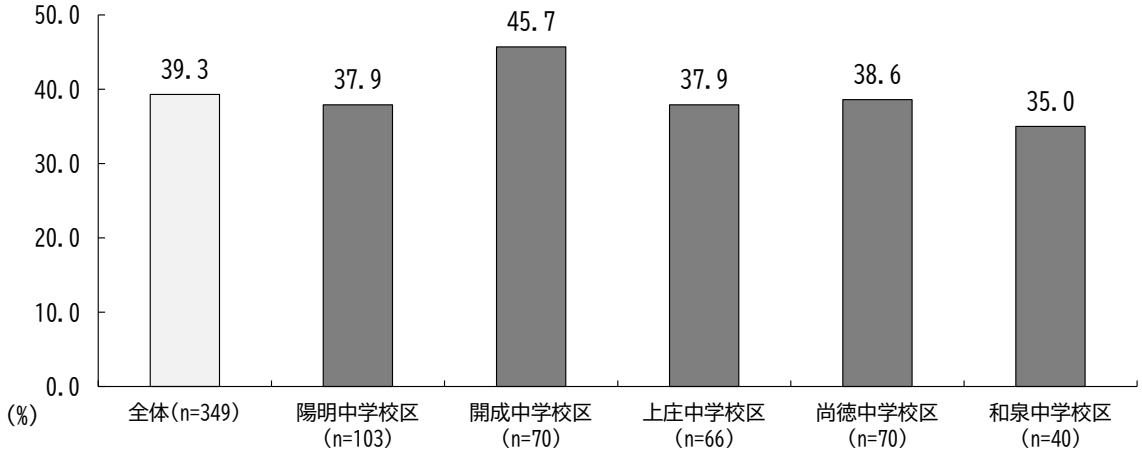

うつ傾向（認定区分別）



うつ傾向：「リスクあり」の割合（一般高齢者／年齢別）




うつ傾向：「リスクあり」の割合（一般高齢者／中学校区別）



## （４）喫煙について

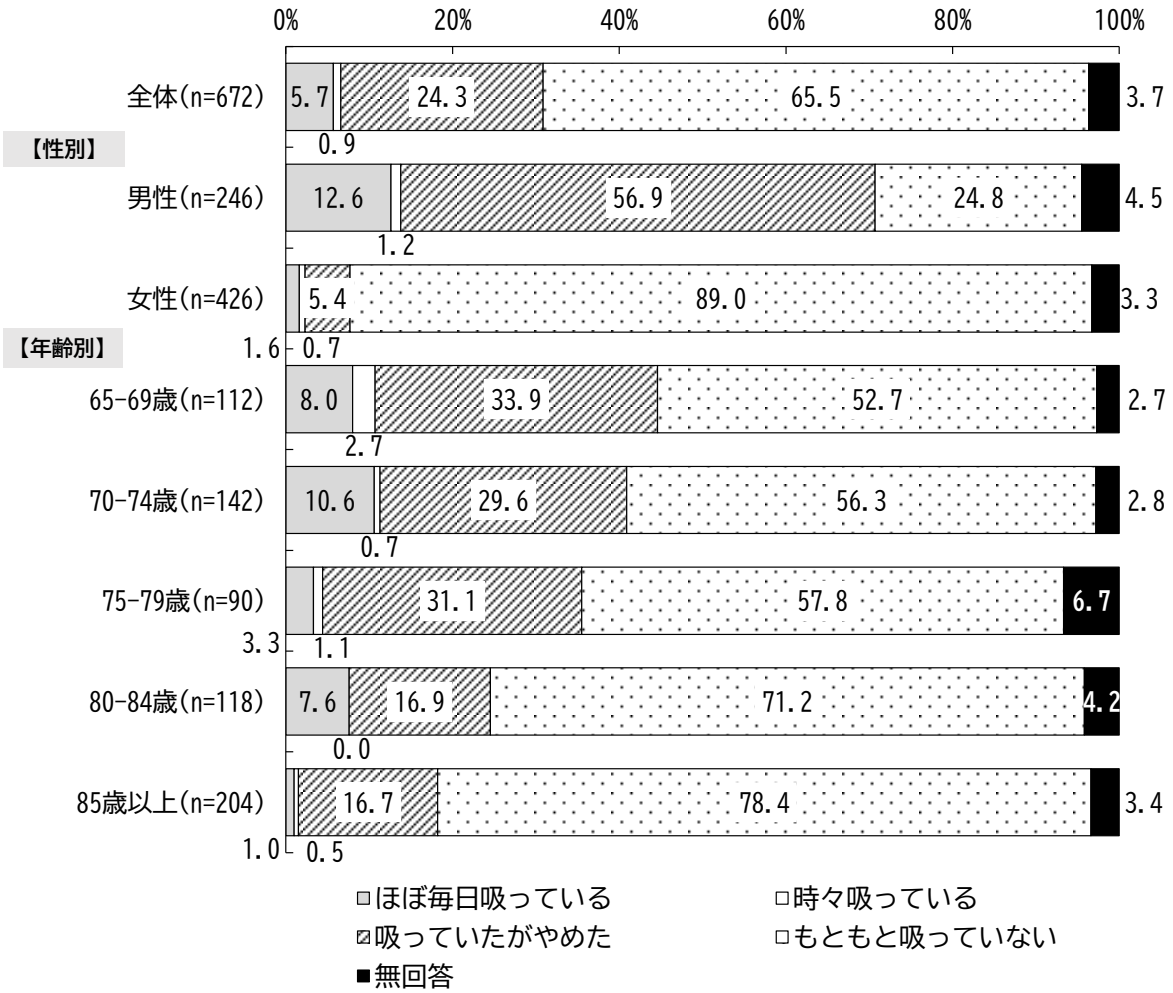
| 設問 | 問７（５）タバコは吸っていますか |
|---|---|

喫煙状況については、「もともと吸っていない」が 65.5％と６割を超え、「吸っていたがやめた」が 24.3％となっています。

性別でみると、男性では「吸っていたがやめた」(56.9％)、女性では「もともと吸っていない」(89.0％）がそれぞれ最も多くなっています。

年齢別でみると、「もともと吸っていない」が各年齢層で最も多い回答となっています。

喫煙について（全体・性別・年齢別）



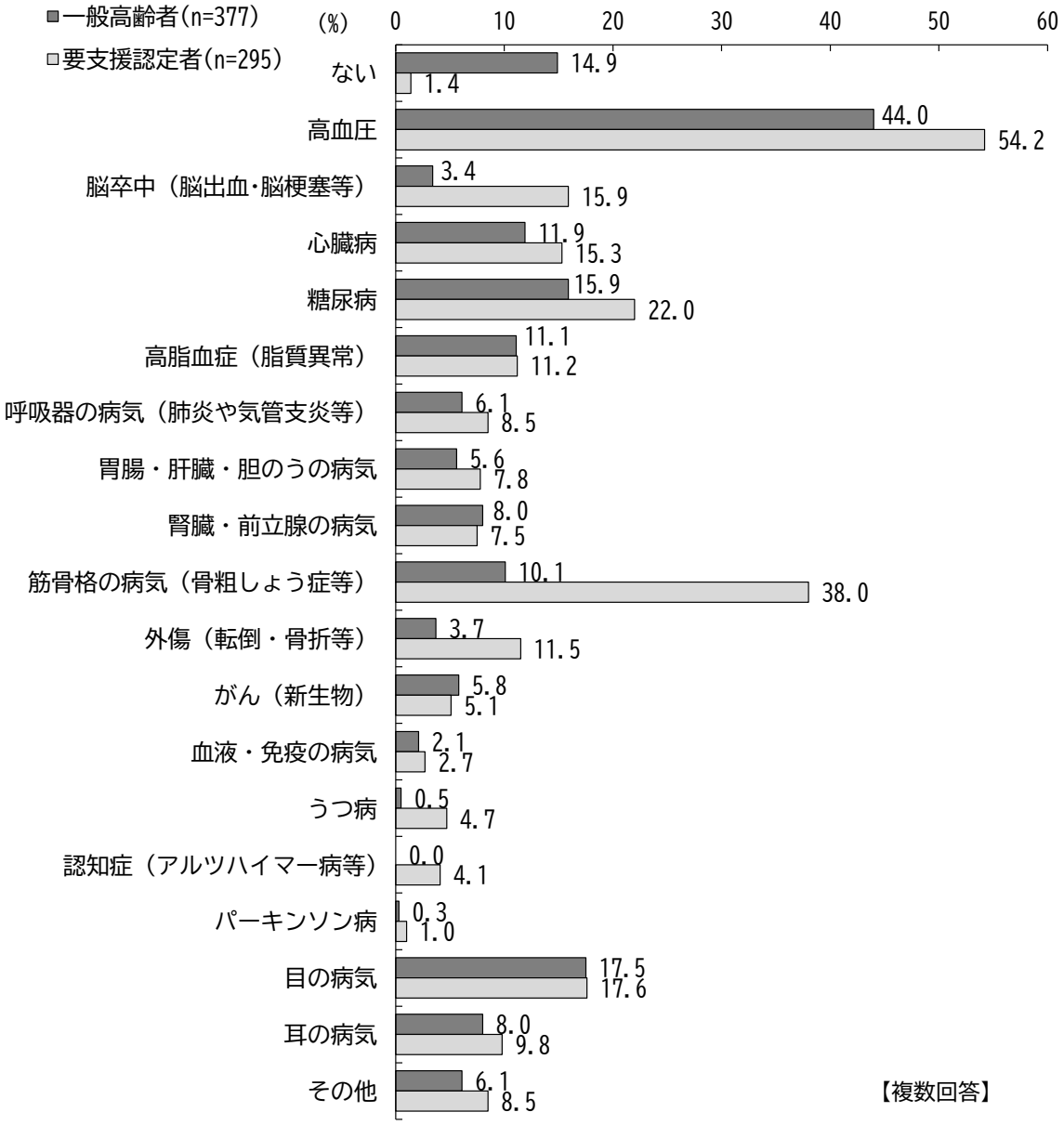
## （５）現在治療中、または後遺症のある病気について

| 設問 | 問７（６）現在治療中、または後遺症のある病気はありますか |
|---|---|

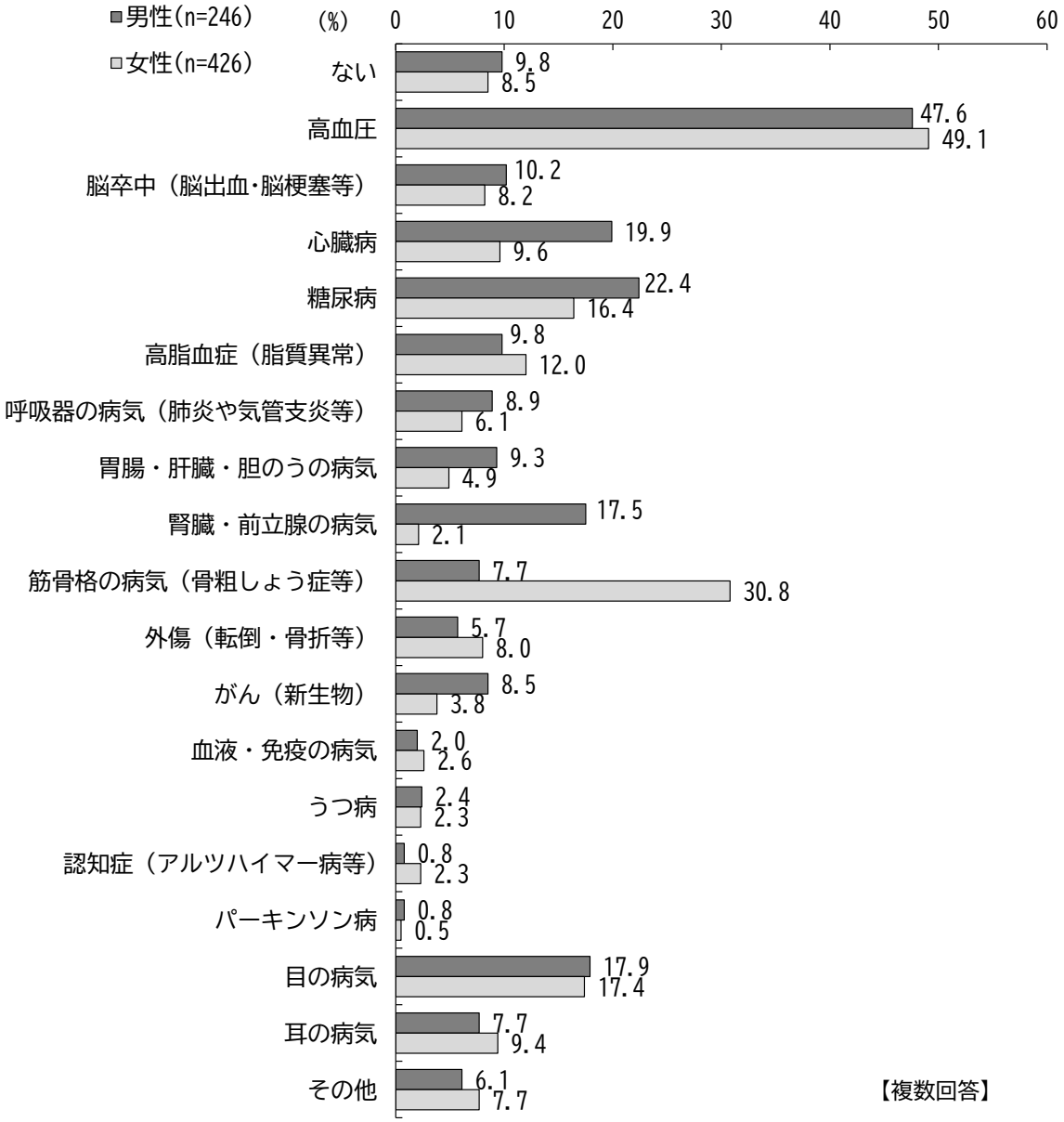
現在治療中、または後遺症のある病気については、一般高齢者、要支援認定者ともに「高血圧」が最も多く、一般高齢者では「目の病気」が続きますが、要支援認定者では「筋骨格の病気（骨粗しょう症等）」が続きます。

性別でみても、男性、女性ともに「高血圧」が最も多く、男性では「糖尿病」が続きますが、女性では「筋骨格の病気（骨粗しょう症等）」が続きます。

**現在治療中、または後遺症のある病気について（認定区分別）**



現在治療中、または後遺症のある病気について（性別）



# 10. 認知症について

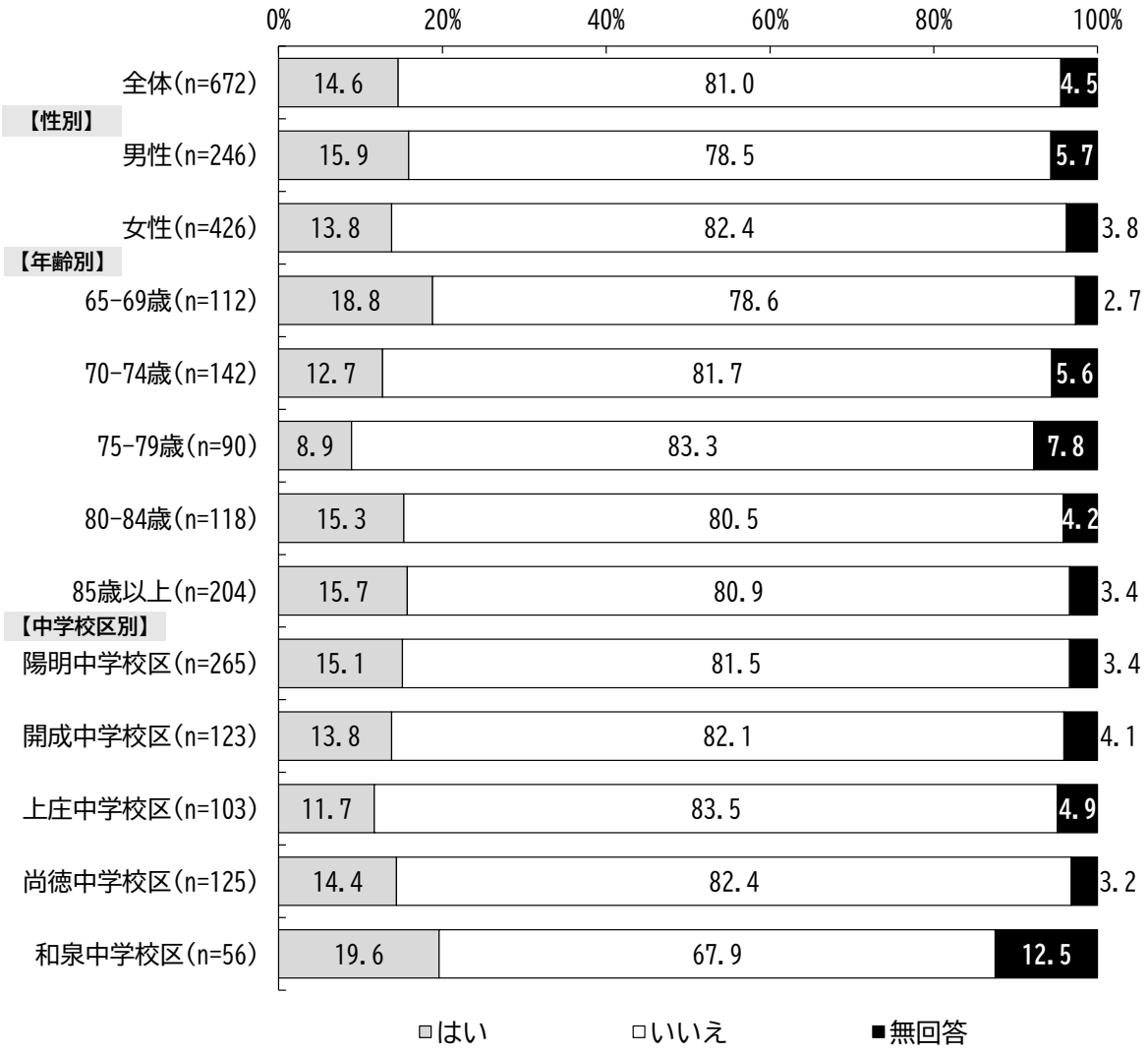
## （１）認知症の症状

| 設問 | 問８（１）認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか |
|---|---|

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをたずねたところ、「はい」が 14.6%、「いいえ」が 81.0%となっています。

「はい」と回答する割合をみると、性別では大きな差はみられませんが、年齢別では 65-69 歳（18.8%）、中学校区別では和泉中学校区（19.6%）で比較的多くなっています。

認知症の症状（全体・性別・年齢別・中学校区別）



## （２）認知症についての相談窓口の認知度

| 設問 | 問８（２）認知症についての相談窓口を知っていますか |
|---|---|

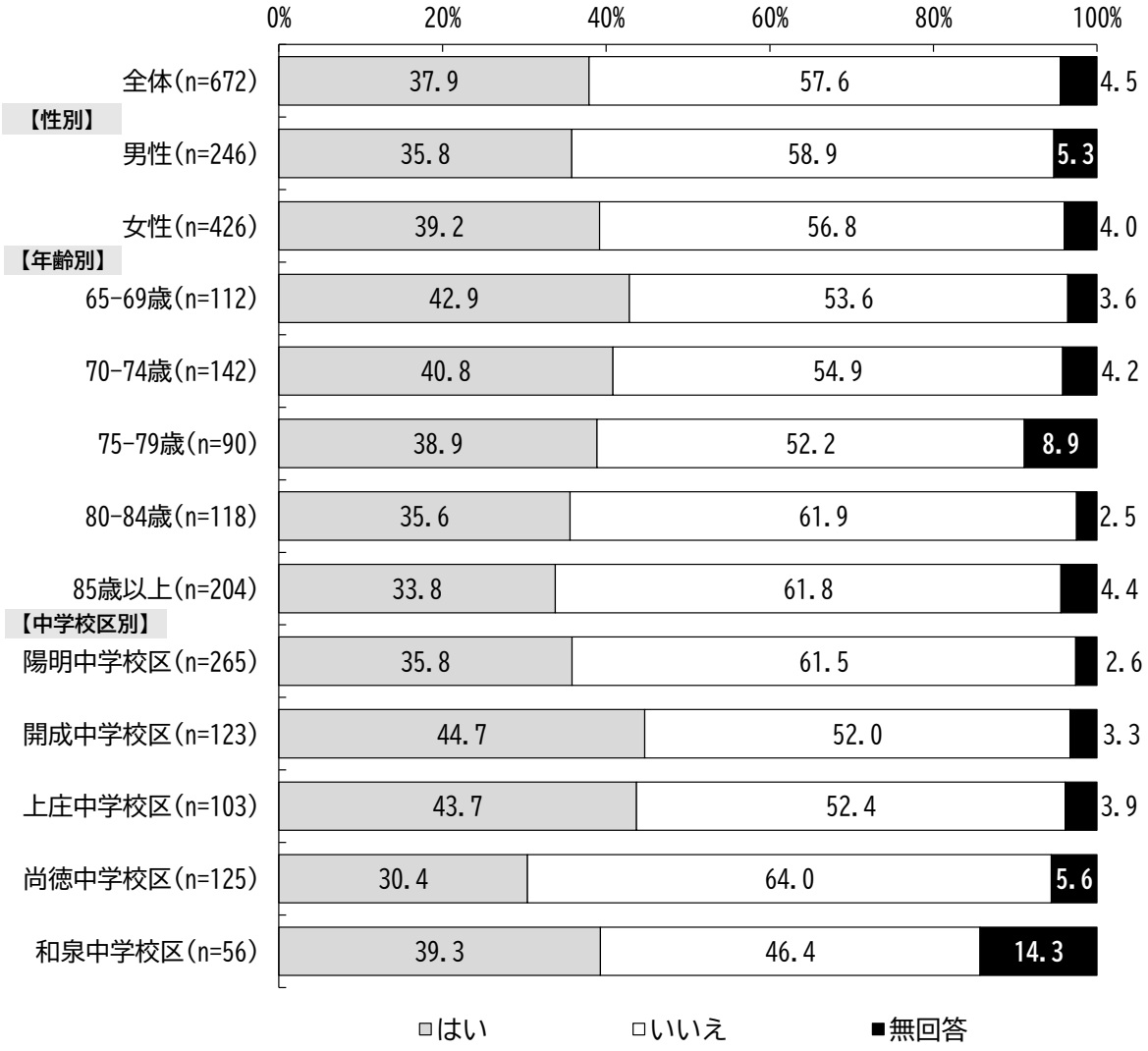
認知症についての相談窓口の認知度たずねたところ、「はい」（知っている）が37.9%、「いいえ」（知らない）が57.6%となっています。

「いいえ」（知らない）と回答する割合をみると、性別では大きな差はみられませんが、年齢別では85歳以上（61.8%）、中学校区別では尚徳中学校区（64.0%）で比較的多くなっています。

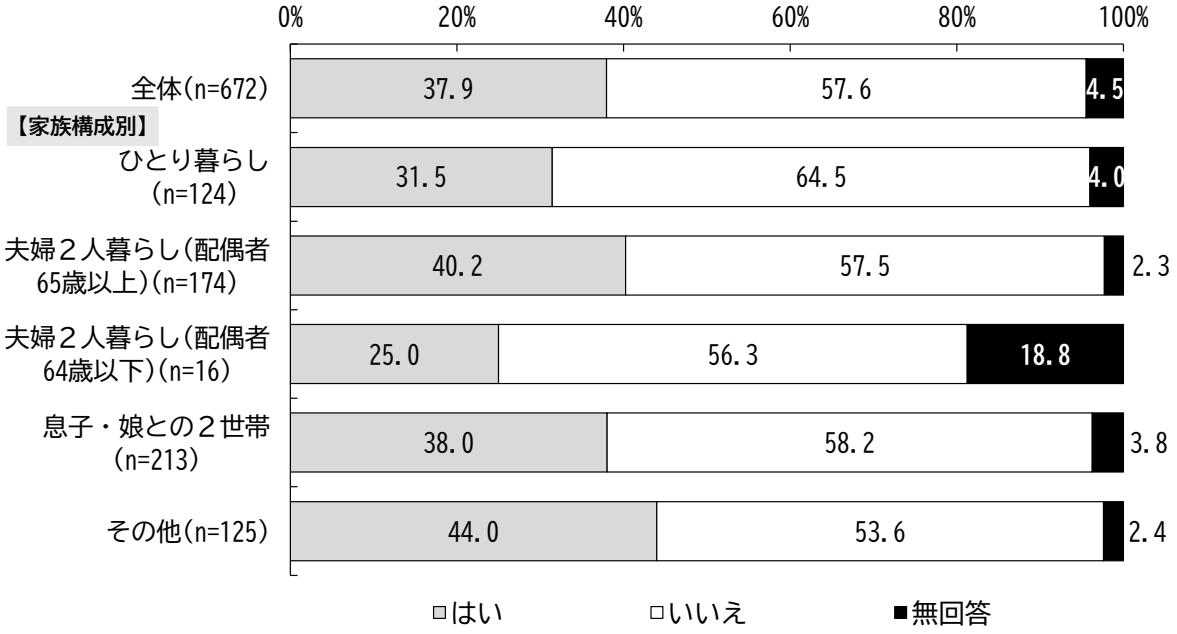
さらに、家族構成別で「いいえ」（知らない）と回答する割合をみると、ひとり暮らしで64.5%と多くなっています。

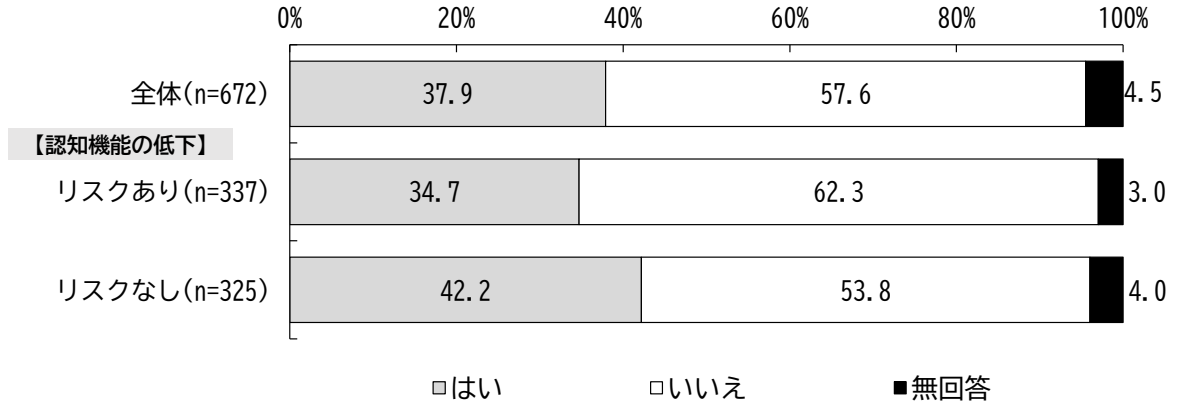
加えて、認知機能の低下について「リスクあり」と判定される方で「いいえ」（知らない）が 62.3%と６割を超え、「リスクなし」と判定される方の 53.8%を大きく上回ります。

認知症についての相談窓口の認知度（全体・性別・年齢別・中学校区別）



認知症についての相談窓口の認知度（全体・家族構成別）




認知症についての相談窓口の認知度（全体・認知機能の低下）